

北海道大学

総合博物館年報

平成 22(2010)・平成 23(2011)年度

北海道大学総合博物館年報 (平成22・23年版)

目 次

第1部 博物館の活動記録

I. 沿革	1
II. 組織	1
III. 学術標本・データベース	6
IV. 高等教育	25
V. 展示活動	27
VI. 社会教育・普及活動	33
VII. 各種協定締結状況	48
VIII. 刊行物等	48

第2部 博物館教員の活動記録 49

＜平成22・23年度の新聞報道記録＞	98
＜平成22・23年度の予算状況＞	100

第 1 部 博物館の活動記録

I. 沿革

北海道大学の前身、札幌農学校は 1876 年(明治 9 年)に開校した。その翌年にはクラーク博士が『札幌農学校第 1 年報』において、将来の自然史博物館の基礎が着々と出来つつあることを述べている。博士が去って 7 年後の 1884 年(明治 17 年)に札幌農学校は開拓使より植物園とともに園内の博物館を譲り受け、ここに附属博物館が実現した。

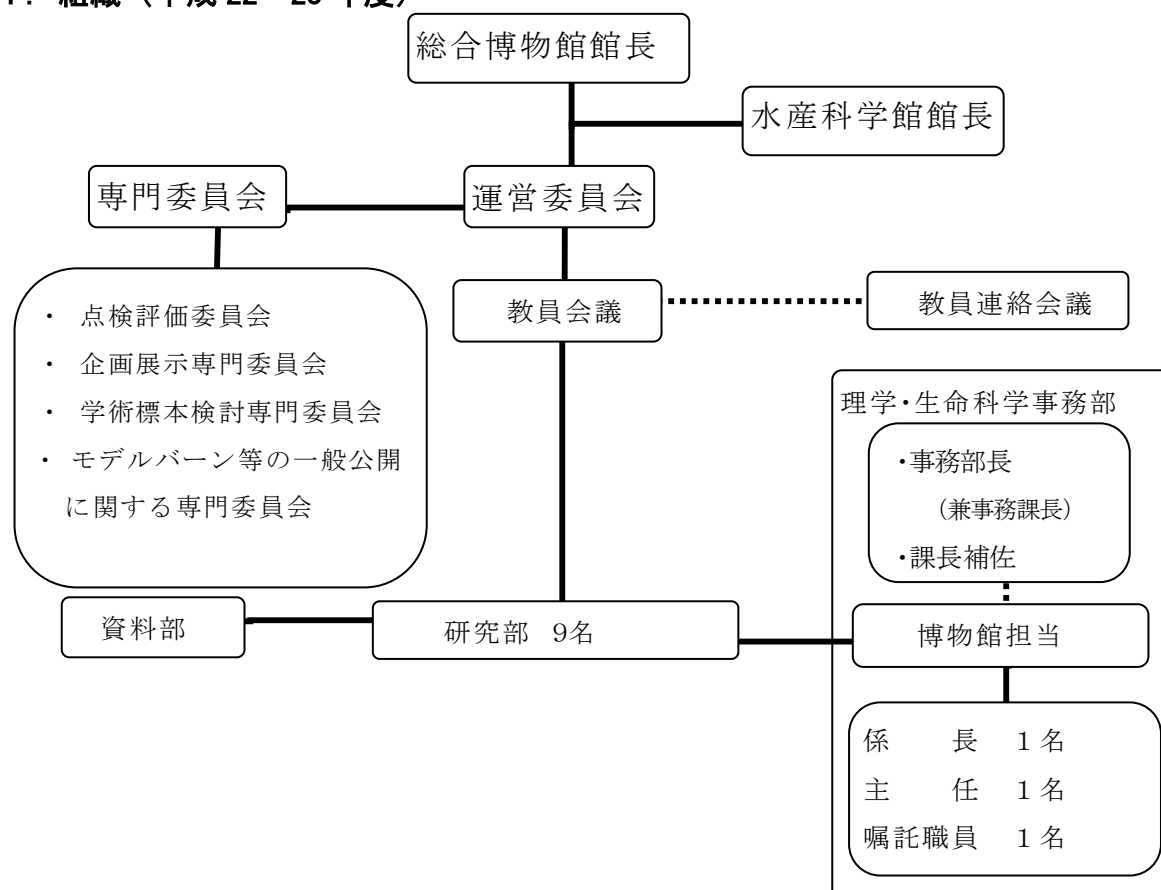
札幌農学校開校以来 135 年の研究成果として、現在 400 万点を越す学術標本が学内に所蔵され、その中には約 1 万 3 千点のタイプ標本が含まれている。

これら貴重な学術標本を良好な状態で集約管理し学内外に情報を発信するために、1966 年(昭和 41 年)から総合博物館設置が検討されてきた。理学部本館建物を総合博物館として再利用し、延べ約 9,000 m²の総合博物館にする構想がまとまり、1999 年(平成 11 年度)文部省より設置が認められた。2001 年(平成 13 年)には、本学創基 125 周年事業の一環として、第 1 期工事分 3,000 m²の改修が行われ公開展示が開始された。しかしながら引き続き第 2、第 3 期工事分 6,000 m²の改修工事は現在目途が立っていない。それに関わらず北大の教育・研究の成果を広く一般に公開する場として、また、貴重な学術標本を整理・保管し教育・研究に利活用する場として、総合博物館の役割はますます大きなものとなっている。

なお、2007 年(平成 19 年)には、水産科学研究院の水産資料館が、水産科学館として総合博物館の分館となった。

II. 組織

1. 組織(平成 22～23 年度)



2. 総合博物館運営委員会（平成22年4月1日～平成24年3月31日）

平成22（2010）年4月1日～23年3月31日				平成23（2011）年4月1日～24年3月31日			
総合博物館	館長	松枝 大治		総合博物館	館長	津曲 敏郎	
	副学長	岡田 尚武			副学長	山口 佳三	
附属図書館	館長	逸見 勝亮		附属図書館	館長	新田 孝彦	
大学院文学研究科	教授	津曲 敏郎		大学院文学研究科	教授	佐々木 亨	
大学院教育学研究院	教授	鈴木 敏正		大学院経済学研究科	教授	蟹江 章	
大学院地球環境科学研究院	教授	東 正剛		大学院獣医学研究科	教授	坪田 敏男	
大学院理学研究院	教授	堀口 健雄		大学院工学研究院	教授	但野 茂	
北方生物圏科学センター	教授	齋藤 隆		低温科学研究所	教授	古川 義純	
大学院薬学研究科	教授	有賀 寛芳		大学院歯学研究院	教授	川浪 雅光	
大学院保健科学研究院	教授	松野 一彦		遺伝子病制御研究所	教授	上出 利光	
低温科学研究所	教授	戸田 正憲		大学院理学研究院	教授	中川 光弘	
大学院水産科学研究院	教授	矢部 衛		大学院水産科学研究院	教授	矢部 衛	
総合博物館	教授	天野 哲也		総合博物館	教授	高橋 英樹	
総合博物館	教授	高橋 英樹		総合博物館	教授	大原 昌宏 (23.8.1～)	
総合博物館	准教授	大原 昌宏		総合博物館	特任教授	松枝 大治	
総合博物館	准教授	湯浅 万紀子		総合博物館	特任教授	天野 哲也	
総合博物館	准教授	小林 快次		総合博物館	准教授	湯浅 万紀子	
				総合博物館	准教授	小林 快次	

3. 総合博物館点検評価委員会（平成22年4月1日～平成24年3月31日）

平成22（2010）年4月1日～23年3月31日				平成23（2011）年4月1日～24年3月31日			
総合博物館	館長	松枝 大治		総合博物館	館長	津曲 敏郎	
低温科学研究所	教授	戸田 正憲		大学院理学研究院	教授	中川 光弘	
大学院文学研究科	教授	津曲 敏郎		大学院文学研究科	教授	佐々木 亨	
大学院理学研究院	教授	堀口 健雄		大学院歯学研究院	教授	川浪 雅光	
大学院保健科学研究院	教授	松野 一彦		総合博物館	教授	高橋 英樹	
総合博物館	教授	天野 哲也		総合博物館	教授	大原 昌宏 (23.8.1～)	
総合博物館	教授	高橋 英樹		総合博物館	特任教授	松枝 大治	
理学・生命科学事務部	事務部長	細野 正廣		総合博物館	特任教授	天野 哲也	
				理学・生命科学事務部	事務部長	細野 正廣	

4. 企画展示専門委員会（平成22年4月1日～平成24年3月31日）

（平成23年4月1日より展示専門委員会へ名称変更）

平成22（2010）年4月1日～23年3月31日				平成23（2011）年4月1日～24年3月31日			
大学院文学研究科	教授	佐々木 亨		大学院文学研究科	教授	佐々木 亨	
低温科学研究所	教授	戸田 正憲		大学院文学研究科	准教授	鈴木 幸人	
総合博物館	教授	天野 哲也		大学院理学研究院	教授	中川 光弘	
総合博物館	教授	松枝 大治		アイヌ先住民研究センター	准教授	山崎 幸治	
総合博物館	教授	高橋 英樹		総合博物館	教授	高橋 英樹	
総合博物館	准教授	大原 昌宏		総合博物館	教授	大原 昌宏 (23.8.1～)	
総合博物館	准教授	湯浅 万紀子		総合博物館	特任教授	松枝 大治	
総合博物館	准教授	小林 快次		総合博物館	特任教授	天野 哲也	
				総合博物館	准教授	湯浅 万紀子	
				総合博物館	准教授	小林 快次	

5. 学術標本検討専門委員会（平成22年4月1日～平成24年3月31日）

平成22（2010）年4月1日～23年3月31日

大学院文学研究科	教授	佐々木 亨
大学院農学研究院	准教授	吉澤 和徳
大学院医学研究科	教授	寺沢 浩一
大学院水産科学研究院	准教授	綿貫 豊
大学院地球環境科学研究院	教授	大原 雅
低温科学研究所	教授	戸田 正憲
総合博物館	教授	天野 哲也
総合博物館	教授	松枝 大治
総合博物館	教授	高橋 英樹
総合博物館	准教授	大原 昌宏
総合博物館	准教授	湯浅 万紀子
総合博物館	准教授	小林 快次
総合博物館	助教	阿部 剛史
総合博物館	助教	藤田 良治（22.8.1～）
総合博物館	助教	河合 俊郎

平成23（2011）年4月1日～24年3月31日

大学院文学研究科	教授	佐々木 亨
大学院農学研究院	准教授	吉澤 和徳
大学院理学研究院	教授	中川 光弘
大学院理学研究院	教授	杉山 滋郎
大学院理学研究院	准教授	柁原 宏
大学院医学研究科	教授	寺沢 浩一
大学院獣医学研究科	教授	坪田 敏男
大学院水産科学研究院	准教授	綿貫 豊
大学院地球環境科学研究院	教授	大原 雅
総合博物館	教授	高橋 英樹
総合博物館	教授	大原 昌宏（23.8.1～）
総合博物館	特任教授	松枝 大治
総合博物館	特任教授	天野 哲也
総合博物館	准教授	湯浅 万紀子
総合博物館	准教授	小林 快次
総合博物館	助教	阿部 剛史
総合博物館	助教	藤田 良治
総合博物館	助教	河合 俊郎

6. モデルバーン等の一般公開に関する専門委員会

（平成22年4月1日～平成24年3月31日）

（平成23年7月1日より札幌農学校第2農場の一般公開に関する専門委員会へ名称変更）

平成22（2010）年4月1日～23年3月31日

大学院文学研究科	教授	白木沢旭児
大学院工学研究院	助教	池上 重康
大学院農学研究院	教授	柴田 洋一 （22.8.1～）
大学院農学研究院	講師	中辻 浩喜
北方生物園フィールド科学センター	教授	近藤 誠司
低温科学研究所	教授	戸田 正憲
総合博物館	教授	天野 哲也
総合博物館	教授	松枝 大治
総合博物館	資料部研究員	高井 宗宏 （22.8.1～）
理学・生命科学事務部	事務部長	細野 正廣

平成23（2011）年4月1日～24年3月31日

大学院文学研究科	教授	白木沢旭児
大学院理学研究院	教授	中川 光弘
大学院工学研究院	助教	池上 重康
大学院農学研究院	教授	柴田 洋一
北方生物園フィールド科学センター	教授	近藤 誠司
総合博物館	教授	高橋 英樹
総合博物館	特任教授	松枝 大治
総合博物館	特任教授	天野 哲也
総合博物館	資料部研究員	高井 宗宏
理学・生命科学事務部	事務部長	細野 正廣
施設部環境配慮促進課課長		長井 一夫

7. 総合博物館水産科学館専門委員会

（平成22年4月1日～平成24年3月31日）

平成22（2010）年4月1日～23年3月31日

大学院水産科学研究院	教授	矢部 衛
総合博物館	教授	天野 哲也
総合博物館	助教	河合 俊郎
大学院水産科学研究院	准教授	綿貫 豊
大学院水産科学研究院	准教授	清水 晋
大学院水産科学研究院	准教授	東堂 孝
大学院水産科学研究院	准教授	水田 浩之
大学院水産科学研究院	准教授	岸村 栄毅
大学院水産科学研究院	准教授	山口 篤
大学院水産科学研究院	准教授	今村 央
大学院水産科学研究院	助教	李 大雄

平成23（2011）年4月1日～24年3月31日

大学院水産科学研究院	教授	矢部 衛
総合博物館	教授	高橋 英樹
総合博物館	助教	河合 俊郎
大学院水産科学研究院	准教授	綿貫 豊
大学院水産科学研究院	准教授	清水 晋
大学院水産科学研究院	准教授	東堂 孝
大学院水産科学研究院	准教授	水田 浩之
大学院水産科学研究院	准教授	岸村 栄毅
大学院水産科学研究院	准教授	山口 篤
大学院水産科学研究院	准教授	今村 央
大学院水産科学研究院	助教	李 大雄

8. 総合博物館研究部

平成 22(2010) 年度 (研究部長 天野哲也)

○資料基礎研究系

教 授 高橋 英樹 (植物体系学)
准教授 大原 昌宏 (昆虫体系学)
助 教 阿部 剛史 (海藻分類学)
助 教 河合 俊郎 (魚類分類学)

○資料開発研究系

教 授 松枝 大治 (鉱物・鉱床学)
教 授 天野 哲也 (考古学)
准教授 湯浅 万紀子 (博物館教育学)
准教授 小林 快次 (古生物学)

○博物館教育・メディア研究系

准教授 湯浅 万紀子 (博物館教育学) (兼務)
助 教 藤田 良治 (博物館映像学)
(22. 8. 1～)

平成 23(2011) 年度 (研究部長 高橋英樹)

○資料基礎研究系

教 授 高橋 英樹 (植物体系学)
教 授 大原 昌宏 (昆虫体系学) (23. 8. 1～)
助 教 阿部 剛史 (海藻分類学)
助 教 河合 俊郎 (魚類分類学)

○資料開発研究系

特任教授 松枝 大治 (鉱物・鉱床学)
特任教授 天野 哲也 (考古学)
准教授 湯浅 万紀子 (博物館教育学)
准教授 小林 快次 (古生物学)

○博物館教育・メディア研究系

准教授 湯浅 万紀子 (博物館教育学) (兼務)
助 教 藤田 良治 (博物館情報科学)

9. 資料部研究員

平成 22 (2010) 年度

大学院文学研究科	教授	佐々木 亨
大学院文学研究科	教授	佐藤 知己
大学院文学研究科	准教授	加藤 博文
大学院文学研究科	助教	高倉 純
大学院理学研究院	教授	堀口 健雄
大学院理学研究院	教授	Matthew H. Dick
大学院理学研究院	准教授	川村 信人
大学院理学研究院	准教授	小亀 一弘
大学院理学研究院	准教授	新井田清信
大学院理学研究院	准教授	増田 隆一
大学院理学研究院	講師	三浦 裕行
大学院理学研究院	講師	沢田 健
大学院理学研究院	助教	柁原 宏
大学院工学研究科	助教	池上 重康
大学院工学研究科	助教	小野 修司
大学院薬学研究院	教授	小林 淳一
大学院農学研究院	講師	中辻 浩喜
大学院農学研究院	助教	宮本 敏澄
大学院農学研究院	助教	吉澤 和徳
大学院水産科学研究院	教授	矢部 衛
大学院水産科学研究院	准教授	今村 央
大学院水産科学研究院	准教授	綿貫 豊
大学院地球環境科学研究院	教授	大原 雅
低温科学研究所	教授	戸田 正憲
低温科学研究所	教授	古川 義純
北方生物圏フィールド科学センター	教授	近藤 誠司
北方生物圏フィールド科学センター	助教	東 隆行
北方生物圏フィールド科学センター	助教	四ツ倉典滋
創成研究機構	准教授	Gautam Pitambar
埋蔵文化財調査室	特定専門職員	守屋 豊人
北海道教育大学	准教授	高久 元

平成 23 (2011) 年度

大学院文学研究科	教授	佐々木 亨
大学院文学研究科	教授	佐藤 知己
大学院文学研究科	助教	高倉 純
大学院理学研究院	教授	中川 光弘
大学院理学研究院	教授	堀口 健雄
大学院理学研究院	教授	Matthew H. Dick
大学院理学研究院	准教授	川村 信人
大学院理学研究院	准教授	小亀 一弘
大学院理学研究院	特任准教授	新井田清信
大学院理学研究院	准教授	増田 隆一
大学院理学研究院	講師	沢田 健
大学院理学研究院	准教授	柁原 宏
大学院工学研究科	助教	池上 重康
大学院工学研究科	助教	小野 修司
大学院薬学研究院	助教	田中 直伸
大学院農学研究院	助教	宮本 敏澄
大学院農学研究院	准教授	吉澤 和徳
大学院水産科学研究院	教授	矢部 衛
大学院水産科学研究院	准教授	今村 央
大学院水産科学研究院	准教授	綿貫 豊
大学院地球環境科学研究院	教授	大原 雅
低温科学研究所	教授	戸田 正憲
低温科学研究所	教授	古川 義純
北方生物圏フィールド科学センター	教授	近藤 誠司
北方生物圏フィールド科学センター	助教	東 隆行
北方生物圏フィールド科学センター	助教	四ツ倉典滋
創成研究機構	准教授	Gautam Pitambar
アイヌ・先住民研究センター	教授	加藤 博文
埋蔵文化財調査室	特定専門職員	守屋 豊人
北海道教育大学	准教授	高久 元
帯広百年記念館	学芸調査員	持田 誠

九州大学工学院		高橋 亮平	秋田大学工学資源学部	助教	高橋 亮平
北海道大学	名誉教授	大泰司紀之	北海道大学	名誉教授	大泰司紀之
北海道大学	名誉教授	加藤 誠	北海道大学	名誉教授	小笠原正明
北海道大学	名誉教授	小泉 格	北海道大学	名誉教授	加藤 誠
北海道大学	名誉教授	小林 英嗣	北海道大学	名誉教授	末永 義圓
北海道大学	名誉教授	末永 義圓	北海道大学	名誉教授	諏訪 正明
北海道大学	名誉教授	諏訪 正明	北海道大学	名誉教授	仲谷 一宏
北海道大学	名誉教授	仲谷 一宏	北海道大学	名誉教授	藤田 正一
北海道大学	名誉教授	藤田 正一	北海道大学	名誉教授	前川 光司
北海道大学	名誉教授	前川 光司	北海道大学	名誉教授	増田 道夫
北海道大学	名誉教授	増田 道夫	北海道大学	名誉教授	馬渡 駿介
北海道大学	名誉教授	馬渡 駿介	北海道大学	名誉教授	吉田 忠生
北海道大学	名誉教授	吉田 忠生	本学退職教員		在田 一則
本学退職教員		阿部 永	本学退職教員		高井 宗宏
本学退職教員		在田 一則	本学退職教員		山本 玉樹
本学退職教員		高井 宗宏	総合博物館		伊藤 誠夫
本学退職教員		箕浦名知男	総合博物館		稲荷 尚記
本学退職教員		山本 玉樹	総合博物館		越前谷 宏紀
総合博物館		伊藤 誠夫	総合博物館		岡田 大岬
総合博物館		稲荷 尚記	総合博物館		小林 孝人
総合博物館		越前谷 宏紀	総合博物館		小林 憲生
総合博物館		岡田 大岬	総合博物館		小俣 友輝
総合博物館		小林 孝人			
総合博物館		小林 憲生			
総合博物館		小俣 友輝			
総合博物館		持田 誠			

10. 客員教授・外国人研究員（平成22～23年度在任）

- 平成22年2月15日～平成22年5月15日・特任教授
Grabovskaya Alisa Evgenievna（植物体系学・植物科学史研究）
（ロシア・科学アカデミーコマロフ植物学研究所）
- 平成22年5月10日～平成22年8月9日・特任教授
Klochko Nina Grigorievna（海藻系統分類学）（ロシア・カムチャッカ国立技術大学）
- 平成22年6月12日～平成22年9月11日・特任教授
Borg Gregor（鉱床学）（ドイツ・マルティンルーテル大学）
- 平成23年7月1日～平成23年9月30日・特任教授
Sri Hartini（昆虫分類学）（インドネシア・科学省生物研究センター）
- 平成24年1月1日～平成24年3月31日・特任教授
Mega Fatimah Rosana（鉱床学・岩石学）（インドネシア・Padjaran 大学）
- 平成24年1月5日～平成24年3月27日・特任教授
Martin Fellows Gomon（魚類分類学）（オーストラリア・ビクトリア博物館）
- 平成24年2月20日～平成24年5月19日・特任教授
Svetlana Ivanovna Chabanenko（地衣類分類学・分類地理学）
（ロシア・科学アカデミー極東支部サハリン植物園）

11. 国内研究員（平成22～23年度在任）

富田武照（魚類形態学）（日本学術振興会・博士研究員）

Ⅲ. 学術標本・データベース

1. 陸上植物標本コレクション (SAPS)

【利活用】

北大総合博物館植物標本庫利用者数(人・日)記録

年度	学内	学外	総計
2010	2	41	43
2011	11	36	47

標本庫は学内の学生・院生によって日常的に利用されており、「学内」とした記録はゲストブックに記録されている者のみで実際の利用者の一部である。

1-1) 標本庫利用者記録(学外者のみ:2010-2011 年度)

2010. 4. 5.	中川博之、(株)エコニクス、シダ類、スゲ属など.
2010. 4. 5.	嶋崎太郎、(株)エコニクス、シダ類、スゲ属など.
2010. 4. 8.	笈田一子、北海道植物友の会、スゲ属など.
2010. 4. 9.	丸山まさみ、植物研究家、十勝産標本.
2010. 4. 14-15.	丸山まさみ、植物研究家、十勝産標本.
2010. 4. 20-21.	丸山まさみ、植物研究家、十勝産標本.
2010. 6. 29.	新田紀敏、道庁、カムイコザクラ.
2010. 7. 12.	内田暁、斜里町立知床博物館、 <i>Glyceria</i> , <i>Neottia</i> .
2010. 8. 12.	梅沢俊、植物写真家、トウヒレン属.
2010. 9. 8.	中山祐一郎、大阪府立大学理学部、 <i>Aster</i> .
2010. 9. 8.	西野貴子、大阪府立大学理学部、 <i>Persicaria</i> .
2010. 9. 9-10.	田中徳久、神奈川県立生命の星・地球博物館、キスミレなど.
2010. 9. 24.	小森晴香、京都大学理学研究科、セリ科.
2010. 9. 29.	小森晴香、京都大学理学研究科、セリ科.
2010. 10. 27.	志田祐一郎、野生生物総合研究所、ミズニラなど.
2010. 10. 29.	辻本恵、国立極地研究所、 <i>Puccinellia</i> .
2010. 11. 2.	高嶋八千代、釧路市植物研究家、スミレ科など.
2010. 12. 17.	藤田玲、草花堂、スゲ属.
2010. 12. 21.	高嶋八千代、釧路市植物研究家、シソ科.
2010. 12. 27.	河原孝行、森林総研北海道、バラ科.
2011. 1. 30.	宮本誠一郎、レブンクル自然館、ツマトリソウなど.
2011. 2. 18.	森永真一、東京大学総合文化学部、アブラナ科.
2011. 2. 23.	内田暁友、斜里町立知床博物館、 <i>Polypodium</i> .
2011. 3. 6-9.	竹原明秀、岩手大学、カヤツリグサ科.
2011. 3. 7.	森長真一、東京大学総合文化学部、アブラナ科.
2011. 3. 8-12.	門田裕一、国立科学博物館、キク科.
2011. 3. 12.	志賀隆、大阪市立自然史博物館、オモダカ科など.
2011. 3. 12.	横川昌史、京都大学農学研究科、ハナシノブ科.
2011. 3. 28.	堀江健二、旭川市北邦野草園、イラクサ科など.
2011. 3. 28-29.	高嶋八千代、釧路市植物研究家、キク科.
2011. 4. 12.	丸山まさみ、植物研究家、キンポウゲ科.
2011. 5. 7.	持田誠、帯広百年記念館、ヤナギ科など.
2011. 6. 21.	梅沢俊、植物写真家、シダ類.
2011. 7. 6.	橋本光政、兵庫県姫路市植物研究家、マンサクなど.
2011. 7. 6.	宇那木隆、賢明女子学院、マンサクなど.
2011. 7. 14.	坂田ゆず、京都大学農学研究科、キク科.
2011. 7. 13.	勝山輝男、神奈川県立生命の星・地球博物館、スゲ属.
2011. 7. 22.	Laurence Hill、英国植物研究家、 <i>Fritillaria</i> .
2011. 9. 12.	松田陽介、三重大学、 <i>Pyrola</i> .

2011. 9. 29. 丸山まさみ、植物研究家、単子葉類。
 2011. 10. 6. 森永真一、東京大学総合文化学部、アブラナ科。
 2011. 10. 11. 堀江健二、旭川市北邦野草園、イラクサ科など。
 2011. 10. 31. 池谷裕幸、農研機構果樹研究所、バラ科。
 2011. 11. 16. 宮本誠一郎、レブングル写真事務所、シダ類など。
 2011. 11. 22-23. 宮本太、東京農業大学農学部、ツツジ科・イグサ科。
 2011. 11. 22-23. 境野圭吾、東京農業大学農学部、ツツジ科・イグサ科。
 2011. 11. 28-29. 高嶋八千代、釧路市植物研究家、エゾゴゼンタチバナ。
 2012. 2. 9. Byoungyoun Lee, NIBP, Korea, *Angelica*.
 2012. 2. 21-24. 門田裕一、国立科学博物館、*Cirsium*, *Draba*.
 2012. 2. 22. 五十嵐博、北海道野生植物研究所、マメ科。
 2012. 2. 26. 平林結実、美幌博物館。
 2012. 2. 27. 佐々木長市、弘前大学白神自然環境研究所。
 2012. 2. 27. 山岸洋貴、弘前大学白神自然環境研究所。
 2012. 2. 27. 石川幸男、弘前大学白神自然環境研究所。
 2012. 3. 2. Karen Searcy, University of Amherst, Clark specimens.
 2012. 3. 2. David Boufford, Harvard University Herbaria, Clark specimens.
 2012. 3. 21. 初宿成彦、大阪市立自然史博物館、*Picea*.
 2012. 3. 26. 内田暁友、斜里町立知床博物館、知床半島産植物。
 2012. 3. 26. 浅沼孝夫、ククマシステムデザイン、知床半島産植物。
 2012. 3. 27. 堀江健二、旭川市北邦野草園、*Draba* など。

1-2) 貸出・送付標本記録 (2010-2011 年度)

2010. 7. 11-: (研究用貸出) 日本固有種 119 点 (国立科学博物館 海老原淳)
 2010. 11. 20-: (展示用貸出) 神奈川関連標本 6 点 (神奈川県立生命の星・地球博物館 田中徳久)
 2011. 2. 14-: (研究用貸出) チシマドジョウツナギ属標本 79 点 (国立極地研究所 伊村智)
 2011. 6. 7-: (研究用貸出) *Centipeda* 標本 38 点 (福井県立大学 赤井賢成)
 2011. 8. 23-: (同定依頼送付) *Poa* 標本 73 点 (桜美林大学 木場英久)
 2011. 8. 29-: (研究用貸出) *Callianthemum* 標本 61 点 (University Zurich, Reto Nyffeler)
 2012. 3. 12: (研究用貸出) *Angelica* 標本 7 点 (NIBP, Korea, Byoung Yoon Lee)

1-3) 受領標本記録 (2010-2011 年度)

2010. 6. 24: 国立科学博物館 (TNS) より 館岡博士採集イネ科植物標本 841 点寄贈
 2010. 11. 18: 福井総合植物園 (FUK) より 維管束植物標本 45 点寄贈
 2010. 12. 24: 大阪市立自然史博物館 (OSA) より 近畿地方産 200 点交換標本
 2011. 6. 9: パシフィックコンサルタンツより植物標本 201 点寄贈
 2011. 6. 18: 福岡県古賀佳好氏より 維管束植物標本 220 点寄贈
 2011 年度: 遠軽町林廣志氏より 町自生標本 817 点寄贈

1-4) SAPS 標本が引用された主な論文 (2010-2011)

(2010 年)

1. A cultivated poppy (*Papaver* sp.) invades wild habitats of *Papaver fauriei* in the mountain area of Rishiri Island, Japan. Yamagishi, M., Yoshida, E., Aikoh, T., Kondo, T. and H. Takahashi. Landscape Ecol. Eng. **6**: 155-159, 2010
2. A natural hybrid between *Carex curvicolis* and *C. forficula* (Cyperaceae), and the lectotypification of *C. ×musashiensis*. Nagamasu, H. and S. Kinoshita. J. Jpn. Bot. **85**: 297-302. 2010
3. Identity of *Lespedeza bicolor* Turcz. f. *albiflora* Matsum. (Leguminosae). Ohashi, H. and K. Ohashi. J. Jpn. Bot. **85**: 322-330. 2010

(2011 年)

4. Typification of *Acer miyabei* Maxim. (Aceraceae). Takahashi, H. and A. Grabovskaya-Borodina. J. Jpn. Bot. **86**: 367-370, 2011
5. 北海道北部猿払川中流域における遺存種ムセンズゲが生育する湿原の植生と微地形. 加藤ゆき恵・富士田裕子・井上京. 植生学会誌 **28**: 19-37, 2011

6. 北海道におけるムセンスゲ *Carex livida* (Wahlenb.) Willd. の初発見地の検討と秋山茂雄博士による大雪山調査の足跡. 加藤ゆき恵. 莎草研究 (16): 1-22, 2011
7. 北海道北東部, 遠軽町周辺のシダ植物組成—ヤマヒメワラビの北海道と長野県との隔離分布. 佐藤利幸・内田暁友・林倫子・林秀明・尾鼻陽介・林廣志. 知床博物館研究報告 (32): 9-18, 2011
8. 北海道然別湖におけるカラフトグワイの現状. 丸山まさみ・山崎真実. 水草研究会誌 (96): 1-7, 2011
9. ソラチコザクラの北海道分布. 五十嵐博. 北方山草 (28): 19-21, 2011
10. 利尻島におけるウスバスミレの記録. 佐藤雅彦・五十嵐博. 利尻研究 (30): 31-33, 2011

2. 菌類標本コレクション (SAPA)

【利活用】

2-1) 標本庫利用者記録 (2010-2011 年度)

2010. 5. 25	河原一栄	藻岩山きのこ会
2010. 8. 18	佐塚志保	カナダ・トロント大学人類学科
2010. 9. 4	内山晋吾	博物館実習
2010. 9. 4	小林彩花	博物館実習
2010. 9. 4	飯塚留美	博物館実習
2010. 9. 4	浜野由香里	博物館実習
2010. 9. 4	池ノ谷重男	博物館実習
2010. 9. 4	早川あゆみ	博物館実習
2010. 9. 4	西村和也	博物館実習
2010. 9. 4	片桐三春	博物館実習
2010. 9. 4	高橋さゆり	博物館実習
2010. 9. 4	佐々木幸枝	博物館実習
2010. 9. 4	山下亮三郎	博物館実習
2010. 9. 4	山下千尋	博物館実習
2010. 9. 4	田中彩	博物館実習
2010. 9. 4	田崎保明	博物館実習
2010. 12. 9	本間義久	北海道キノコの会
2011. 1. 24	大山寿一	北海道キノコの会
2011. 3. 10	保坂健太郎	国立科学博物館
2011. 4. 20	草嶋乃美	北海道大学総合博物館研究支援推進委員
2011. 5. 26	亀谷高広	鳥取大学農学部
2011. 5. 26	北原涼子	北海道大学農学部
2011. 9. 8	山岡裕一	筑波大学
2011. 10. 18	五十嵐幸一	倶知安風土館
2011. 10. 26	北原涼子	北海道大学農学部
2012. 1. 13	宮本哲楨	北海道大学医学部医学科1年
2012. 3. 26	伊東義征	札幌大谷大学

2-2) SAPA 標本が引用された主な論文 (2010-2011 年)

(2010 年)

1. 大山寿一. 2010. 江別市野幌森林公園で採集したキシメジ科(Trichoromataceae)オオイチョウタケ属菌 (*Leucopaxillus* Boursier) の2種について. 北海道きのこの会会報 **51**: 17-19.
2. Kobayashi T & Onishi S. 2010. *Inocybe sericella*, a new species of *Inocybe* sect. *Inocybe* [= *Cortinatae*] from Kobe, Japan. Nova Hedwigia **90**: 227-232.
3. 小林孝人. 2010. 日本新産種 *Cortinariarius rigidus* について. 日本菌学会会報 **51**: 68-70.
4. 小林孝人. 2010. 旭山記念公園で採集されたコツブタケについて. 藻岩山きのこ観察会会報誌, **7**: 8.
5. 小林孝人・星野保. 2010. 北海道で採取されたアセタケ属の一日本未報告種について. 日本菌学会 50 回大会講演要旨集. 東京

6. 星野保・糟谷大河・竹橋誠司・内田暁友. 2010. 道東にて新たに採集されたスナハマガマノホタケ (担子菌類) の菌核. 知床博物館研究報告 31: 1-4.

(2011年)

7. 小林孝人 (2011) 日本のきのこ増補改訂版(今関六也, 本郷次雄, 大谷吉雄編)、山と溪谷社, 東京, ウラベニガサ科, アセタケ科, ケコガサタケ属を担当。
8. 中井実(2011)チャヒラタケ属 (*Crepidotus*) マルミノチャヒラタケ節 (Section *Echinospori*) ヒロハチャヒラタケ *Crepidotus malachius* の観察. 日本菌学会ニュースレター2011-2(3月):1-2.
9. Kobayashi, T. & Hoshino, T. 2011. Some new taxa or new records of *Inocybe* from Hokkaido, Japan. IUMS ポスター・セッション要旨
10. 小林孝人. 2011 旭山記念公園のセイウタマゴタケ. 藻岩山きのこ観察会会報誌, 8: 8.

2-3) 受領標本記録 (2010-2011 年度)

(2010年度)

オオイチョウタケ属菌 (*Leucopaxillus* Boursier) 2 点. 大山寿一氏寄託, 大山寿一 (2010) 引用標本.

(2011年度)

ヒロハチャヒラタケ *Crepidotus malachius* の乾燥標本 1 点寄託. 中井実(2011) 引用標本.

- ・ 筑波大学からサビキン標本返却 柿島眞先生 296種類
- ・ 筑波大学からチャヒラタケ属菌標本返却 糟谷大河様 約10点

3. 海藻標本コレクション (SAP)

【利活用】

3-1) 標本閲覧 (2010-2011年度)

2010年度 学内1件 学外11件 国外4件 計16件

2011年度 学内0件 学外4件 国外3件 計7件

*学内の藻類関連研究室の教員・学生による利用は日常的に行われており、上記記録には含まれない。

2010. 04. 26	畠田智、お茶の水女子大学
2010. 05. 20	Klochkova, N.G., State Technical University, Russia
2010. 05. 29	栗原暁、神戸大学
2010. 06. 01	宮田昌彦、千葉県立中央博物館
2010. 07. 04-10	Xiaotian HAN, Institute of Oceanology, Chinese Academy of Science, China
2010. 07. 04-10	Minhthanh Thi NGUYEN, Institute of Biotechnology, Vietnamese Academy of Science and Technology, Vietnam
2010. 08. 06	鈴木雅大、都留文科大学
2010. 09. 22	北山太樹、国立科学博物館
2010. 10. 01	藤川義一、青森県産業技術センター水産総合研究所
2010. 10. 20	川井浩史、神戸大学
2010. 11. 11	宮田昌彦、千葉県立中央博物館
2010. 11. 18	栗林貴範、北海道立総合研究機構水産研究本部中央水産試験場
2010. 12. 03	馬原保典、京都大学
2010. 12. 20	栗林貴範、北海道立総合研究機構水産研究本部中央水産試験場
2011. 01. 20	野矢洋一、北海道大学アイソトープ総合センター
2011. 02. 18-21	Myung Sook Kim and Mi Yeon Yang, Jeju National University, Korea
2011. 04. 18	Klochkova, T.A., Kongju National University, Korea
2011. 06. 18	市原健介、東邦大学
2011. 06. 19	栗原暁、神戸大学
2011. 11. 04-11	栗林貴範、北海道立総合研究機構水産研究本部中央水産試験場
2011. 12. 05-09	Sze Wan Poong, University of Malaya, Malaysia
2011. 12. 05-09	Tsz Yan Ng, The Chinese University of Hong Kong, China

2012. 03. 09-12 栗林貴範、北海道立総合研究機構水産研究本部中央水産試験場

3-2) 標本貸出 (2010-2011年度)

2010年度 件数6件 標本数155点

2011年度 件数5件 標本数111点

(内訳)

- | | | |
|----------------|-------|--|
| 2010. 06. 01- | (展示用) | 宮田昌彦 (千葉県立中央博物館) 宮部コレクション (3 sheets) |
| 2010. 06. 21- | (研究用) | 宮田昌彦 (千葉県立中央博物館) <i>Congregatocarpus pacificus</i> (2 sheets) |
| 2010. 07. 08 - | (研究用) | 鳶田智 (お茶の水女子大学) <i>Prionitis cornea</i> (2 sheets) |
| 2010. 07. 29 - | (研究用) | 羽生田岳昭 (神戸大学) <i>Sargassum muticum</i> (29 sheets) |
| 2010. 09. 21 - | (研究用) | 鳶田智 (お茶の水女子大学) <i>Grateloupia elliptica</i> 他 (7 sheets) |
| 2010. 11. 15 - | (展示用) | 野別貴博 (知床財団) 海藻相調査証拠標本 (112 sheets) |
| 2011. 06. 20 - | (研究用) | 鳶田智 (お茶の水女子大学) <i>Chondrus verrucosus</i> (2 sheets including Type) |
| 2011. 06. 20 - | (研究用) | 宮地和幸 (東邦大学) <i>Rhizoclonium tokyoensis</i> (42 sheets) |
| 2011. 10. 11 - | (研究用) | Ga Youn Cho (National Institute of Biological Resources, Korea) <i>Prasiola formosana</i> var. <i>coreana</i> (Holotype) |
| 2012. 01. 13 - | (研究用) | Gary Saunders <i>Cirrulicarpus gmelini</i> (3 sheets) |
| 2012. 02. 16 - | (研究用) | 鳶田智 (お茶の水女子大学) <i>Porphyra tenera</i> 他 (63 sheets) |

3-3) SAP標本が引用された主な論文 (国際誌のみ: 2010-2011年)

〈2010年〉

1. Morphology and molecular relationships of *Leptofauchea rhodymenioides* (Rhodymeniales, Rhodophyta), a new record for Japan. Masahiro Suzuki, Tetsuo Hashimoto, Takeshi Nakayama and Makoto Yoshizaki. Phycological Research **58**(2): 116-131.
2. Four new species of *Padina* (Dictyotales, Phaeophyceae) from the western Pacific Ocean, and reinstatement of *Padina japonica*. Ni-Ni-Win, Takeaki Hanyuda, Shogo Arai, Masayuki Uchimura, Anchana Prathep, Stefano G. A. Draisma, Soe-Htun, and Hiroshi Kawai. Phycologia **49**(2): 136-153.
3. *Porphyra migatae* sp. nov. (Bangiales, Rhodophyta) from Japan. Norio Kikuchi, Shogo Arai, Goro Yoshida, Jong-Ahm Shin, Judy E. Broom, Wendy A. Nelson and Masahiko Miyata. Phycologia **49**(4): 345-354.

〈2011年〉

4. *Porphyrostromium japonicum* (Tokida) Kikuchi comb. nov. (Erythropeltidales, Rhodophyta) from Japan. Norio Kikuchi and Jong-Ahm Shin. Phycologia **50**(2): 122-131.
5. Systematic revision of the genera *Liagora* and *Izziella* (Liagoraceae, Rhodophyta) from Taiwan based on molecular analyses and carposporophyte development, with the description of two new species. Showe-Mei Lin, Shi-Yuan Yang and John M. Huisman. Journal of Phycology **47**(2): 352-365.
6. A new look at an ancient order: generic revision of the Bangiales (Rhodophyta). Judith E. Sutherland, Sandra C. Lindstrom, Wendy A. Nelson, Juliet Brodie, Michael D. J. Lynch, Mi Sook Hwang, Han-Gu Choi, Masahiko Miyata, Norio Kikuchi, Mariana C. Oliveira, Tracy Farr, Chris Neefus, Agnes Mols-Mortensen, Daniela Milstein and Kirsten M. Müller. Journal of Phycology **47**(5): 1131-1151.
7. A taxonomic study of the genus *Padina* (Dictyotales, Phaeophyceae) including the descriptions of four new species from Japan, Hawaii, and the Andaman Sea. Ni-Ni-Win, Takeaki Hanyuda, Shogo Arai, Masayuki Uchimura, Anchana Prathep, Stefano G. A. Draisma, Siew Moi Phang, Isabella A. Abbott, Alan J. K. Millar and Hiroshi Kawai. Journal of Phycology **47**(5): 1193-1209.
8. *Petalonia tatewakii* sp. nov. (Scytosiphonaceae, Phaeophyceae) from the Hawaiian Islands. Kazuhiro Kogame, Akira Kurihara, Ga Youn Cho, Kyung Min Lee, Alison R. Sherwood and Sung Min Boo. Phycologia **50**(5): 563-573.

4. 昆虫標本コレクション (SEHU)

【利活用】

年度 学外 学内

2010年 9 92

2011年 16 92

標本室に出入りする際に、必ずノートへ記帳することを義務づけているが、記録がなされないことも多々ある。「学外」は来館研究者に記帳してもらったもの。「学内」は関係者が標本整理などに入室した際に記帳したもの。

4-1) 貸出記録 (日付・貸出者住所または所属・氏名・分類群) (2010-2011年)

(2010年度) 23件

- 2010.1.7 / 西宮市神原 10-10-2-3 / 塚口茂彦 / Neuroptera: Psychopsidae
2010.1.8 / Sandvedhagen 8, NO-4318 Sandnes Norway / Tore Nielsen / Diptera: Syrphidae
2010.1.13 / Natural History Museum University of Kansas / Michael Engel / Apoidea: Halictidae
2010.1.14 / Museum of Zoology, Lund University Helgonavagen 3, S-223 62 Lund, Sweden / J. Kjaerandsen / Diptera: Bolitophilidae, Diadocidiidae, Lygistorrhinidae, Mycetophilidae
2010.1.14 / 愛媛大学農学部昆虫学教室/吉富博之 / Coleoptera: Scirtidae
2010.2.13 / 小田原市蓮正寺/平野幸彦 / Coleoptera: Bihyllidae
2010.2.19 / Darwingweg 2, 2333 CR Leiden, Netherlands / Prof. Dr. Ing. C. van Achterberg / Hymenoptera: Stephanidae
2010.2.28 / Museum fur Naturkunde Berlin Abteilung fur Sammlungen (Entomologie) Invalidenstr, 43 D-10115 Berlin, Germany / Bernald Jaeger / Coleoptera: Carabidae
2010.2.28 / 愛媛大学 農学部 昆虫学教室/吉富博之 / Coleoptera: マルハナノミ科、チビドロムシ科、ナガハナノミ科
2010.3.3 / Seoul National University, Korea / Lee Seung Hwan / Hemiptera: Aphids
2010.3.16 / Sandvedhagen 8, NO-4318 Sandnes, Norway / Tore Nielsen / Diptera: Syrphidae
2010.3.16 / 首都大学東京 / Xingyue Liu (c/o 林文男) / Megaloptera
2010.7.2 / 愛媛大学農学部環境昆虫学教室/酒井 雅博 (林 尚希) / Coleoptera: Melyridae
2010.8.3 / 横浜市港北区篠原町1249-8 / 井村有希 / コウチュウ目オサムシ科
2010.9.3 / 九州大学博物館/丸山宗利/双翅目 ハナアブ科
2010.9.26 / Universitaet Wuerzburg, Biozentrum - am Hubland, D-97074 Wuerzburg, Germany / Dr. K. Horstmann / Hymenoptera: Ichneumonidae
2010.9.27 / 九州大学総合研究博物館 / 丸山宗利 / Diptera: Syrphidae
2010.10.29 / 長野県波田町下島9555-3 / 平野長男 / Lepidoptera: Nepticulidae
2010.10.29 / 山口県農林総合技術センター/東浦 祥光 / Hymenoptera: Encyrtidae
2010.10.29 / 九州大学大学院農学院昆虫学教室/多田内 修 (松尾 和典) / Hymenoptera: Torymidae
2010.10.29 / (株)環境指標生物/新里達也 / Coleoptera: Cerambycidae
2010.10.29 / 三浦市南下浦町上宮田1334-444 / 大林 延夫 / Coleoptera: Cerambycidae
2010.11.2 / Natural History Museum, Cromwell Road, London SW7 5BD UK / Paul H. Williams / Hymenoptera: Bumble bee
2010.12.11 / 大阪市豊能群豊能町光風台5丁目3-5 / 安藤清志 / Coleoptera: Tenebrionidae

(2011年度) 14件

- 2011.1.16 / Naturkundemuseum Erfurt GroBe Arche 14, 99084 Erfurt, Germany / Dr. Andreas Kopetz / Coleoptera: Cantharidae
2011.2.3 / 埼玉大学/林正美 / Hemiptera: ミズムシ科, アオバハゴロモ科, ヨコバイ科, ヒラタヨコバイ亜科
2011.2.3 / Zoological Institute of Russian Academy of Science, Universitetskaya emb., 1, St. -Petersburg 199034, RUSSIA / Dr. Sergey A. BELOKOBILSKI / HYMENOPTERA: KOBACH
2011.2.14 / 福岡市南区長住7-21-4 / 三枝豊平 / Diptera Empididae

2011. 2. 17 /九州大学昆虫学教室/紙谷聡志/ Hemiptera: Leafhoppe
 2011. 4. 14 / Yeungnam University, Gyeongsan, 712-749, Korea / Jong-Wook Lee / Hymenoptera: Stephanidae
 2011. 4. 14 / NIBR, Incheon 404-708, Republic of Korea / Choi, Jin-Kyung / Hymenoptera: Ichneumonidae
 2011. 5. 25 / Swedish Museum of Natural History, Department of Entomology Box 50007, S-104 05 Stockholm / Seraina Klopstein / Hymenoptera: Ichneumonidae
 2011. 5. 25 / Department of Terrestrial Zoology, Netherlands Centre of Biodiversity Naturalis, Postbus 9517, 2300 RA Leiden, Netherlands / Cees van Achterberg / Hymenoptera: Braconidae
 2011. 5. 30 / 鹿児島大学農学部害虫学研究室/坂巻祥孝/ Lepidoptera: Gelechiidae
 2011. 6. 13 / 森林総合研究所九州支所/末吉昌宏/ Diptera: Mycetophilidae キノコバエ科
 2011. 6. 20 / 農業環境技術研究所 / 安田耕司 / Lepidoptera (microlepidoptera) Stathmopodidae
 2011. 6. 21 / 大阪市吹田市元町32-3 ディアス元町201 / 杉島一広 / Lepidoptera: Gelechioidea
 2011. 7. 31 / 墨田区亀沢3丁目14-13-1001 / 益本仁雄 / Coleoptera: Tenebrionidae (Alleculidae)
 2011. 10. 17 / 千葉県博 / 倉西良一 / Trichoptera

4-2) SEHU標本が引用された主な論文

(2010 年)

1. Yoshimura, M., Onoyama, K. & Ogata, K., 2007. The ants of the genus *Odontomachus* (Insecta: Hymenoptera: Formicidae) in Japan. *Species Diversity*, 12: 89-112.
2. Kawai, S., 2010. Notes on *Caccobius suzukii* Matsumura, 1936, a junior synonym of *Caccobius* (*Caccobius*) *boucomonti* Balthasar, 1935 (Coleoptera, Scarabaeidae). *Kogane*, Tokyo, (11): 89-92.

(2011 年)

3. Imura, Y., & M. Matsunaga, 2011. Discovery of an Isolated Population of *Limnocarabus* (*Euleptocarabus*) *porrecticollis* (Coleoptera, Carabidae) from the Southern Foot of Mt. Fuji In Shizuoka Prefecture, Central Japan. *Elytra*, Tokyo, New Series, 1(1): 1-14.
4. 吉武啓 (2011) 「特定外来生物オオフサモを職害する日本産クチブトサルゾウムシ族2種に関する覚書」. さやばねニューシリーズ, (3): 1-7.
5. Okada, R., 2011. A new species of the genus *Platambus* (Coleoptera, Dytiscidae) from Hokkaido, Japan. *Elytra*, Tokyo, New Series, 1(1): 31-38.
6. Yamane & Jaitrong, 2011. A first species of *Tetramorium* (Hymenoptera, Formicidae, Myrmicinae) with a polymorphic worker caste. *Insecta matsumurana*, new series, 67: 61-74.
7. Novkovic, B., Mitsui, H., Suwito, A. and Kimura, M. T., 2011. Taxonomy and phylogeny of *Leptopilina* species (Hymenoptera: Cynipoidea: Figitidae) attacking frugivorous drosophilid flies in Japan, with description of three new species. *Entomological Science*, 14: 333-346.
8. Hong, C.-d., Achterberg, van C. & Xu, Z.-f. (2011) A revision of the Chinese Stephanidae (Hymenoptera, Stephanioidea). *ZooKeys*, (110): 1-108.

5. 魚類標本コレクション (HUMZ)

【利活用】

本学の魚類標本は、日常的に教員・学生の研究、および学生の教育に活用されている。その他にも、国内外から多数の標本借用の要望があり、本学以外の研究者にも活用されている。

5-1) 標本庫利用者記録 (学外者のみ: 2010. 4-2012. 3)

(2010 年度)

荻原豪太 (鹿児島大学)

小谷健二 (青森県産業技術センター)

甲斐嘉晃（京都大学）
鎌田和（財団法人名古屋みなと振興財団）
篠原現人（国立科学博物館）
鶴岡理（函館水産高校）
富田武照（東京大学）
野別貴博（知床財団）
町敬介（富山水産試験場）
松浦啓一（国立科学博物館）
佐藤崇（国立科学博物館）
渡辺勝俊（京都大学）
甲能直樹（国立科学博物館）
萬倫一（横浜・八景島シーパラダイス）
Jinkoo Kim (Pukyong National University, Korea)
Santi Pongcharean (Kasetsart University, Thailand)
Natinee Sukramongkol (Southeast Asian Fisheries Development Center, Thailand)
Jennifer M. Martin (Thomas Nelson Community College, USA)
Morgan Churchill (University of Wyoming, USA)
Mikhail V. Nazarkin (Russian Academy of Science)

(2011 年度)

池田怜（新潟県農林水産部水産課）
稲川亮（東北区水産研究所八戸支所）
奥野哲史（共和コンクリート工業株式会社アルガテック Kyowa 海藻技術研究所）
小谷健二（青森県産業技術センター）
川崎琢真（北海道立総合研究機構栽培水産試験場）
佐藤圭一（沖縄美ら海水族館）
清水満幸（萩博物館）
篠原現人（国立科学博物館）
白井滋（東京農業大学）
高見宗広（東海大学）
東海林明（京都大学）
戸田実（沖縄美ら海水族館）
鶴岡理（函館水産高校）
中山直英（高知大学大学院）
西田清徳（大阪海遊館）
藤井千春（岩手県立博物館）
松沼瑞樹（鹿児島大学）
松本瑠偉（沖縄美ら海水族館）
松原創（東京農業大学）
三宅教平（おたる水族館）
宮崎祐介（東京大学）
武藤文人（東海大学）
矢萩拓也（東京大学）
Kim Byung-Jik (National Institute of Biological Resources, Korea)
Martin Fellows Gomon (Museum Victoria, Australia)

5-2) 貸出・送付標本記録 (2010. 4-2012. 3)

2010. 4. 6:2 点（市立函館博物館 佐藤理夫）
2010. 4. 7:2 点（三重大学 木村清志）
2010. 4. 7:2 点（大分マリーナパレス水族館「うみたまご」 星野和夫）
2010. 4. 8:3 点（Australian Museum John Paxton）
2010. 4. 13:38 点（東京農業大学 白井滋）
2010. 5. 7:1 点（東京農業大学 松原創）
2010. 5. 17:1 点（いおワールドかごしま水族館 山田守彦）
2010. 6. 4:1 点（FFC Elasmobranch Studies PM Harris）
2010. 6. 9:16 点（東京大学 猿渡敏郎）

2010.6.25:10 点 (千葉県立中央博物館 駒井智幸)
 2010.7.6:2 点 (高知大学 遠藤広光)
 2010.7.15:14 点 (国立科学博物館 篠原現人)
 2010.7.15:写真 2 点 (水産・海洋コーディネーター養成事務局 DongHwan Shin)
 2010.8.23:21 点 (鹿児島大学 本村浩之)
 2010.8.27:37 点 (Pukyong National University JinKoo Kim)
 2010.10.20:2 点 (American Museum of Natural History Zachary Baldwin)
 2010.10.22:4 点 (京都大学 高橋鉄美)
 2010.10.28:21 点 (ロシア科学アカデミー Mikhail V. Nazarkin)
 2010.10.28:4 点 (近畿大学 細谷和海)
 2010.11.4:1 点 (和歌山県農林水産総合技術センター水産試験場 土井内龍)
 2010.11.8:96 点 (知床財団 野別貴博)
 2010.11.11:4 点 (知床財団 野別貴博)
 2010.11.12:10 点 (高知大学 遠藤広光)
 2010.11.15:2 点 (高知大学 遠藤広光)
 2010.11.15:3 点 (長野県 鈴木秀史)
 2010.11.24:2 点 (国立科学博物館 佐藤崇)
 2010.11.29:3 点 (西海区水産研究所 岡本誠)
 2010.12.22:2 点 (東京大学 富田武照)
 2010.12.27:3 点 (国立科学博物館 篠原現人)
 2011.1.7:5 点 (西海区水産研究所 岡本誠)
 2011.1.11:25 点 (ロシア科学アカデミー Mikhail V. Nazarkin)
 2011.1.21:1 点 (京都大学 甲斐嘉晃)
 2011.1.21:3 点 (国立科学博物館 松浦啓一)
 2011.1.21:レントゲン写真 6 点 (国立科学博物館 松浦啓一)
 2011.1.26:1 点 (国立科学博物館 篠原現人)
 2011.2.7:2 点 (鹿児島大学 本村浩之)
 2011.2.24:4 点 (小樽水族館 三宅教平)
 2011.3.15:20 点 (国立科学博物館 篠原現人)
 2011.3.23:5 点 (京都大学 甲斐嘉晃)
 2011.4.27:15 点 (鹿児島大学 本村浩之)
 2011.5.2:1 点 (Seoul National University, Ji Bom Jung)
 2011.5.18:58 点 (京都大学 中坊徹次)
 2011.6.9:1 点 (碧南海浜水族館 森徹)
 2011.6.14:6 点 (高知大学 遠藤広光)
 2011.6.16:5 点 (長野県安曇野市 嶋津武)
 2011.7.4:1 点 (かごしま水族館 土田洋之)
 2011.7.11:2 点 (高知大学 遠藤広光)
 2011.8.5:5 点 (国立科学博物館 松浦啓一)
 2011.8.31:2 点 (東京農業大学 松原創)
 2011.8.31:7 点 (西海区水産研究所 岡本誠)
 2011.9.1:1 点 (京都大学 中坊徹次)
 2011.9.6:30 点 (京都大学 高橋鉄美)
 2011.9.27:5 点 (高知大学 遠藤広光)
 2011.10.13:10 点 (水産大学校 酒井治己)
 2011.10.13:34 点 (京都大学 高橋鉄美)
 2011.10.14:31 点 (高知大学 遠藤広光)
 2011.10.24:20 点 (Pukyong National University, Jim Koo Kim)
 2011.10.27:13 点 (鹿児島大学 本村浩之)
 2011.10.31:1 点 (近畿大学 柳下直己)
 2011.11.14:1 点 (富山県農林水産総合センター 町敬介)
 2011.11.14:5 点 (西海区水産研究所 岡本誠)
 2011.11.16:120 点 (水産大学校 酒井治己)
 2011.11.30:2 点 (米国自然史博物館 Shirleen Smith)

2012.01.16:24点レントゲン写真(東海大学海洋科学博物館 富山晋一)
 2012.03.07:26点DNA用組織寄贈(北海道大学FSC 宗原弘幸)
 2012.03.08:8点(Virginia Institute of Marine Science, Eric Hilton)
 2012.03.12:6点標本写真(Museum Victoria, Martin F. Gomon)
 2012.03.22:13点標本写真(岩手県立博物館 藤井千春)
 2012.03.29:1点標本写真(美幌博物館 町田善康)

5-3) 新規標本記録 (2010-2011年度)

2010年度:2,534点

2011年度:3,095点

5-4) HUMZ 標本が引用された主な論文 (2010-2011年)

(2010年)

1. 北海道(せたな沖)から得られたツマリテングハギ *Naso brevirostris* そしてホシフグ *Arothron firmamentum* の北限記録. 永野優季・多田知世・谷 敬志・河合俊郎. 日本生物地理学会会報 65: 51-56, Dec 2010
2. A new righteye flounder, *Poecilopsetta multiradiata* (Teleostei: Pleuronectiformes: Poecilopsettidae), from New Zealand and New Caledonia (South-West Pacific). Kawai, T., K. Amaoka and B. Séret. Ichthyol. Res., 57 (2): 193-198, Apr 2010
3. A larva of *Coryphaenoides pectoralis* (Gadiformes: Macrouridae) collected by deep-sea submersible from off Hokkaido, Japan. Endo, H., N. Nakayama, K. Suetsugu and H. Miyake. Ichthyol. Res., 57 (3):272-277, July 2010
4. A new sand whiting, *Sillago (Sillago) caudicula*, from Oman, the Indian Ocean (Perciformes: Sillaginidae). Kaga, T., H. Imamura and K. Nakaya. Ichthyol. Res., 57 (4):367-372, Nov 2010
5. *Cocotropus izuensis*, a new species of velvetfish (Teleostei: Aploactinidae) from Japan. Imamura, H., M. Aizawa and G. Shinohara. Bull. Natl. Mus. Nat. Sci., Ser. A, Suppl. 4:1-7, Mar 2010
6. A new species of the flathead genus *Inegocia* (Teleostei: Platycephalidae) from East Asia. Imamura, H. Bull. Natl. Mus. Nat. Sci., Ser. A, Suppl. 4:21-29, Mar 2010
7. Taxonomic revision of the genus *Ratabulus* (Teleostei: Platycephalidae), with descriptions of two new species from Australia. Imamura, H. and M. F. Gomon. Mem. Mus. Victoria, 67:19-33, 2010

(2011年)

8. *Peristedium indicum* Brauer, 1906, a junior synonym of *Paraheminodus murrayi* (Günther, 1880) (Teleostei: Peristediidae). Kawai, T. Ichthyol. Res., 58 (1): 67-71, Jan 2011
9. A new species of deepwater cardinalfish, *Epigonus mayeri*, from the eastern Central Atlantic, and redescription of *Epigonus heracleus* Parin and Abramov 1986 (Perciformes: Epigonidae). Okamoto M. Ichthyol. Res., 58 (2): 101-108, Apr 2011
10. *Epigonus carbonarius*, a new species of deepwater cardinalfish (Perciformes: Epigonidae) from the Marquesas Islands, with a redefinition of the *Epigonus oligolepis* group. Okamoto, M and H. Motomura. Ichthyol. Res., 58 (2): 155-160, Apr 2011
11. *Silurus imberbis* Gmelin 1789, a senior synonym of the platycephalid *Inegocia japonica* (Cuvier 1829), with a proposal to suppress the name. Imamura, H. and T. Nagao. Ichthyol. Res., 58 (2): 166-169, Apr 2011
12. Two worm eel, *Muraenichthys okamurai* Machida and Ohta 1996, a junior synonym of *Muraenichthys borealis* Machida and Shiogaki. Hoshino, K., Y. Hibino, S. Kimura and Y. Machida. Ichthyol. Res., 58 (2): 184-187, Apr 2011
13. A new species of the genus *Careproctus* (Liparidae) from the Sea of Japan. Kai, Y., S. Ikeguchi and T. Nakabo. Ichthyol. Res., 58 (4):350-354, Nov 2011
14. Redescription of a rare deepwater cardinalfish, *Epigonus ctenolepis* Mochizuki and Shirakihara 1983, and comparison with related species (Perciformes: Epigonidae). Okamoto, M. and A. Fukui. Ichthyol. Res., 58 (4): 388-392, Nov 2011
15. Taxonomic status and type specimens of *Platycephalus bataviensis* Bleeker 1853 (Teleostei: Platycephalidae). Imamura, H. Ichthyol. Res., 58 (4): 393-397, Nov 2011

16. *Onigocia sibogae*, a replacement name for a distinct species of flathead fish, *Platycephalus grandisquamis* Weber, 1913 (Teleostei: Platycephalidae). Imamura, H. Zootaxa 3066: 52-60, 2011
17. Redescription of a poorly known deepwater cardinalfish, *Epigonus affinis* (Actinopterygii: Perciformes: Epigonidae), and comparison with related species. Okamoto, M., H. Motomura and T. Asahida. Spec. Diver. 16 (3/4):85-92, Nov 2011
18. Feeding of the Megamouth Shark (Pisces:Lamniformes: Megachasmidae) Predicted by Its Hyoid Arch: A Biomechanical Approach. Tomita, T., K. Sato, K. Suda, J. Kawauchi and K. Nakaya. Journal of Morphology 272:513-524, 2011
19. Mouth-Size Estimation of a Primitive Lamniform Shark, Protolamna: Low Trophic Position in Lamniform Shark Origin. Tomita, T. Paleontological Research 15(2):68-76, 2011
20. *Samariscus neocaledonia*, a new righteye flounder (Teleostei: Pleuronectiformes: Samaridae) from New Caledonia. Kawai, T., K. Amaoka and B. Séret. Zootaxa 3135: 63-68, 2011
21. 北海道網走市沖のオホーツク海から採集されたホシエイ *Dasyatis matsubarae*. 長尾太地・河合俊郎・松原創・鈴木淳志. 知床博物館研究報告 32: 31-34, Mar 2011
22. 北海道南部の北斗市沖から採集された雌雄同体のトラフグ *Takifugu rubripes*. 河合俊郎・松原創. 北海道大学水産科学研究集報 61(1): 1-4, June 2011

6. 古生物標本コレクション

【利活用】

当館には、戦前に樺太から発見されたニッポノサウルス（日本竜）やデスモスチルス（海棲哺乳類）の実物標本が保管されている。これらは、国宝級の標本であり、世界的に見ても貴重な化石であるにも関わらず、棚に入れて保管されているだけだった。セキュリティや管理方法が不適切だったため、専用の棚をつくり、セキュリティを強化した。また、ネイチャー誌でも記載されたウツサウルス（魚竜）を、一つの棚に固め管理を強化した。

2009年暮れ、大学院理学研究院自然史科学専攻地球惑星ダイナミクス講座から、管理しているプレハブ倉庫に保管されている古い岩石試料などを破棄するという話があり、総合博物館として価値のあるものは収蔵する目的で整理作業を行った。プレハブ一軒分（三連の標本棚 15 本分）という、大量の標本整理を引き受け、その結果、2 千点以上の標本が確認された。多くは、卒論生や修論生の標本であったが、中には歴代の教員（旧理学部地質学鉱物学科第 2 教室初代教授の長尾巧先生や第 5 代教授の湊正雄先生など）が数十年前に収集した貴重な標本も救出し、現在では整理されている。さらに、タイプ標本も 200 点あまり確認され、この作業の意義は大きかった。

そして、理学部廃棄標本を整理した事で、北海道で 2 番目に古い岩石標本を発見した。歴史的に重要な標本のため、2010 年 4 月 13 日に記者発表し、北海道新聞や朝日新聞に掲載された。北海道でもっとも古い岩石・鉱物標本は、開拓使御雇外国人技師の米国鉱山地質技師 B. S. Lyman が 13 名の日本人助手たちとともに 1873 (明治 6) から 1875 年 (明治 8) にかけて道内全般にわたって調査したときの岩石試料である。私たちが発見した 2000 点余の標本は、それに次ぐ 2 番目に古い貴重な標本 (1888 (明治 21) 年～1893 (明治 26) 年頃に採集) であり、これらの調査によって北海道の地質の基礎が構築され本も出版されている。道内の地下資源の可能性や日本列島の成り立ちの研究において重要なものであり、貴重な北海道の遺産ともいえる。

2010 年、岡田尚武名誉教授から、新生代微化石標本の寄贈を受けた。数千点に及ぶ標本で、すでに整理した状態である。これらは、新生代の年代層序の基準となる化石標本で、世界に 3 セットしか無い貴重な標本である。今後も、将来の研究に使われやすいように、管理体制を整えて行く予定である。

化石以外にも、平瀬標本と呼ばれる現生の貝標本の整理と管理体制を整えている。平瀬標本の名前の基となっている平瀬与一郎氏 (1859-1925) は、明治・大正時代に活動していた貝類研究者で、日本の貝類研究に多大なる貢献をした 3 人のうちの一人である。樺太から台湾までの広範囲で収集した貝の標本で、平瀬氏が発見した新種は千種にも及ぶ。当館に、平瀬標本の一部の約 1500 種が、まとまって収蔵されている。現在整理が終了し、データベース化を行っているところである。

また、2010 年には冷凍庫を購入し、生の標本を保管できるようにした。現在は、ワニやオオトカゲ、鳥類などの標本が保管され、これらは解剖の後、骨格標本にされる予定である。2010 年には、シベリアから発見された冷凍マンモスの標本を受け入れ、この冷凍庫の中に保管されている。将来

的には、展示する予定である。

化石資料のデータベースは、常時更新され、ウェブ上で公開されている。

6-1) 主な学外からの標本利用

2010. 1. 10 澤村 寛 足寄動物化石博物館 デスモスチルス頭骨観察
2010. 5. 12 - 5.15 中島保寿 東京大学大学院理学系研究科 ウタツサウルス観察
2010. 7. 5 - 8.30 円山動物園 タルボサウルス頭骨・恐竜足跡レプリカ (20点) 貸し出し
2010. 7. 10- 11.15 疋田吉識 中川町エコミュージアムセンター アンモナイト (実物20点)
(複製20点) 貸し出し
2010. 7. 01- 10.10 群馬県神流町恐竜センター ウタツサウルス複製 (複製20点) 貸し出し
2010. 7. 26- 7.28 国立科学博物館 海生哺乳類標本観察
2010. 8. 10- 12.15 群馬県立自然史博物館 ニッポノサウルス (実物20点) 貸し出し
2011. 3. 9 疋田吉識 むかわ町立穂別博物館 イノセラムス標本 (30点) 貸し出し
2011. 3. 28 - 4.01 鶴野 光 東京大学大学院新領域創成科学研究科 デスモスチルス観察
2011. 4. 29- 10.10 群馬県神流町恐竜センター ナノティラヌス頭骨 (複製) 貸し出し
2011. 5. 13 - 9.05 苫小牧市スポーツ生涯学習部博物館 タルボサウルス頭骨貸し出し

7. 岩石鉱物標本コレクション

【利活用】

7-1) 学内・学外利用

＜岩石＞ (2010-2011 年度)

利用件数 (カッコ内は合計人数) (2010-2011 年度)

年度	学 内	学 外	総 計
2010 年	3 (94)	13 (53)	16 (147)
2009 年 (10 月まで)	2 (73)	8 (44)	10 (117)

* 「学内利用」には、理学院(部)及び全学教育等の講義・実験その他も計算に入れてある。

＜学内利用＞ (2010 - 2011年度)

2010. 5. 15 武田増満・三原義広・木本 舞 (北海道大学Co-STEP五期生)
2010. 10. 8 「マグマ科学」受講生 (2 年目) 56 名
2010. 11. 16 「地球惑星システム科学概論」受講生 (MC1～2 年目) 35 名
2011. 4. 26 「マグマ科学概論」受講生 (MC 1 年) 18 名
2011. 10. 21 「マグマ科学」受講生 (学部 2 年) 55 名

＜学外利用＞

2010. 4. 12 北室かず子 (JR 誌「The JR Hokkaido」ライター) ジオパーク洞爺湖有珠山の火山噴
出物と日高山脈アポイ岳のかんらん岩の標本観察
2010. 4. 22 寺町志保 (北海道新聞) アポイ岳のかんらん岩と札幌軟石 (支笏熔結凝灰岩) の模
式標本観察
2010. 6. 2 小椋伸幸 (石油資源開発) 北海道中軸部の白亜紀島弧-海溝系の代表的岩石標本観察
2010. 6. 12-13 パラタクソノミスト講座岩石初級 (16 名)
2010. 6. 15 長谷川万里子 (札幌大谷大学) ほかに 2 名 北海道のジオパークの地質岩石標本の観察
2010. 9. 5 君波和雄 (山口大学) ・大我晴敏 (朝日航洋) 北村晴夫 (東建地質) ほかに理学部第 40
期同窓生 10 名 北海道の白亜紀島弧-海溝系の代表的岩石と日高山脈の岩石鉱物標本観察
2010. 9. 18-19 パラタクソノミスト講座岩石中級 (9 名)
2010. 10. 12 堺 俊樹 (札幌市) ウバロバイトを含む蛇紋岩標本の観察
2010. 11. 13 藤田貢崇 (法政大学) ・松浦かな (大阪大学) アポイ岳のかんらん岩と日高山脈
の岩石標本の観察
2010. 12. 6 石綿 恒 (構研エンジニアリング) ほかに 2 名 北海道中央部日勝峠周辺の花崗岩類
の岩石標本観察
2010. 12. 12 森口拓弥・田中亮二 (岡山大学地球物質科学研究センター) 日高変成帯のダナイト
チャネルかんらん石 (巨晶サンプル) の観察
2011. 1. 6 芳川雅子 (京都大学地球熱学研究施設) 幌満かんらん岩のマグマチャネルの岩石鉱
物観察
2011. 2. 26 千葉 徹 (朝倉書店) 北海道の地質を代表する岩石の標本観察

2011. 7. 4 門前貴裕（月刊ソトコト編集部）ほか2名 アポイ岳かんらん岩のタイプ標本観察
 2011. 7. 19 森下知晃・町 澄秋（金沢大学）ほか6名 伊豆-小笠原-マリアナ弧かんらん岩およびロシア極東オフィオライトの蛇紋岩観察
 2011. 9. 16 芳川雅子（京都大学地球熱学研究施設） 幌満かんらん岩体のダナイトチャンネル標本観察
 2011. 10. 1-2 パラタクソノミスト講座岩石初級（11名）
 2011. 10. 12 横山 光（北海道立教育研究所附属理科教育センター）アポイ岳かんらん岩と洞爺湖有珠山の火山噴出物の標本観察
 2011. 12. 3-4 パラタクソノミスト講座岩石中級（5名）
 2011. 12. 21 清川昌一（九州大学）ほか学生 12 名 北海道中軸部の付加体を構成する変成岩・火山岩の標本観察
 2012. 3. 9 松浦かな（大阪大学）ほか1名 ジオパークの地質遺産の代表的岩石標本の観察
<鉱物>（2010-2011 年度）
 利用件数（カッコ内は合計人数）

年度	学 内	学 外	総 計
2010 年	5 (90)	4 (24)	9 (114)
2011 年	5 (90)	4 (16)	9 (106)

*「学内利用」には、理学院(部)及び全学教育等の講義・実験その他も計算に入れてある。学内関係研究者利用者数は省略。学外利用者数は最大値を記入。

<学内利用>

鉱物標本の学内での学術的利用は、主に理学院関係研究者及び卒業論文、修士論文、博士論文等による。

教育目的としては、毎年、理学院(学部・大学院)における鉱物学関連の講義・学生実験)及び全学教育において、博物館収蔵の鉱物登録標本等を利活用しているが、詳細は以下のようである。

(理学院(部)専門科目)：

「球惑星科学実験Ⅳ」(5回、約 20 名/年)、

「結晶学実験」(4回、約 15 名/年)、

「結晶学」(3回、約 20 名/年)

計 約 55 名/年

(理学院(大学院)科目)：「地球惑星物質特論」(3回、約 5 名/年)

全学教育科目：「基礎自然科学実験」(3回、約 30 名/年)

<学外利用>

特に、記帳していないので詳細は不明であるが、学外からの標本見学は年間で平均して 2～3 回程度(人員は合計 2～5 名/年程度)ある。

2010. 11. 13-14 パラタクソノミスト講座鉱物初級(標本 5 点) (19 名)

2011. 10. 22 パラタクソノミスト講座鉱物初級(標本 5 点) (11 名)

<鉱石>（2010-2011 年度）

特に理学院(学部・大学院)及び全学教育等での講義・実習の際には、博物館収蔵鉱石標本を積極的に利活用しての効果的かつ実証的教育を実施している。

利用件数（カッコ内は合計人数）

年度	学 内	学 外	総 計
2010 年	8 (229)	12 (31)	20 (260)
2011 年	8 (229)	23 (48)	31 (277)

*：学内利用分は、各種講義および学生実験等による利用件数のみを記載、学内関係研究者、卒業論文、修士論文、博士論文等による利用件数は省略（約 10 件、延べ 20 人/年程度）。

<学内利用>

(全学教育科目)

総合科目「今、大学博物館が面白い！」 約 50 人/年

一般教育演習「北大総合博物館で学ぼう！—自然と人間」(分担) 約 20 人/年

(学部教育科目)

地球惑星科学入門Ⅰ 約 45 人/年

鉱床学 約 40 人/年

鉱床学実験 約 6 人/年

大学院科目

資源地質学特論 約 8 人/年

(大学院共通授業科目)

博物館学特別講義Ⅰ(学術標本・資料学)(分担) 約 20 人/年

地球惑星システム科学概論 約 20 人/年

<学外利用>

2010. 5. 27 弥永芳子(弥永博物館館長) 金鉱石標本
2010. 7. 9 桑野範之(九州大学先端研究所) 塚本標本および北海道産沸石標本
2010. 8. 2 豊 遥秋(産総研地質標本館元館長) 渡辺武夫標本および由井標本
2010. 8. 10 片岡達彦(国際航業(株)) 勢多鉱山産金鉱石及び変質母岩、試錐岩芯標本
2010. 9. 22 松隈明彦(九大研究総合博物館) 地学標本全般の収蔵状況
2010. 10. 4 渡辺 寧(産総研つくば、地質調査所) 豊羽鉱山産鉱石標本類
2010. 11. 4 馬原保典(京都大学原子炉実験所) : ペグマタイト標本(花崗岩・放射能鉱物)
2010. 12. 12 田中亮二(岡山大学地球物質科学研究センター)
2010. 12. 22 神田健三(中谷宇吉郎雪の科学館館長)・山崎敏晴(江別市役所) 中谷宇吉郎関係資料
2010. 12. 11-12 パラタクソノミスト講座鉱床中級(14名)
2011. 2. 12-13 パラタクソノミスト講座鉱床上級(6名)
2011. 3. 28 神田健三(中谷宇吉郎雪の科学館館長) : 中谷宇吉郎関係資料
2011. 4. 2 下山 正(釧路コールマイン) 石炭・鉱物標本
2011. 6. 6 中川 充(産総研 北海道センター) 白金鉱石標本
2011. 5. 6 大石 徹・向井正二郎(日鉄環境エンジニアリング) 札幌近郊の金鉱石標本
2011. 5. 18 清水正明(富山大・理学部) スカルン鉱床関係標本
2011. 6. 27 八幡正弘(北海道立総合研究センター地質研究所) 変質岩標本
2011. 8. 11 菊地良弘(日鉱探開(株)) 鉱石・変質岩標本類
2011. 10. 3 三田直樹(産総研つくば地質調査所)・岡崎千鶴子 二酸化マンガン鉱石および温泉沈殿物標本
2011. 10. 10 平田和彦(西日本技術開発(株))・山本文博(北菱産業(株)) 石炭標本類
2011. 10. 28 北風 嵐(東北大学北東ユーラシア研究センター) 日高帯超塩基性岩類標本
2011. 11. 5 仲村 昇(山階鳥類研究所) 小樽赤岩変質岩類標本
2011. 11. 7 松永 潤(日鉄鉱業(株)) 鉱石標本
2011. 10~2012. 3 山崎敏晴(江別市役所) 中谷宇吉郎各種試資料
2011. 11. 14 青木正博(産総研つくば地質標本館) 豊羽鉱山鉱石標本
2011. 12. 2-3 緒方武幸(秋田大国際資源学教育センター)ほか2名 鉱石標本
2011. 12. 10 パラタクソノミスト講座鉱床初級(15名)
2012. 1. 21-22 パラタクソノミスト講座鉱床中級(6名)
2012. 1. 28-29 パラタクソノミスト講座鉱床上級(3名)
2012. 3. 8 李 晔荣(中国科学院地質鉱床研究所) 金鉱石標本
2012. 3. 11 田口幸洋・奥野 充(福岡大学理学部) 金鉱石および火山岩標本
2012. 3. 19 馬原保典(京大原子炉実験所) 放射能鉱物および鉱石標本
2012. 1~3 Mega F. Rosana(インドネシア Padjadjaran 大学、北大総合博物館特任教員) 金鉱石及びベースメタル鉱石標本
2012. 3. 24 清水 徹・石原俊三(産総研つくば地質調査所)、熊谷直人(三菱マテリアル(株))、今井 亮(秋田大学工学資源学研究科)、Sarella Sreenibas(ソニー・ジャパン)、今井淳二(日鉱探開(株))、李 晔荣(中国地質鉱床研究所)ほか5名 鉱石標本(豊羽・光竜他 金-ベースメタル鉱石類)

7-2) 貸出・寄贈標本

貸し出し標本(2010-2011 年度)

<岩石>

2010. 4. 15 植田勇人(弘前大学) 大町海山蛇紋岩(8点)の分割貸与
2010. 9. 5 平内健一(広島大学) 大町海山の塊状蛇紋岩(2点)・アンチゴライト蛇紋岩(2点)の分割貸与
2011. 6. 2 天草御所浦白亜紀資料館 アポイ岳かんらん岩(レルゾライト)の展示用大型標本

<鉱物>

該当年度内では、特に収蔵鉱物標本の貸し出しや分割供与はなし。

<鉱石>

2010. 6.1-27「支笏火山噴出物（札幌軟石ほか）」千歳市支笏湖ビジター・センター(サテライト展示)

2011.12.3 鉱石標本 34 点 緒方武幸(秋田大学国際資源学教育センター)

2011. 5.31-6.27「支笏火山噴出物（札幌軟石ほか）」千歳市支笏湖ビジター・センター(サテライト展示)

2011. 8.1-16「支笏火山噴出物（札幌軟石ほか）」札幌市滝野公園(サテライト展示)

2011. 4.2-6.25 小樽赤岩変質岩石および鉱物標本 15 点 小樽市総合博物館(展示名称：花と潮風の路—小樽海岸自然探勝路の植物、2012.4.9-6.19)

受領標本 (2010-2011 年度)

<岩石>

2010. 5.16 吉本充宏(北大・理・地球惑星システム科学)より受け入れた標本(寄贈標本)有珠火山噴出物 1,454 点、桜島火山噴出物 353 点

<鉱物>

なし

<鉱石>

2010. 6.28 ペルー産鉱石標本 7 点 五味 篤(三井金属鉱業(株))

2010. 7.12 豊羽鉱山産鉱石 7 点 平井浩二(日鉱鉱山(株))

2011. 7. 8 ペルー産鉱石標本 5 点 五味 篤(三井金属鉱業(株))

2012. 3.10 チリ産鉱石標本類 10 点 松永 潤(日鉄鉱業(株))

7-3) 収蔵標本が引用された主な論文 (2010-2011 年)

総合博物館における岩石鉱物関連収蔵標本を利活用した学術研究で、印刷公表された代表的ものを分野別に分けて以下に掲載する。なお、これらのほかに国際会議・国際シンポジウム・関係学協会発表(講演要旨)及び普及書籍、各種ガイドブック、リーフレット等に多数引用されている標本類もあるが、それらはここでは省略する。

<岩石>

1. 新井田清信(2010): 日高衝突帯(日高山脈)の地質と岩石(4.5かんらん岩類). 日本地質学会(編)日本地方地質誌1「北海道地方」, 朝倉書店, 158-166.
2. Imayama, T., Takeshita, T. and Arita, K. (2010) Metamorphic P-T profile and P-T path discontinuity across the far-eastern Nepal Himalaya: investigation of channel flow models. *Journal of metamorphic Geology*, 28, 527-549
3. Ueda, H., Niida, K., Usuki, T., Hirauchi, K., Meschede, M., Miura, R., Ogawa, Y., Yuasa, M., Sakamoto, I., Chiba, T., Izumino, T., Kuramoto, Y., Azuma, T., Takeshita, T., Imayama, T., Miyajima, Y., and Saito T. (2011): Seafloor geology of the serpentinite body in the Ohmachi Seamount (Izu-Bonin arc) as exhumed parts of a subduction zone within the Philippine Sea. In: *Accretionary Prisms and Convergent Margin Tectonics in the Northwest Pacific Basin* (Ogawa, Y., Anma, R., and Dilek, Y., eds), *Modern Approaches in Solid Earth Sciences* 8, Springer, 97-128.

<鉱物>

4. Tanaka, H., Endo, S., Minakawa, T., Enami, M., Nishio-Hamane, D. and Miura, H. (2010): Momoiite, $Mn_2+3V_3+2Si_3O_{12}$, a new Manganese Vanadium garnet from Japan *Journal of Mineralogical and Petrological Sciences*, 105, 92-96.
5. 在田一則、竹下徹、見延庄士郎、渡部重十(2010): 地球惑星科学入門、452P. 北海道大学出版会

<鉱石>

(2010 年)

6. 松枝大治(2010): 地球惑星科学入門、452P. (分担執筆: 第 13 章 金属鉱物資源と社会) 北海道大学出版会
7. 八幡正弘・松枝大治(2010): 日本地方地質誌 北海道地方、664P. (分担執筆: 第 11 章 地質資源) 朝倉書店
8. 松枝大治・高橋亮平(2010): 環オホーツク島弧のマグマ熱水系と金属鉱化作用、およびレアメタル資源ポテンシャル評価に関する研究。財団法人 日本鉱業振興会助成 研究成果報告書(中間報告)、25-30.
9. Yuningsih, E. T., Matsueda, H., Setyaraharja, E. P. and Rosana, M. F., (2010): Arinem

- gold-silver-base metal mineralization, West Java, Indonesia. Proceeding of the 39th IAGI (Indonesia Geologist Association), 79.PIT-IAGI-2010-180-Euis-1, 6p.
10. Yuningsih, E. T., Matsueda, H. (2010): Temperature and salinity control on ore mineral deposition: fluid inclusion study. Proceeding of the 8th Hokkaido Indonesian Student Association Scientific (HISAS), p16-23.
 11. Yuingsih, E. T., Matsueda, H. and Rosana, M. F. (2010): The Arinem Te-bearing gold-silver base metal deposit in magmatic arc environment of West Java, Indonesia. Proceeding of the SEG (Society of Economic Geologist), p.5.
 12. Okrugin V. M., Andreeva E. D., Kim. A. U., Puzankov I. M., Shishkanova K. O., Bukhanova D. S., Matsueda, H., Ono S., Takahashi R. and Watanabe K. (2010): Volcanic related epithermal deposits in Kamchatka and Japan. The memorial medal given for contribution in ore deposit science. Authors: Symposium: 《Fundamental problems of geology of the deposit and metallogeny》. Abstract P.47-49. Place: MSU, Moscow.
 13. 松枝大治・高橋亮平(2010) 環オホーツク島弧のマグマ熱水系と金属鉱化作用、およびレアメタル資源ポテンシャル評価に関する研究(最終版)。財団法人 日本鉱業振興会助成研究成果報告書、33-38.
 14. Ishihara, S. and Matsueda, H. (2011): Chemical characteristics of the indium-polymetallic ores from the Toyoha mine, Hokkaido, Japan. 地質調査研究報告、Vol.62, (3/4), 131-142.
 15. Takahashi, R., Matsueda, H., Okrugin, V. M., Andreeva, E. D., Ono, S., Shikazono, N., Imai, A., Yonezu, K. and Watanabe, K. (2011): Isotope study of hydrothermal deposits and geothermal activity: implication to resource exploration in Kamchatka. In: Abstracts from the 34th Annual Winter Meeting of the Geological Society's Mineral Deposit Studies Group, Applied Science (Trans. Inst. Min. Metall. B), Vol.119, No.2, P96-97. 4.
 16. Noku, S. K., Matsueda, H., Espi, J. O. and Akasaka, M. (2012): Petrology, geochemistry and fluid inclusion microthermometry of sphalerite from the Laloki and Federal Flag strata-bound massive sulfide strata-bound deposits, Papua New Guinea: implications for gold mineralization. Resource Geology, Vol.62, No.2, P187-207.
 17. Takahashi, R., Matsueda, H., Okrugin, V. M., Shikazono, N., Ono, S., Imai, A., Andreeva E. D. and Watanabe, K. (2012): Sulfur isotopic characteristics and K-Ar ages of ore deposits in Cenozoic metallogenic belt of Kamchatka, Russia. Resource Geology (in press).
 18. Yuningsih, E. T., Matsueda, H., Setyaraharja, E. P. and Rosana, M. F. (2012): The Arinem Te-bearing gold-silver-base metal deposit, West Java, Indonesia. Resource Geology, Vol. 62, No. 2, 140-158.

8. 考古学分野

8-1) 標本閲覧・貸出利用実績

[考古標本]

標本閲覧

	学内	学外	計
2010 年度	0	6	6
2011 年度	0	5	5

研究用標本貸出

	件数	標本数
2010 年度	0	0
2011 年度	0	0

8-2) 標本整理・データベース作成

[考古標本]

当博物館の考古学部門では、オホーツク文化の考古学資料がコレクションの中核をなしている。これらのうち礼文島香深井1遺跡、同2遺跡、稚内オニコロマナイ遺跡のオホーツク文化の3遺跡

については整理済みで、研究報告も完了している。

これらについては、「北大総合博物館北東ユーラシア資料統合データベース（H17年度文部科学省科学研究費による 研究代表者小俣友輝）において、研究報告を刊行済みのオホーツク文化関係3遺跡の考古資料（土器、石器、骨角器、金属器、石製・土製品他）についてのデータベース化が完了している。これらは報告書図版に対応する形で出土層位、出土区、種別ごとに1万3千点の画像として格納されている。

北見枝幸目梨泊遺跡については、整理が完了し、報告書の作成作業が継続中である。また礼文島元地遺跡については、一時的な整理は完了しているが、図版化がまだ完了していないが、これらを含め研究報告の準備中である。

8-3) 閲覧関係

・オホーツク文化、考古学収蔵庫資料

[2010年度]

2010.07.27～29 Morison Churchill (Professor of University of Wyoming)、甲野直樹（国立科学博物館学芸員）礼文島香深井1遺跡鰭脚類骨格の観察・計測

2010.10.15 金盛典夫（斜里町町議会議員）礼文島香深井1遺跡土器観察

2010.12.24 笹田朋孝（愛媛大学上級研究員）礼文島香深井1遺跡鉄器の観察・撮影

2011.02.22・24 関根達人（弘前大学教授）礼文島香深井1遺跡土器観察

[2011年度]

2011.05.17 Mielzyslkw Wolskin (Museum and Institute of Zoology, Polish Academy of science) 鰭脚類の歯の計測

2011.05.17 浅原正和（京都大学理学研究科院生）鰭脚類の歯の計測

2011.11.21 田辺陽一（NHK 旭川支局）オホーツク文化展示撮影

2011.11.27 今西輝代教（置戸町教育委員会教育課長）ほか25名 置戸町出土の旧石器（医学部所蔵資料）

2011.12.19 古賀日香理（岡山理科大学院生）イヌ頭蓋骨調査

・オホーツク文化考古学展示資料

[2010]

なし

[2011]

なし

・オホーツク文化人骨収蔵庫資料

[2010]

2010.08.02 百々幸雄（東北大学教授）オホーツク人骨（医学部所蔵資料）頭蓋骨の観察・計測

2011.03.24 白幡知尋（北海道文教大学講師）オホーツク人の四肢骨（医学部所蔵資料）の観察・計測

[2011]

8-4) 貸出関係

・人骨資料

・考古資料

9. 学術標本データベース

現在総合博物館で構築・インターネット公開されているデータベースは、タイトル別にして30、分野にして7分野である（それぞれ古生物学、鉱物・鉱床学、海藻分類学、植物体系学、昆虫分類学、魚類分類学、その他分野横断 [=植物体系学、鉱物・鉱床学、考古学を横断]）。

以下に当館で管理されているものについてタイトルを記す（北大総合博物館登録標本データベース：<http://museum-sv.museum.hokudai.ac.jp/databases/>の表記を踏襲し、系別表記とする）。

●地球科学系（既公開及び準備中のものを含む）

- ・化石標本（約20,000点、平成18年再構築、HP公開中）
- ・鉱物（北海道産新鉱物ほかタイプ標本（10点）を含む約7,500点、平成18年再構築、HP公開中）
- ・一般岩石標本データベース（約5,200点、公開準備中）
- ・北海道の火山（有珠ほか）（約1,600点、公開準備中）
- ・宇井標本（約1,100点、公開準備中）
- ・日高・かんらん岩標本データベース（9,652点、公開準備中）

- ・在田標本データベース（約14,200点、公開準備中）
- ・地質標本・現象のデータベース（約420点、公開中）
- ・一般鉱物標本データベース（約8,400点、公開準備中）
- ・塚本鉱物コレクション・データベース（約1,800点、公開準備中）
- ・一般鉱石標本データベース（約72,690点、公開準備中）
- ・道内ボーリングコア・データベース（約20,000点、公開準備中）
- ・カムチャッカ金属資源データベース（約430点、平成17年9月～HP公開中）
- ・黒曜岩標本データベース（吉谷コレクション）（約1,000点、公開準備中）
- ・白滝遺跡出土石器（黒曜石）（約5,300点、HP公開準備中）
- ・道庁・神保小虎コレクション・データベース（約1,140点、公開準備中）
- ・渡辺武男標本データベース（約1,500点、公開準備中）
- ・由井俊三標本データベース（約3,500点、公開準備中）
- ・工学部鉱石標本（含ボーリング・コア）データベース（約7,800点、公開準備中）
- ・工学部藤原コレクション・データベース（約440点、公開準備中）

●生物系

- ・海藻標本データベース
- ・陸上植物タイプ標本データベース
- ・エンマムシデータベース
- ・ICタグ×昆虫標本データベース
- ・苫小牧研究林生命情報データベース
- ・魚類標本データベース
- ・昆虫標本データベース
- ・北海道大学昆虫学教室・総合博物館所属タイプ標本データベース
- ・中根猛彦コレクション：甲虫類タイプ標本データベース

●分野横断データベース

- ・北大総合博物館北東ユーラシア資料統合データベース

総合博物館に保管されている主な学術標本の整理・研究利用状況

標本庫 (国際略称)	総標本点数 (内未整理 点数)	タイプ標本	面積 (m ²)	学外利用研 究者(人・日) 2010-2011	標本貸し出 し件数 2010-2011	論文数 2010-2011
陸上植物 (SAPS)	400,000 (150,000)	323	248	90	7	10
菌類 (SAPA)	170,000	300	48	27	---	10
海藻 (SAP)	140,000	350	116(+232)	22	11	8
昆虫 (SEHU)	1,800,000	10,000	290	25	37	8
魚類 (HUMZ)	210,000	1,075	1053 (水産)	45	69	22
無脊椎動物 (ZIHU)	2,425	700	198	---	---	---
古生物	20,000	700	145	13	7	---
岩石・鉱物	156,172 (20,600)	12	335(+100)	57 (利用件数)	8	18
考古	30,000	---	232(+105)	11	0	---

標本庫の利用状況、研究用の標本貸出、成果論文数など、標本の利活用状況のモニタリングが必要である。分野によっては記録が不十分であり今後の課題である。分野間で記録の条件が異なる点もあり、統一した基準も必要である。

IV. 高等教育

博物館教員は、兼任あるいは担当する理学部・農学部・水産学部、理学院・農学院・水産科学院で講義・実習・特論等を担当し、担当学部・学院では卒論生・修士課程大学院生・博士後期課程大学院生を指導している。また全学教育においても多くの授業を担当している。以下、1項と2項は、博物館教員が主担当となり全学対象に開講している博物館開催の授業である。3項は、北大教育 GP「博物館を舞台とした体験型全人教育の推進」（2008～2010年度）の枠組みにおいて、また、GP終了後にも博物館で全学的に展開しているミュージアムマイスターコースについて紹介する。北大が目指す全人教育の一翼を担うコースであり、国内の大学における博物館教育において先進的でユニークな取り組みとして評価されている。4項は学芸員課程を受講する学生を対象にした博物館実習である。

1. 全学教育

総合科目：

今、大学博物館が面白い！―“物”にこだわる科学（2010・2011年度）

北大総合博物館で学ぼう！―ヒグマ学入門（2010・2011年度）

大学博物館講座―北大自然史研究の系譜（2010・2011年度）

一般教育演習：

北大総合博物館で学ぼう！―自然と人間（2010・2011年度）

北大エコキャンパスの自然と歴史（2010・2011年度）

北大エコキャンパスの自然―植物学入門（2010・2011年度）

2. 大学院共通授業

大学院共通授業科目：

博物館学特別講義 I ―学術標本・資料学（2010・2011年度）

博物館学特別講義 II―展示・教育・活動評価（2010・2011年度）

博物館コミュニケーション特論（2010・2011年度）

3. ミュージアムマイスター認定コース

- ・実施プログラム：27 科目（2010 年度）、28 科目（2011 年度）
- ・受講者：1,335 人（2010 年度）、報告書を作成しなかったためデータなし（2011 年度）
- ・認定コース登録者：92 人（2010 年度）、112 人（2011 年度）
- ・マイスター認定者：11 人（2010 年度）、4 人（2011 年度）

【導入科目】

生物の多様性（2010・2011年度）

今、大学博物館が面白い！―“物”にこだわる科学（2010・2011年度）

フィールド科学への招待（2010・2011年度）（2010・2011年度）

大学博物館講座―北大自然史研究の系譜（2010・2011年度）

北大エコキャンパスの自然と歴史―植物学入門（2010年度）

北大エコキャンパスの自然―植物学入門（2011年度）

北大エコキャンパスの自然と歴史（2010・2011年度）

博物館概論（2010・2011年度）

博物館学 I（2010・2011年度）

博物館学 II（2010・2011年度）

【ステップアップ科目】

北大総合博物館で学ぼう！―ヒグマ学入門（2010・2011年度）

学芸員から見た美術の世界（2010・2011年度）

北海道立近代美術館に学ぶ（2010・2011年度）

PMF の響き（2010・2011年度）

フィールド体験型プログラム―人間と環境科学（1）（2010・2011年度）

フィールド体験型プログラム―人間と環境科学（2）（2010・2011年度）

遺跡を探そう―合宿型発掘体験実習（2010・2011年度）

北大総合博物館で学ぼう！自然と人間（2010・2011年度）

北方人類学演習—問題解決の手法（2010・2011 年度）
動物分類学（2010・2011 年度）
ベントス学（2010・2011 年度）
魚類学（2010・2011 年度）
博物館学特別講義Ⅰ—学術標本・資料学（2010・2011 年度）
芸術学特別演習—ミュージアムのマネージメント（2010 年度）
北方人類学特別講義—ミュージアムのマネージメント（2011 年度）
キャンパスツアー活動（初・中級）（2010 年度）
パラタクソノミスト養成講座（2010・2011 年度）

【社会体験型科目】

北方人類学特別演習—ミュージアム展示制作と文化（2010・2011 年度）
博物館学特別講義Ⅱ—展示・教育・活動評価（2010・2011 年度）
博物館コミュニケーション特論（2010・2011 年度）
人類学特別演習—ミュージアム展示制作と文化（2010・2011 年度）
展示解説入門（2010 年度）
博物館オリジナル T シャツの制作（2010 年度）
「アラスカの恐竜」展の展示制作（2010 年度）
「アラスカの恐竜」展の展示解説（2010 年度）
博物館ガイドブックの制作（2010 年度）
キャンパスツアー活動（初・中級 2）（2010 年度）
平成遠友夜学校の運営（2010 年度）
水産科学館リニューアルプロジェクト（2010 年度）
大学博物館展示解説プログラム（2010・2011 年度）
卒論ポスター発表会（2010・2011 年度）
卒論ポスター発表会の運営（2011 年度）
「Lepidoptera 空を舞う昆虫たち チョウとガの世界」の展示解説（2011 年度）
道立近代美術館評価システム導入プロジェクト（2011 年度）

4. 博物館学芸員実習

- ・2010 年度 2010 年 9 月 2 日～4 日、6 日～10 日 8 日間
- ・2011 年度 2011 年 9 月 1 日～3 日、5 日～ 9 日 8 日間

V. 展示活動

1. 常設展示

- 1 階：北大歴史展示、学術テーマ展示
- 2 階：学術テーマ展示「ユニバーシティ・ラボ」
- 3 階：学術資料展示（地球惑星科学分野、獣医学分野、生物分類学分野）

2. 企画展示（平成22(2010)年度～平成23(2011)年度）

平成22(2010)年度（6回）

- 第 68 回 「アンモナイト銅版画展」～前年度より引き続き
（平成 22 年 2 月 16 日～4 月 18 日）
- 第 69 回 「花の白露交流史 一幕末の箱館山を見た男」～前年度より引き続き
（平成 22 年 3 月 14 日～5 月 9 日）
- 第 70 回 「わが街の文化遺産「札幌軟石」一歩いた！探した！見つけた！」
（平成 22 年 4 月 27 日～5 月 30 日）
- 第 71 回 「アラスカの恐竜ーアジアをめざした生命」
（平成 22 年 7 月 24 日～10 月 11 日）
- 第 72 回 北海道大学サステナビリティ・ウィーク 2010
ーインフルエンザなどの人獣共通感染症を克服する
～統合科学実験展示～
（平成 22 年 10 月 26 日～11 月 3 日）
- 第 73 回 「豊平川と私たちーその生いたちと自然」
（平成 23 年 3 月 8 日～5 月 29 日）

平成23(2011)年度（4回）

- 第 74 回 「保莉実写真展 カントリーに呼ばれてーオーストラリア・アボリジニ
とラディカル・オーラル・ヒストリー」 （平成 23 年 4 月 8 日～5 月 8 日）
- 第 75 回 ノーベル化学賞受賞記念
「ホウ素化学研究とノーベル化学賞への軌跡」
（平成 23 年 4 月 5 日～6 月 5 日） （平成 23 年 6 月 7 日～6 月 12 日）
- 第 76 回 「LEPIDOPTERA（レピドプテラ） 空を舞う昆虫たち、チョウとガの世界」
（平成 23 年 7 月 2 日～10 月 2 日）
- 第 77 回 「クラーク博士と札幌の植物」
ーW.S クラーク博士来札・札幌農学校開学 135 周年記念ー
（平成 24 年 3 月 3 日～5 月 6 日）

*特別企画展示

ノーベル化学賞受賞記念展示：『ノーベル賞メダル公開』（特別企画展示）（2011.1.18～3.21）

*グローバル COE 展示

グローバル COE プログラム「境界研究の拠点形成：スラブ・ユーラシアと世界」

平成 22 年度、平成 23 年度成果展示

- 第 2 期成果展示『知られざる北の国境ー北緯 50 度の記憶ー』展 2009, 12.18～5.10
- 第 3 期成果展示『海疆ユーラシア：日本の南西境界』展 2010, 5.14～11.14
 - 前期展示（5.14～9.12）：「琉球諸島・小笠原諸島・大東諸島編」
 - 後期展示（9.17～11.14）：「対馬・東シナ海・南シナ海編」
- 第 4 期成果展示『先住民と国境』展 2010, 11.19～2011, 2.13
 - 前期展示（11.19～2.13）：「北米先住民ヤキの世界」
 - 後期展示（2.18～5.8）：「アイヌと境界」
- 第 5 期成果展示『言葉は境界を超えてーロシア・東欧作家の作品と世界』展 2011, 5.13～11.20
 - 前期展示（5.13～8.20）：「ロシアの作家と境界」
 - 後期展示（8.26～11.20）：「東欧の作家と境界」

第6期成果展示『越境するイメージメディアにうつる中国』展 2011, 11.1～2012, 5.13

第1部 (11.1～2.5) : 「中華人民共和国の誕生と成長、そして世界のとかかわり」

第2部 (11.25～5.13) : 「変貌する中国の女性観」

3. 入館者数

年度	期間	開館日数	入館者数(年度)	入館者数累計	1日平均
10年度	11月24日～3月31日	77	3,043	3,043	40
11年度	4月1日～3月31日	243	9,733	12,776	40
12年度	4月1日～3月31日	241	8,789	21,565	36
13年度	4月1日～3月31日	242	15,866	37,431	66
14年度	4月1日～3月31日	251	28,952	66,383	115
15年度	4月1日～3月31日	289	42,431	108,814	147
16年度	4月1日～3月31日	302	43,889	152,703	145
17年度	4月1日～3月31日	303	75,685	228,388	250
18年度	4月1日～3月31日	303	73,993	302,381	244
19年度	4月1日～3月31日	302	89,086	391,467	295
20年度	4月1日～3月31日	300	62,701	454,168	209
21年度	4月1日～3月31日	303	69,646	523,814	230
22年度	4月1日～3月31日	302	104,661	628,475	347
23年度	4月1日～3月31日	304	105,583	734,058	347
計		3,762	734,058		

<休館日>

平成11年4月1日より

休館日：土曜日、日曜日、祝日、年末年始、その他臨時休館日

平成14年4月1日より

休館日：土曜日(毎月第2土曜日は開館)、日曜日、祝日、年末年始、その他臨時休館日

平成15年4月1日より

休館日：日曜日、祝日、年末年始、その他臨時休館日

平成16年4月1日より

休館日：月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日)、12/28～1/4、その他臨時休館日

月別入館者数

平成22年度

平成23年度

月	開館日数	入館者数	1日当り平均入館者数	開館日数	入館者数	1日当り平均入館者数
4	26	3,748	144	26	5,684	219
5	26	6,796	261	26	8,438	325
6	26	9,455	364	26	12,374	476
7	27	9,524	353	27	12,947	480
8	27	23,312	863	27	19,164	710
9	25	15,712	628	25	10,250	410
10	27	12,854	476	26	10,437	401
11	25	6,755	270	26	9,404	362
12	23	2,743	119	23	3,433	149
1	21	3,358	160	21	2,446	116
2	23	5,521	240	24	3,823	159
3	26	4,883	188	27	7,183	266
合計	302	104,661	347	304	105,583	347

4. 展示解説・案内

展示解説依頼に対しては、館長・教授・准教授・研究支援推進員・資料部研究員・ボランティア等が適宜分担し対応している。

22年度に博物館見学申込書が提出された来館団体は、248件【小学校31件（480名）、中学校47件（1,018名）、高等学校41件（4,933名）、その他129件（3,164名）】、その内以下の84件に対して解説を行った。

23年度は、それぞれ220件【小学校21件（744名）、中学校37件（924名）、高等学校44件（5,165名）、その他118件（2,848名）】、その内96件に対して解説を行った。

（平成22年度）

見学団体	年 月 日	人数	対応教員等
中国蘭州大学一行	22年4月9日	7	天野
中国南開大学一行	22年4月9日	9	天野
札幌オープンカレッジ	22年4月18日	12	湯浅
JICEフィリピン学生訪問団	22年4月19日	32	天野
日本学生支援機構一行	22年4月28日	5	天野
いなみ野学園園芸学科	22年5月12日	82	湯浅他
留萌市立潮静小学校	22年5月21日	6	石橋他
嶺南大学（韓国）副学長一行	22年5月21日	4	天野
アメリカ教育省副長官一行	22年5月26日	8	松枝
千歳市立向陽台中学校	22年5月28日	6	在田他
（社）桜蔭会北海道支部	22年5月29日	10	新妻他
中国・日本韓国訪問団	22年5月31日	7	松枝
中国重慶大学副学長一行	22年6月10日	9	松枝
中国大連理工大学一行	22年6月11日	6	天野
中国湖南大学副学長一行	22年6月17日	6	松枝
札幌市中央区食生活改善推進員協議会	22年6月18日	40	松枝他

北大理学部科学科昭和37年卒業生同期会	22年 6月 23日	20	有馬他
慶熙大校（韓国）教育大学院生一行	22年 6月 24日	35	高橋
新ひだか町教育委員会	22年 6月 26日	42	有馬他
北海道大学留学生センター	22年 7月 2日	30	松枝他
Y F U北海道	22年 7月 4日	20	小林
むかわ町立鶴川中学校	22年 7月 14日	12	有馬
北海道日英協会	22年 7月 16日	40	天野他
北広島西部中学校	22年 7月 16日	10	有馬他
南幌町さわやかビレッジ	22年 7月 21日	45	湯浅他
文部科学省基盤政策課長一行	22年 7月 23日	2	天野
北大生涯学習学友会	22年 7月 29日	40	湯浅他
文部科学省生涯学習政策局社会教育課企画官	22年 8月 4日	1	天野
G L Pサマーコース	22年 8月 10日	30	千葉他
駐日リトアニア大使館文化担当官	22年 8月 10日	1	天野
チロルスキー山岳会	22年 8月 21日	25	中野
福岡大学	22年 8月 23日	30	湯浅他
訓子府町立訓子府中学校	22年 8月 23日	5	湯浅他
安平町P T A連合会	22年 8月 28日	40	有馬
斜里町立斜里中学校	22年 9月 1日	6	有馬他
帯広市立花園小学校	22年 9月 2日	12	有馬
広東省外事弁公室一行	22年 9月 3日	9	大原
池田町立池田小学校	22年 9月 8日	10	有馬他
札幌市立向陵中学校家庭教育学級リラの会	22年 9月 9日	25	湯浅他
三石中学校	22年 9月 9日	58	湯浅他
文部科学省専門教育課長一行	22年 9月 10日	3	松枝
全国国公立機関ガラス技術者の会	22年 9月 10日	35	有馬他
数理生物学会	22年 9月 15日	5	石田
北海道女性国際交流連絡協議会	22年 9月 28日	15	有馬他
北海道美術館協力会特別活動部	22年 10月 1日	17	有馬
日本郵便（J P）グループ	22年 10月 2日	50	木下
札幌市環境プラザ	22年 10月 2日	19	有馬
札幌啓成高等学校	22年 10月 6日	43	松枝他
札幌商工会議所観光ボランティアの会	22年 10月 7日	20	藤田他
登別明日中等教育学校	22年 10月 15日	27	有馬他
名古屋大学研究協力部長一行	22年 10月 18日	2	松枝
札幌市立白石中学校	22年 10月 20日	7	有馬
全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会北海道・東北ブロック会議	22年 10月 22日	20	天野
理学研究院物理学部門	22年 10月 25日	5	松枝
千歳市立富丘中学校	22年 10月 29日	11	湯浅他
旭川工業高等専門学校	22年 10月 29日	39	石田他
北海道有朋高等学校通信制課程	22年 10月 29日	20	石田他
二国間交流事業共同セミナー	22年 11月 5日	20	天野
韓国大学生訪日研修団	22年 11月 8日	34	天野
札幌市立北辰中学校	22年 11月 11日	7	湯浅他
開智学園総合部中学校	22年 11月 11日	3	有馬他
札幌市立北辰中学校	22年 11月 12日	7	有馬
札幌市立栄南中学校	22年 11月 19日	25	有馬他
大分県佐伯市議会開成会・公明党会派	22年 11月 20日	9	天野
上海海洋大学学長一行	22年 12月 1日	8	松枝
65歳大学（北大医学部保健学科）	22年 12月 3日	15	有馬
中国教育部行政官一行	22年 12月 5日	3	天野
カントー大学（ベトナム）学長一行	22年 12月 17日	4	松枝
オヤジの仲間づくり21の会	22年 12月 18日	7	湯浅

文部科学省事務次官一行	23 年 1 月 13 日	6	松枝
文部科学省研究振興局学術機関課長一行	23 年 1 月 24 日	3	松枝
ソウル女子大学総長一行	23 年 1 月 25 日	5	松枝
北大環境健康科学研究教育センター	23 年 2 月 7 日	12	藤田
神戸女学院大学人間科学部	23 年 2 月 8 日	1	藤田
チェコ共和国大使一行	23 年 2 月 9 日	5	松枝
北海道高等盲学校	23 年 2 月 26 日	1	小林他
東京大学総合研究博物館	23 年 3 月 2 日	1	天野他
ザンビア大学副学長一行	23 年 3 月 16 日	2	松枝
観知草クラブ	23 年 3 月 21 日	18	高橋

(平成23年度)

見学団体名	年 月 日	人数	対応教員等
南幌町立南幌中学校	23 年 5 月 11 日	7	湯浅他
帯広第 1 中学校	23 年 5 月 18 日	10	湯浅他
三笠市立三笠中学校	23 年 5 月 19 日	5	草嶋
根室市立柏陵中学校	23 年 5 月 26 日	11	湯浅
小型エンジン国際会議	23 年 5 月 29 日	4	湯浅
札幌市立もみじ台南中学校	23 年 6 月 3 日	11	湯浅他
在京タイ王国大使館公使参事官一行	23 年 6 月 6 日	3	津曲
函館市立青柳中学校	23 年 6 月 8 日	10	草嶋
札幌市立定山溪中学校	23 年 6 月 10 日	5	草嶋
北海道大学連合同窓会	23 年 6 月 17 日	35	松枝
文部科学省高等教育局学生・留学生課一行	23 年 6 月 20 日	2	松枝
新ひだか町教育委員会	23 年 6 月 25 日	42	湯浅
北海道札幌手稲高等学校	23 年 6 月 30 日	3	湯浅他
学士会一行	23 年 7 月 3 日	5	小林
中川町議会	23 年 7 月 6 日	10	越前谷他
北広島市立西部中学校	23 年 7 月 14 日	5	湯浅
大曲創樹会	23 年 7 月 20 日	34	草嶋
文部科学省研究振興局及び高等教育局一行	23 年 7 月 21 日	2	天野
トヨタ自動車(株) F C 開発部	23 年 7 月 29 日	1	湯浅他
真駒内教会教会学校	23 年 7 月 29 日	24	三嶋他
日本鱗翅学会・日本昆虫学会	23 年 7 月 31 日	40	大原
サイエンスアイ	23 年 8 月 2 日	21	在田
北海道特別支援学校教育職員	23 年 8 月 2 日	35	加藤
北海道特別支援学校教育職員	23 年 8 月 3 日	35	加藤
札幌月寒高等学校	23 年 8 月 11 日	4	津曲他
京都市立堀川高等学校コア S S H モデル中学校	23 年 8 月 20 日	14	湯浅
帯広市立柏小学校	23 年 8 月 23 日	8	草嶋
台湾国立中正大学総長一行	23 年 8 月 25 日	7	津曲
訓子府町立訓子府中学校	23 年 8 月 25 日	7	草嶋
國學院大學	23 年 9 月 6 日	31	湯浅他
北海道教育委員会	23 年 9 月 6 日	20	松枝他
清水町立清水小学校	23 年 9 月 7 日	6	草嶋
留萌市立港南中学校	23 年 9 月 8 日	23	藤田他
砂川市立砂川中学校	23 年 9 月 9 日	12	草嶋他
札幌開成高等学校 P T 会公開講座	23 年 9 月 14 日	72	草嶋
J I C A 生物多様情報システム研修	23 年 9 月 15 日	10	草嶋他
日本学術振興会一行	23 年 9 月 16 日	5	松枝
とわの森三愛高校	23 年 9 月 22 日	35	湯浅
市立函館博物館友の会	23 年 9 月 27 日	20	草嶋
高麗大学一行	23 年 9 月 27 日	10	高橋
札幌市立あやめ野小学校	23 年 9 月 29 日	7	草嶋

札幌市北区市民部地域振興課地域活動担当	23 年 9 月 30 日	35	湯浅他
札幌市北区市民部地域振興課まちづくり調整担当			
	23 年 9 月 30 日	35	湯浅他
日本自動車技術会	23 年 10 月 6 日	2	湯浅
積丹町女性団体連絡協議会	23 年 10 月 6 日	30	湯浅
京畿科学高校（韓国）	23 年 10 月 7 日	2	高橋
財団法人スポーツ安全協会	23 年 10 月 18 日	3	松枝
札幌市立宮の森中学校	23 年 10 月 19 日	2	大原
札幌市立陵北中学校 P T A	23 年 10 月 21 日	50	藤田他
札幌市白石区介護予防センター	23 年 10 月 25 日	10	草嶋
生きがいサロン・てんやわんや	23 年 10 月 25 日	16	草嶋
生きがいサロン・てんやわんや	23 年 10 月 26 日	17	草嶋
江別市立江別第三中学校	23 年 10 月 27 日	25	草嶋他
ラポール二十四軒 2 号館「ふれ合い親交会」			
	23 年 10 月 27 日	15	藤田
札幌手稲高等学校	23 年 10 月 27 日	5	湯浅他
生きがいサロン・てんやわんや	23 年 10 月 27 日	17	草嶋
千歳市立富丘中学校	23 年 10 月 28 日	18	草嶋
生きがいサロン・てんやわんや	23 年 10 月 28 日	13	草嶋
生きがいサロン・てんやわんや	23 年 10 月 29 日	16	草嶋
札幌市立新琴似緑小学校	23 年 11 月 1 日	58	在田他
クラーク記念国際高等学校札幌大通キャンパス			
	23 年 11 月 4 日	12	草嶋
ユネスコジャカルタオフィス	23 年 11 月 4 日	1	高橋
小型エンジン国際会議 2 0 1 1	23 年 11 月 7 日	40	湯浅他
中国雲南省林業科学院（中国）	23 年 11 月 7 日	6	高橋
札幌市立北辰中学校	23 年 11 月 10 日	5	草嶋
札幌市立北辰中学校	23 年 11 月 11 日	6	草嶋
南開大学（中国）	23 年 11 月 14 日	4	高橋
教職員互助会厚別支部	23 年 11 月 15 日	25	草嶋
札幌市立篠路中学校	23 年 11 月 18 日	3	大原他
中国地質大学一行	23 年 11 月 21 日	4	小林
文部科学省高等教育局国立大学法人支援課	23 年 12 月 2 日	1	松枝
北海道特別支援学校新篠津高等養護学校	23 年 12 月 23 日	3	加藤他
北海道特別支援学校新篠津高等養護学校	23 年 12 月 24 日	2	加藤他
北海道特別支援学校新篠津高等養護学校	23 年 12 月 25 日	6	加藤他
北海道特別支援学校新篠津高等養護学校	24 年 1 月 7 日	3	加藤他
北海道特別支援学校新篠津高等養護学校	24 年 1 月 8 日	5	加藤他
北海道特別支援学校教育職員	24 年 1 月 11 日	35	加藤
カンボジア教育青年スポーツ省次官一行	24 年 1 月 12 日	10	高橋
文部科学省高等教育局国立大学法人支援課	24 年 1 月 12 日	3	高橋
文部科学省大臣官房会計課財務企画班一行	24 年 1 月 13 日	3	草嶋
嶺南大学校（韓国）	24 年 1 月 17 日	2	天野
東義大学校	24 年 1 月 27 日	2	高橋
A P F I S 2 0 1 2 キャンパスツアー	24 年 2 月 3 日	40	草嶋
酪農学園大学	24 年 2 月 15 日	8	草嶋
文部科学省科学技術・学術政策局産業技術・地域支援課一行			
	24 年 2 月 16 日	2	草嶋
京畿道抱川教育庁	24 年 2 月 24 日	29	藤田
北海道ふるさと回帰支援センター	24 年 2 月 24 日	14	湯浅
文部科学省研究振興局振興企画課一行	24 年 3 月 2 日	2	天野
会計検査院事務総長官房上席企画調査官一行			
	24 年 3 月 6 日	2	松枝
札幌市手稲郷土史研究会	24 年 3 月 28 日	10	湯浅

VI. 社会教育・普及活動

1. 博物館セミナー（平成22年度～平成23年度）

平成22(2010)年度（31回）

第 245 回総合博物館セミナー

講師：松枝大治（新館長・総合博物館資料開発研究系教授）

日時：2010 年 4 月 10 日

「新任館長 挨拶」（土曜市民セミナー）

第 246 回総合博物館セミナー

講師：近藤憲久（根室市歴史と自然の資料館・学芸主査）

日時：2010 年 4 月 17 日

「北の海と自然」（土曜市民セミナー(GCOE)）

第 247 回総合博物館セミナー

講師：若松 幹男（北海道地質調査業協会 技術アドバイザー）

岩本 好正（札幌軟石文化を語る会 代表）

地蔵 守（石工の会 会員）

日時：2010 年 5 月 1 日

「札幌軟石 いま・昔」

（企画展示「わが街の文化遺産 札幌軟石」関連 土曜市民セミナー）

第 248 回総合博物館セミナー

講師：石井 寛（北海道大学・名誉教授）

日時：2010 年 5 月 8 日

「民主党政権の温暖化対策」（土曜市民セミナー）

第 249 回総合博物館セミナー

講師：松田良孝（八重山毎日新聞）

日時：2010 年 5 月 15 日

「八重山に息づく台湾一境域に暮らす」（土曜市民セミナー(GCOE)）

第 250 回総合博物館セミナー

講師：北村清彦（北海道大学文学研究科・教授）

日時：2010 年 6 月 12 日

「都市公園の美学的問題圏」（土曜市民セミナー）

第 251 回総合博物館セミナー

講師：山上 博信（国立民族学博物館 共同研究員・日本島嶼学会 理事）

日時：2010 年 6 月 19 日

「八丈島の兄弟—小笠原諸島と開拓 110 周年を迎えた南北大東島」

（土曜市民セミナー(GCOE)）

第 252 回総合博物館セミナー

講師：細川敏幸

（北海道大学高等教育機能開発総合センター高等教育開発研究部・部長）

日時：2010 年 6 月 26 日

「次世代 F D・T A が支える大学教育の新たな展開」（第 10 回教育 GP セミナー）

第 253 回総合博物館セミナー

講師：石田祐也（北海道大学理学院・修士 2 年）

日時：2010 年 7 月 10 日

「ベーリング海峡を渡った恐竜」 (土曜市民セミナー)

第 254 回総合博物館セミナー

講師：陳 天璽 (国立民族学博物館 准教授)

日時：2010 年 7 月 17 日

「無国籍を生きる」 (土曜市民セミナー (GCOE))

第 255 回総合博物館セミナー

講師：印南比呂志 (滋賀県立大学人間文化学部・教授)

日時：2010 年 7 月 24 日

「『地域教育の行方』—地域活動と大学教育の連携—」 (第 11 回教育 GP セミナー)

第 256 回総合博物館セミナー

日時：2010 年 8 月 14 日

「北海道立開拓記念館・札幌市博物館活動センター・北大総合博物館共催フォーラム 北海道の博物館の未来—将来構想を考える—」 (土曜市民セミナー)

第 257 回総合博物館セミナー

講師：出水 薫 (九州大学法学研究院・韓国研究センター 教授)

日時：2010 年 8 月 22 日

「緊張と交流の海峡—九州から見る朝鮮半島」 (市民セミナー (GCOE))

第 258 回総合博物館セミナー

講師：寺沢浩一 (北海道大学医学研究科・教授)

日時：2010 年 9 月 11 日

「法医学と博物館 (道民カレッジ連携講座)」 (土曜市民セミナー)

第 259 回総合博物館セミナー

講師：松原 孝俊 (九州大学韓国研究センター長)

日時：2010 年 9 月 18 日

「海峡あれど国境なし—福岡・釜山フォーラムの事例を通じて」
(土曜市民セミナー)

第 260 回総合博物館セミナー

講師：青木豊 (國學院大學文学部・教授)

日時：2010 年 9 月 25 日

「大学院における高度博物館学教育の実践」 (第 12 回教育 GP セミナー)

第 261 回総合博物館セミナー

講師：伊藤 雄三 (元北大情報科学研究科、日本科学者会議会員)

日時：2010 年 10 月 9 日

「私達と自然エネルギーの未来 (道民カレッジ連携講座)」 (土曜市民セミナー)

第 262 回総合博物館セミナー

講師：安溪遊地 (山口県立大学教授)

安溪貴子 (山口大学非常勤講師)

日時：2010 年 10 月 16 日

「済州島から与那国へ—530 年前の漂流と辺境の民の記憶力」 (土曜市民セミナー (GCOE))

第 263 回総合博物館セミナー

講師：中村恵子 (札幌市立大学・副学長)

日時：2010 年 10 月 23 日

「看護学教育における OSCE の実際—市民の模擬患者と共に—」
(第 13 回教育 GP セミナー)

第 264 回総合博物館セミナー

講師：パヴェル・コホウト（オルガニスト）

日時：2010 年 11 月 9 日

「ヨーロッパにおけるバロック音楽の西と東」（GCOE 市民セミナー（GCOE））

第 265 回総合博物館セミナー

講師：ロシヤン マハビール（北大医学研究科 医学専攻 博士課程）

日時：2010 年 11 月 13 日

「トリニダード トバゴ共和国の歴史と文化、自然 …常夏の島…
（道民カレッジ連携講座）」（総合博物館 土曜市民セミナー）

第 266 回総合博物館セミナー

講師：ビル・キロガ（ネイティブアメリカンボタニクス社）

日時：2010 年 11 月 20 日

「インディアンの土地における事業：ビジネスを通じた機会の創造」
（土曜市民セミナー（GCOE））

第 267 回総合博物館セミナー

講師：杉山滋郎

（高等教育機能開発総合センター科学技術コミュニケーション研究部・部長）

日時：2010 年 11 月 27 日

「CoSTEP これまでとこれから」（第 14 回教育 GP セミナー）

第 268 回総合博物館セミナー

講師：藤田 良治（北大総合博物館 博物館教育・情報メディア研究系 助教）

日時：2010 年 12 月 11 日

「博物館における映像情報デザイン （道民カレッジ連携講座）」
（総合博物館 土曜市民セミナー）

第 269 回総合博物館セミナー

講師：水嶋英治（常磐大学大学院コミュニティ振興学研究科・研究科長・教授）
平井康之

（九州大学大学院芸術工学研究院デザインストラテジー部門・准教授）

三島美佐子（九州大学総合研究博物館開示研究系・准教授）

日時：2010 年 12 月 18 日

「大学博物館から拓く学生教育の未来 3」（2010 年度教育 GP シンポジウム）

第 270 回総合博物館セミナー

講師：在田一則（北大総合博物館資料部、元北大理学研究院教授）

日時：2011 年 1 月 8 日

「北海道の背骨の生い立ちを探る ～衝突によってできた日高山脈～
（道民カレッジ連携講座）」（総合博物館 土曜市民セミナー）

第 271 回総合博物館セミナー

講師：脇田稔（北海道大学・副学長）

日時：2011 年 1 月 29 日

「教育の改革と将来像」（第 15 回教育 GP セミナー）

第 272 回総合博物館セミナー

講師：カースティン・エリクソン（アーカンソー大学・准教授）

日時：2011 年 2 月 11 日

「追憶のヤキ儀礼：聖なる空間、女性の労働、死者のための 2 つの儀式における
文化的持続性」（GCOE 市民セミナー（GCOE））

第 273 回総合博物館セミナー

講師：古澤 仁（札幌市博物館活動センター）

日時：2011 年 2 月 12 日

「豊平川の化石が語る札幌・海の時代 ～サッポロカイギュウと賑やかな仲間たち～
（道民カレッジ連携講座）」（総合博物館 土曜市民セミナー）

第 274 回総合博物館セミナー

講師：田村将人（北海道開拓記念館・学芸員）

檜木貴美子

日時：2011 年 2 月 19 日

「アイヌと境界―樺太アイヌの歴史と経験―」（土曜市民セミナー（GCOE））

第 275 回総合博物館セミナー

講師：岡 孝雄（アースサイエンス株式会社、元北海道立地質研究所）

日時：2011 年 3 月 5 日

「豊平川沿いに札幌の生い立ちをさぐる ～北の都の一千万年史～
（道民カレッジ連携講座）」（総合博物館 土曜市民セミナー）

平成 23(2011)年度（26 回）

第 276 回総合博物館セミナー

講師：梅沢 俊（植物写真家）

日時：2011 年 4 月 9 日

「何が出る 豊平川の 花見かな（道民カレッジ連携講座）」
（総合博物館 土曜市民セミナー）

第 277 回総合博物館セミナー

講師：白濱晴久（北海道大学名誉教授）

日時：2011 年 4 月 17 日

「ノーベル賞研究はどんな環境で生まれたのか」
（ノーベル賞特別展示関連セミナー）

第 278 回総合博物館セミナー

講師：窪田幸子他（神戸大学教授）

日時：2011 年 4 月 23 日

座談会―「保苺実の歴史学をいかに受け継ぐのか？」
（保苺実写真展展示関連イベント）

第 279 回総合博物館セミナー

講師：津曲敏郎（北海道大学総合博物館長）

日時：2011 年 4 月 30 日

「モノとコトの博物館 ～新館長あいさつ～（道民カレッジ連携講座）」
（総合博物館 土曜市民セミナー）

第 280 回総合博物館セミナー

講師：望月哲男（北海道大学スラブ研究センター・教授）

日時：2011 年 5 月 15 日

「ロシア文学と境界（道民カレッジ連携講座）」（土曜市民セミナー（GCOE））

第 281 回総合博物館セミナー

講師：藤本和徳（北海道立総合研究機構 地質研究所 所長）

日時：2011 年 5 月 21 日

「札幌の市街地西部山麓にあった温泉（道民カレッジ連携講座）」
（総合博物館 土曜市民セミナー）

第 282 回総合博物館セミナー

講師：宮浦憲夫（北海道大学特任教授）

日時：2011 年 5 月 28 日

「鈴木カップリングのストックホルム随行紀」（ノーベル賞関連セミナー）

第 283 回総合博物館セミナー

講師：吉澤和徳（北海道大学大学院農学研究院准教授）

日時：2011 年 6 月 11 日

「昆虫の起源と初期進化：多様性を生み出した原動力」
（企画展示関連土曜市民セミナー）

第 284 回総合博物館セミナー

講師：アトネル・フザンガイ（国立チュヴァシ人文科学研究所）

日時：2011 年 6 月 25 日

「詩人ゲンナジイ・アイギと言語の境界（道民カレッジ連携講座）」
（土曜市民セミナー（GCOE））

第 285 回総合博物館セミナー

講師：久万田敏夫（元 北海道大学農学部教授）

日時：2011 年 7 月 9 日

「葉に潜る昆虫－ホソガ科」（企画展示関連土曜市民セミナー）

第 286 回総合博物館セミナー

講師：若島 正（京都大学教授）

日時：2011 年 7 月 16 日

「ナボコフとジャンル越境（道民カレッジ連携講座）」（土曜市民セミナー（GCOE））

第 287 回総合博物館セミナー

講師：青山慎一（日本鱗翅学会会員）

日時：2011 年 8 月 13 日

「世界の蝶の地理分布－展示解説を主体に－」（企画展示関連土曜市民セミナー）

第 288 回総合博物館セミナー

講師：伊東信宏（大阪大学教授）

日時：2011 年 8 月 21 日

「ハイドンの境界性（道民カレッジ連携講座）」（土曜市民セミナー（GCOE））

第 289 回総合博物館セミナー

講師：稲荷尚紀（北海道大学総合博物館資料部研究員）

日時：2011 年 9 月 10 日

「花と昆虫の利害関係」（企画展示関連土曜市民セミナー）

第 290 回総合博物館セミナー

講師：井上暁子（北海道大学スラブ研究センター非常勤研究員）

日時：2011 年 9 月 17 日

「ポーランド移民と越境－知覚される境界、横断される境界－
（道民カレッジ連携講座）」（土曜市民セミナー（GCOE））

第 291 回総合博物館セミナー

講師：ルウ マティロ ティモ ビオ アーガスティン

（北海道大学大学院環境科学院博士課程）

日時：2011 年 10 月 8 日

「アフリカの有名な小国－ベナン」（総合博物館 土曜市民セミナー）

第 292 回総合博物館セミナー

講師：三谷研爾（大阪大学文学部 教授）

日時：2011 年 10 月 15 日

「プラハの作家カフカー言語と民族の境界を生きるー（道民カレッジ連携講座）」
（土曜市民セミナー（GCOE））

第 293 回総合博物館セミナー

講師：白土博樹（北海道大学大学院医学研究科教授）

日時：2011 年 10 月 22 日

「がんの放射線治療の歴史と最先端技術～健やかに人間らしく生きるために～」
（サステナビリティ・ウィーク 2011 特別講演会）

第 294 回総合博物館セミナー

講師：加藤博文

（アイヌ・先住民研究センター教授）

日時：2011 年 11 月 12 日

「大陸から島へ：海洋適応と民族形成」（総合博物館 土曜市民セミナー）

第 295 回総合博物館セミナー

講師：亀田真澄（東京大学大学院/ 日本学術振興会特別研究員）

日時：2011 年 11 月 19 日

「旧ユーゴ圏内における境界を巡る記憶の語り
ーセルビア、クロアチア、ボスニアの現代作家による試み（道民カレッジ連携講座）」
（土曜市民セミナー（GCOE））

第 296 回総合博物館セミナー

講師：高橋英樹（北海道大学総合博物館教授）

日時：2011 年 12 月 10 日

【冬の企画展示 予告編】「クラーク博士と札幌の植物」
（企画展示関連土曜市民セミナー）

第 297 回総合博物館セミナー

講師：武田雅哉（北海道大学大学院文学研究科教授）

日時：2011 年 12 月 17 日

「中国プロパガンダ・ポスターの世界」（土曜市民セミナー（GCOE））

第 298 回総合博物館セミナー

講師：中根研一（北海学園大学法学部准教授）

日時：2012 年 1 月 21 日

「中国怪獣総進撃ーメディアの中の怪獣文化」（土曜市民セミナー（GCOE））

第 299 回総合博物館セミナー

講師：下村政嗣（東北大学原子分子材料科学高等研究機構教授）

日時：2012 年 2 月 4 日

「生物に学ぶ：バイオミメティックスと技術革新」
（バイオミメティックス市民セミナー）

第 300 回総合博物館セミナー

講師：松枝大治・天野哲也（北海道大学大学総合博物館特任教授）

日時：2012 年 2 月 11 日

「定年退職記念講演」（総合博物館 土曜市民セミナー）

第301回総合博物館セミナー

講師：渡辺浩平（北海道大学メディア・コミュニケーション研究院教授）
日時：2012年2月18日
「越境する中国のメディア」（土曜市民セミナー(GCOE)）

第302回総合博物館セミナー
講師：下澤楯夫（北海道大学名誉教授）
日時：2012年2月19日
「コオロギに学ぶ：センサーの設計図」（バイオミメティックス市民セミナー）

第303回総合博物館セミナー
講師：スヴェトラナ・チャバネンコ
（サハリン植物園・北海道大学総合博物館特任教授）
日時：2012年3月10日
「クラーク博士の採集した地衣類」（総合博物館 土曜市民セミナー）

第304回総合博物館セミナー
講師：泉京鹿（中国文学翻訳家）
日時：2012年3月24日
「現代小説の中の中国女性たちの彼方」（土曜市民セミナー(GCOE)）

第305回総合博物館セミナー
講師：針山孝彦（浜松医科大学医学部教授）
日時：2012年3月31日
「タマムシに学ぶ：構造色と農業応用」（バイオミメティックス市民セミナー）

2. 公開シンポジウム（平成22年度～平成23年度）

平成22(2010)年度（1回）
第36回（2010年8月1日）
「環オホーツクの海藻」
第37回（2010年12月18日）
「大学博物館から拓く学生教育の未来3」

平成23(2011)年度（2回）
第38回（2012年1月9日）
「絶滅動物化石の最新研究 in 2012：爬虫類・恐竜・鳥類・哺乳類」
第39回（2012年3月2日）
「北大総合博物館シンポジウム『クラーク博士とアジアの植物学』」

3. パラタクソノミスト養成講座（平成22年度～平成23年度）

平成22(2010)年度（30回）

「鉄器パラタクソノミスト養成講座（初級）」
第100回パラタクソノミスト養成講座（鉄器）
講師：天野哲也（北海道大学総合博物館・教授）
日時：2010年4月17日（土）
会場：北海道大学総合博物館

「昆虫パラタクソノミスト養成講座（中級：マルハナバチ属）」
第101回パラタクソノミスト養成講座（昆虫）
講師：稲荷尚記（北海道大学総合博物館・資料部研究員）
伊藤誠夫（北海道大学総合博物館・資料部研究員）
日時：2010年6月5日（土）～6月6日（日）
会場：北海道大学総合博物館

「土器パラタクソノミスト養成講座（初級）」
第 102 回パラタクソノミスト養成講座（考古）
講師：小野裕子（北海道大学総合博物館・学術研究員）
日時：2010 年 6 月 6 日（日）
会場：北海道大学総合博物館

「岩石パラタクソノミスト養成講座（初級）」
第 103 回パラタクソノミスト養成講座（岩石・鉱物）
講師：在田一則（北海道大学総合博物館・資料部研究員）
日時：2010 年 6 月 12 日（土）～6 月 13 日（日）
会場：北海道大学総合博物館

「植物パラタクソノミスト養成講座（初級）」
第 104 回パラタクソノミスト養成講座（植物）
講師：持田誠（北海道大学総合博物館・資料部研究員）
高橋英樹（北海道大学総合博物館・教授）
日時：2010 年 7 月 3 日（土）～7 月 4 日（日）
会場：北海道大学総合博物館

「植物パラタクソノミスト養成講座（中級：スゲ属植物）」
第 105 回パラタクソノミスト養成講座（植物）
講師：勝山輝男（神奈川県立生命の星・地球博物館）
日時：2010 年 7 月 10 日（土）～7 月 11 日（日）
会場：北海道大学総合博物館

「植物パラタクソノミスト養成講座（中級：水草）」
第 106 回パラタクソノミスト養成講座（植物）
講師：山崎真実（札幌市博物館活動センター・学芸員）
日時：2010 年 7 月 17 日（土）～7 月 18 日（日）
会場：北海道大学総合博物館

「海藻パラタクソノミスト養成講座（初級）」
第 107 回パラタクソノミスト養成講座（海藻）
講師：四ツ倉典滋（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター・助教）
阿部剛史（北海道大学総合博物館・助教）
日時：2010 年 7 月 31 日（土）
会場：忍路臨海実験所

「魚類パラタクソノミスト養成講座（中級）」
第 108 回パラタクソノミスト養成講座（魚類）
講師：河合俊郎（北海道大学総合博物館・助教）
矢部衛（北海道大学大学院水産科学研究院・教授）
今村央（北海道大学大学院水産科学研究院・准教授）
日時：2010 年 8 月 4 日（水）～8 月 5 日（木）
会場：北海道大学函館キャンパス

「海鳥パラタクソノミスト養成講座（初級）」
第 109 回パラタクソノミスト養成講座（海鳥）
講師：綿貫豊（北海道大学大学院水産科学研究院・准教授）
日時：2010 年 8 月 9 日（月）～8 月 10 日（火）
会場：北海道大学函館キャンパス

「昆虫パラタクソノミスト養成講座（中級：コウチュウ目）」
第 110 回パラタクソノミスト養成講座（昆虫）

講師：大原昌宏（北海道大学総合博物館・准教授）
澤田義弘（大阪府箕面公園昆虫館・学芸員）
日時：2010年8月28日（土）～8月29日（日）
会場：北海道大学総合博物館

「ザリガニパラタクソノミスト養成講座（初級）」
第111回パラタクソノミスト養成講座（ザリガニ）
講師：川井唯史（稚内水産試験場）
日時：2010年9月4日（土）～9月5日（日）
会場：北海道大学総合博物館

「きのこパラタクソノミスト養成講座（初級）」
第112回パラタクソノミスト養成講座（きのこ）
講師：小林孝人（北海道大学総合博物館・資料部研究員）
日時：2010年9月11日（土）
会場：北海道大学総合博物館

「岩石パラタクソノミスト養成講座（中級）」
第113回パラタクソノミスト養成講座（岩石・鉱物）
講師：在田一則（北海道大学総合博物館・資料部研究員）
日時：2010年9月18日（土）～9月19日（日）
会場：北海道大学総合博物館

「岩石・鉱物野外採集会」
第114回パラタクソノミスト養成講座（岩石・鉱物）
講師：松枝大治（北海道大学総合博物館・教授）
日時：2010年10月9日（土）～10月10日（日）
会場：道南方面

「植物パラタクソノミスト養成講座（中級：イネ科植物）」
第115回パラタクソノミスト養成講座（植物）
講師：木場英久（桜美林大学・准教授）
日時：2010年10月30日（土）
会場：北海道大学総合博物館

「石器パラタクソノミスト養成講座（上級）」
第116回パラタクソノミスト養成講座（考古）
講師：高倉純（北海道大学埋蔵文化財調査室・助教）
日時：2010年11月3日（水・祝）
会場：北海道大学総合博物館

「植物パラタクソノミスト養成講座（初級：コケ植物）」
第117回パラタクソノミスト養成講座（植物）
講師：内田暁友（斜里町立知床博物館・学芸員）
日時：2010年11月6日（土）
会場：北海道大学総合博物館

「木製品パラタクソノミスト養成講座（初級）」
第118回パラタクソノミスト養成講座（考古）
講師：守屋豊人（北海道大学埋蔵文化財調査室・室員）
佐野雄三（北海道大学大学院農学院・助教）
渡邊陽子（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター・学術研究員）
日時：2010年11月13日（土）
会場：北海道大学総合博物館

「鉱物パラタクソノミスト養成講座（初級）」
第 119 回パラタクソノミスト養成講座（岩石・鉱物）
講師：三浦裕行（北海道大学大学院理学研究院・講師）
日時：2010 年 11 月 14 日（日）
会場：北海道大学総合博物館

「鉱物パラタクソノミスト養成講座（中級）」
第 120 回パラタクソノミスト養成講座（岩石・鉱物）
講師：三浦裕行（北海道大学大学院理学研究院・講師）
日時：2010 年 11 月 27 日（土）
会場：北海道大学総合博物館・理学部

「鉱床パラタクソノミスト養成講座（中級）」
第 121 回パラタクソノミスト養成講座（岩石・鉱物）
講師：松枝大治（北海道大学総合博物館・教授）
鳥本准司（北海道大学総合博物館）
日時：2010 年 12 月 11 日（土）～12 月 12 日（日）
会場：北海道大学総合博物館

「鉱物パラタクソノミスト養成講座（上級）」
第 122 回パラタクソノミスト養成講座（岩石・鉱物）
講師：三浦裕行（北海道大学大学院理学研究院・講師）
日時：2010 年 12 月 18 日（土）
会場：北海道大学理学部

「木製品パラタクソノミスト養成講座（中級）」
第 123 回パラタクソノミスト養成講座（考古）
講師：守屋豊人（北海道大学埋蔵文化財調査室・室員）
佐野雄三（北海道大学大学院農学院・助教）
渡邊陽子（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター・学術研究員）
日時：2011 年 1 月 22 日（土）～1 月 23 日（日）
会場：北海道大学総合博物館

「昆虫パラタクソノミスト養成講座（初級）」
第 124 回パラタクソノミスト養成講座（昆虫）
講師：大原昌宏（北海道大学総合博物館・准教授）
澤田義弘（大阪府箕面公園昆虫館・学芸員）
稲荷尚記（北海道大学総合博物館・資料部研究員）
日時：2011 年 1 月 29 日（土）～1 月 30 日（日）
会場：北海道大学総合博物館

「鉱床パラタクソノミスト養成講座（上級）」
第 125 回パラタクソノミスト養成講座（岩石・鉱物）
講師：松枝大治（北海道大学総合博物館・教授）
高橋亮平（九州大学大学院工学研究院・研究員）
日時：2011 年 2 月 12 日（土）～2 月 13 日（日）
会場：北海道大学総合博物館

「化石パラタクソノミスト養成講座（初級）」
第 126 回パラタクソノミスト養成講座（化石）
講師：小林快次（北海道大学総合博物館・准教授）
日時：2011 年 2 月 19 日（土）
会場：北海道大学総合博物館

「岩石パラタクソノミスト養成講座（上級）」

第 127 回パラタクソノミスト養成講座（岩石・鉱物）

講師：在田一則（北海道大学総合博物館・資料部研究員）

松枝大治（北海道大学総合博物館・教授）

日時：2011 年 2 月 19 日（土）～2 月 20 日（日）

会場：北海道大学総合博物館

「昆虫パラタクソノミスト養成講座（上級：コウチュウ目）」

第 128 回パラタクソノミスト養成講座（昆虫）

講師：大原昌宏（北海道大学総合博物館・准教授）

澤田義弘（大阪府箕面公園昆虫館・学芸員）

日時：2011 年 3 月 5 日（土）～3 月 6 日（日）

会場：北海道大学総合博物館

「魚類パラタクソノミスト養成講座（初級）」

第 129 回パラタクソノミスト養成講座（魚類）

講師：河合俊郎（北海道大学総合博物館・助教）

矢部衛（北海道大学大学院水産科学研究院・教授）

今村央（北海道大学大学院水産科学研究院・准教授）

日時：2011 年 3 月 5 日（土）～3 月 6 日（日）

会場：北海道大学総合博物館

平成 23(2011)年度 （23 回）

「考古学・土器パラタクソノミスト養成講座（初級）」

第 130 回パラタクソノミスト養成講座（考古）

講師：小野裕子（北海道大学総合博物館・学術研究員）

日時：2011 年 7 月 2 日（土）

会場：北海道大学総合博物館

「植物パラタクソノミスト養成講座 in 帯広（初級）」

第 131 回パラタクソノミスト養成講座（植物）

講師：持田 誠（帯広百年記念館・学芸調査員）

日時：2011 年 7 月 23 日（土）～7 月 24 日（日）

会場：帯広百年記念館

「植物パラタクソノミスト養成講座（初級）」

第 132 回パラタクソノミスト養成講座（植物）

講師：加藤ゆき恵（北方生物圏フィールド科学センター）

日時：2011 年 7 月 30 日（土）～7 月 31 日（日）

会場：北海道大学総合博物館

「魚類パラタクソノミスト養成講座（初級）」

第 133 回パラタクソノミスト養成講座（魚類）

講師：河合俊郎（北海道大学総合博物館・助教）

矢部衛（北海道大学大学院水産科学研究院・教授）

今村央（北海道大学大学院水産科学研究院・准教授）

日時：2011 年 8 月 10 日（土）～8 月 11 日（日）

会場：北海道大学総合博物館

「岩石パラタクソノミスト養成講座（初級）」

第 134 回パラタクソノミスト養成講座（岩石）

講師：在田一則（北海道大学総合博物館・資料部研究員）

日時：2011 年 10 月 1 日（土）～10 月 2 日（日）

会場：北海道大学総合博物館

「岩石パラタクソノミスト養成講座（岩石鉱物野外採集会）」

第 135 回パラタクソノミスト養成講座（岩石）

講師：松枝大治（北海道大学総合博物館・特任教授）

日時：2011 年 10 月 8 日（土）

会場：北海道大学総合博物館

「きのこパラタクソノミスト養成講座（初級）」

第 136 回パラタクソノミスト養成講座（菌類）

講師：小林孝人（北海道大学総合博物館・資料部研究員）

日時：2011 年 10 月 9 日（日）

会場：北海道大学総合博物館

「昆虫パラタクソノミスト養成講座（初級）」

第 137 回パラタクソノミスト養成講座（昆虫）

講師：大原昌宏（北海道大学総合博物館・教授）

稲荷尚記（北海道大学総合博物館・資料部研究員）

日時：2011 年 10 月 15 日（土）～10 月 16 日（日）

会場：北海道大学総合博物館

「昆虫パラタクソノミスト養成講座（初級）」

第 138 回パラタクソノミスト養成講座（昆虫）

講師：大原昌宏（北海道大学総合博物館・教授）

日時：2011 年 10 月 19 日（水）～10 月 21 日（金）

・10 月 26 日（水）～10 月 28 日（金）

会場：北海道大学総合博物館

「鉱物パラタクソノミスト養成講座（初級）」

第 139 回パラタクソノミスト養成講座（鉱物）

講師：三浦裕行（北海道大学大学院理学研究院・准教授）

日時：2011 年 10 月 22 日（土）

会場：北海道大学総合博物館

「木製品パラタクソノミスト養成講座（初級）」

第 140 回パラタクソノミスト養成講座（木製品）

講師：守屋豊人（北海道大学埋蔵文化財調査室・室員）

佐野雄三（北海道大学大学院農学研究院・講師）

渡邊陽子（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター・学術研究員）

日時：2011 年 10 月 29 日（土）

会場：北海道大学総合博物館

「鉱物パラタクソノミスト養成講座（中級）」

第 141 回パラタクソノミスト養成講座（鉱物）

講師：三浦裕行（北海道大学大学院理学研究院・准教授）

日時：2011 年 11 月 5 日（土）

会場：北海道大学総合博物館

「鉱物パラタクソノミスト養成講座（上級）」

第 142 回パラタクソノミスト養成講座（鉱物）

講師：三浦裕行（北海道大学大学院理学研究院・准教授）

日時：2011 年 11 月 12 日（土）

会場：北海道大学総合博物館

「石器パラタクソノミスト養成講座（初級）」
第 143 回パラタクソノミスト養成講座（考古）
講師：高倉 純（北海道大学総合博物館・資料部研究員）
日時：2011 年 11 月 13 日（日）
会場：北海道大学総合博物館

「木製品パラタクソノミスト養成講座（中級）」
第 144 回パラタクソノミスト養成講座（木製品）
講師：守屋豊人（北海道大学埋蔵文化財調査室・室員）
佐野雄三（北海道大学大学院農学研究院・講師）
渡邊陽子（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター・学術研究員）
日時：2011 年 11 月 19 日（土）～11 月 20 日（日）
会場：北海道大学総合博物館

「昆虫パラタクソノミスト養成講座（初級）」
第 145 回パラタクソノミスト養成講座（昆虫）
講師：大原昌宏（北海道大学総合博物館・教授）
稲荷尚記（北海道大学総合博物館・資料部研究員）
日時：2011 年 11 月 26 日（土）～11 月 27 日（日）
会場：北海道大学総合博物館

「岩石パラタクソノミスト養成講座（中級）」
第 146 回パラタクソノミスト養成講座（岩石）
講師：在田一則（北海道大学総合博物館・資料部研究員）
日時：2011 年 12 月 3 日（土）～12 月 4 日（日）
会場：北海道大学総合博物館

「鉱床パラタクソノミスト養成講座（初級）」
第 147 回パラタクソノミスト養成講座（鉱床）
講師：松枝大治（北海道大学総合博物館・特任教授）
日時：2011 年 12 月 10 日（土）
会場：北海道大学総合博物館

「昆虫パラタクソノミスト養成講座（甲虫・中級）」
第 148 回パラタクソノミスト養成講座（昆虫）
講師：大原昌宏（北海道大学総合博物館・教授）
稲荷尚記（北海道大学総合博物館・資料部研究員）
古川恒太（北海道大学大学院農学研究院・大学院生）
蓑島悠介（北海道大学大学院農学研究院・大学院生）
日時：2011 年 12 月 17 日（土）～12 月 18 日（日）
会場：北海道大学総合博物館

「鉱床パラタクソノミスト養成講座（中級）」
第 149 回パラタクソノミスト養成講座（鉱床）
講師：松枝大治（北海道大学総合博物館・特任教授）
日時：2012 年 1 月 21 日（土）～1 月 22 日（日）
会場：北海道大学総合博物館

「鉱床パラタクソノミスト養成講座（上級）」
第 150 回パラタクソノミスト養成講座（鉱床）
講師：松枝大治（北海道大学総合博物館・特任教授）
日時：2012 年 1 月 28 日（土）～1 月 29 日（日）
会場：北海道大学総合博物館

「岩石パラタクソノミスト養成講座（上級）」
第 151 回パラタクソノミスト養成講座（岩石）
講師：在田一則（北海道大学総合博物館・資料部研究員）
日時：2012 年 2 月 4 日（土）～2 月 5 日（日）
会場：北海道大学総合博物館

「木製品パラタクソノミスト養成講座（上級）」
第 152 回パラタクソノミスト養成講座（木製品）
講師：守屋豊人（北海道大学埋蔵文化財調査室・室員）
日時：2012 年 2 月 11 日（土）
会場：北海道大学総合博物館

「昆虫パラタクソノミスト養成講座（カメムシ・中級）」
第 153 回パラタクソノミスト養成講座（昆虫）
講師：大原昌宏（北海道大学総合博物館・教授）
山本亜生（小樽市総合博物館学芸員）
日時：2012 年 2 月 18 日（土）
会場：北海道大学総合博物館

4. ボランティア活動

- ・ 13 グループ、222 名登録（2011 年 12 月 1 日現在）
学術標本資料整理、展示解説、ポプラチェンバロのメンテナンスと演奏会、4D シアターなどで博物館活動を支援していただいている。市民、学生、元教員などが参加しており、市民の生涯学習を支援する活動として位置づけている。
 - ・ ボランティア講座&交流会（年 2 回夏と冬開催）
- 2010 年度：**
2010 年 7 月 31 日（講師：高橋英樹、担当：湯浅万紀子・有馬理恵）
2011 年 2 月 6 日（講師：藤田良治、担当：湯浅万紀子・有馬理恵）
- 2011 年度：**
2011 年 5 月 3 日（講師：大原昌宏、担当：湯浅万紀子・草嶋乃美）
2012 年 2 月 11 日（講師：天野哲也・松枝大治、担当：湯浅万紀子・草嶋乃美）
- ・ 三岸好太郎美術館見学会
2011 年 6 月 24 日（講師：苔名直子（三岸好太郎美術館学芸員、担当：湯浅万紀子・草嶋乃美）

5. カルチャーナイト

- 2010 年 7 月 23 日** チェンバロと星空の夕べ
常設展・企画展の時間延長公開、開幕直前の「アラスカの恐竜」展の展示物・タルボサウルスの全身骨格標本の特別公開、チェンバロ演奏会、宇宙の 4D シアター、プラネタリウム、夏の星座の観望会
主催：北大総合博物館
協力：札幌星仲間、北大天文同好会
- 2011 年 7 月 15 日** チェンバロと星空の夕べ
常設展・企画展の時間延長公開、チェンバロ演奏会、宇宙の 4D シアター、プラネタリウム、夏の星座の観望会
主催：北大総合博物館
協力：札幌星仲間、北大天文同好会

6. 博物館まつり

- 2010 年度：**
2011 年 3 月 19-21 日予定、東日本大震災のため無期延期
- 2011 年度：**
2012 年 3 月 17 日、18 日、20 日
3 月 17 日

研究報告会
松枝特任教授と天野特任教授による退職記念講演
宇宙の4Dシアター「火星を旅しよう！」（4Dボランティア）

3月18日

年次報告会
シンポジウム「博物館資料の重要性——東日本大震災の津波被害を受けた博物館資料
のレスキューから考えること」

パネリスト：藤井千春（岩手県立博物館）

馬渡駿輔（北大総合博物館 元館長）

高橋英樹、大原昌宏、小林快次（北大総合博物館）

バックヤードツアー（地学ボランティア、植物ボランティア）

展示解説ツアー（展示解説ボランティア、ミュージアムクラブ Mouseion）

チェンバロコンサート（チェンバロボランティア）

3月20日

岩石鑑定・同定会（地学ボランティア）

展示解説ツアー（展示解説ボランティア、ミュージアムクラブ Mouseion）

「サイエンスパーク in 北大総合博物館 ノーベル化学賞鈴木章先生と見て、触れて、楽し
み、学ぼう！」（次項参照）

3日間連続

お宝公開

松枝特任教授と天野特任教授の退職記念特別展示（制作担当：倉千晴・

沼崎麻子（ミュージアムマイスター））

北大カフェプロジェクトとHUISAによるワールドカフェ

ミュージアムショップセール

7. サイエンスパーク in 北大総合博物館

2012年3月20日

「サイエンスパーク in 北大総合博物館

ノーベル化学賞鈴木章先生と見て、触れて、楽しみ、学ぼう！」

主催：北海道、北海道教育委員会、北大総合博物館

対象：道内の小学5、6年生の親子50組

司会進行：木下大旗・大西凜（ミュージアムマイスター）

内容：ノーベル化学賞受賞者・鈴木章名誉教授と、高橋はるみ道知事と共に学べる科学実験イベ
ント。鈴木名誉教授による講演、参加者との質疑応答、クロスカップリングの実験（指導：山
本靖典（北大大学院工学研究院））、国際科学オリンピックメダリストの道内高校生からのメ
ッセージなど。

館内外でプログラムを同時中継し、OCWから公開。

8. 道新ぶんぶんクラブ共催講座「エルムの杜の宝物」

2010年度：

第1回（6月）「恐竜研究最前線」（小林快次／古生物学）

第2回（7月）「北海道酪農の源流」（近藤誠司・中辻浩喜／家畜生産学）

第3回（8月）「歴史的建築物を巡る初のキャンパスツアー」（池上重康／近代建築史学）

第4回（9月）「遺跡群を歩いて訪ねる、初のエコキャンパスツアー」（天野哲也・小野裕子
／考古学）

第5回（10月）「先人が残した海藻標本と現代」（阿部剛史／海藻分類学）

第6回（2月）「雪、氷はなぜできるのか」（古川義純／結晶成長学）

2011年度：

第1回（6月）「私たちの地球はムシだらけ 昆虫の多様な世界」（大原昌宏／昆虫分類学）

第2回（7月）「歴史的建築物を巡るキャンパスツアー」（池上重康／近代建築史学）

第3回（8月）「植物観察のエコキャンパスツアー」（高橋英樹／植物体系学）

第4回（9月）「ティラノサウルスの謎」（小林快次／古脊椎動物学）

第5回（10月）「遺跡群から見た北大キャンパスと周辺域の歴史」（天野哲也／考古学）

VII. 各種協定締結状況 (2011年度まで)

1. ロシア・サハリン州立郷土博物館 (2000年8月1日より)
2. アメリカ・アラスカ大学博物館 (2005年11月1日より)
3. ドイツ・ゼンケンベルグ自然史博物館 (2009年11月18日より)
4. フランス・ストラスブール動物学博物館 (2009年11月20日より)
5. ロシア・ハバロフスク州立グロデコフ博物館 (2010年4月1日より)
6. ロシア・ハバロフスク州ニコラエフスク・ナ・アムーレ市立博物館 (2010年4月1日より)
7. ロシア・アルセニエフ総合博物館 (2010年4月1日より)
8. ロシア・北東総合科学研究所 (マガダン) (2010年8月1日より)
9. ロシア・カムチャッカ国立工科大学 (2010年8月20日より)
10. インドネシア・Padjadjaran 大学地質学部 (2011年2月24日より)
11. インドネシア・科学省生物研究センター (2011年2月25日より)
12. ロシア・イルクーツク工科大学 (2011年6月1日より)
13. 韓国・国立生物資源研究所 (NIBR) (2012年2月9日より)

VIII. 刊行物等 (平成22(2010)～23(2011)年度)

- ・ Bulletin of the Hokkaido University Museum (北大総合博物館研究報告) :
- ・ マテリアル・レポート :
- ・ 展示図録 :
 - 『アラスカの恐竜』 (2010年7月)
 - 『わが街の文化遺産 札幌軟石』 (2011年3月)
 - 『豊平川と私たち』 (2011年3月)
 - 『「チョウとガ」が超わかる本』 (2011年6月)
 - 『クラーク博士と札幌の植物』 (2012年3月)
- ・ パラタクソノミスト養成講座・ガイドブックシリーズ :
 6. 『土壌ダニ (初級・中級) 採集・標本作製編』 (2011年3月31日)
 7. 『鉄器の観察・記録・保存法 (初級) 編』 (2011年3月31日)
 8. 『マルハナバチ属昆虫 (中級) 編』 (2011年3月31日)
 9. 『石器 (初級) 編』 (2011年3月31日)
 10. 『鉋床 (中級) 鉋床鉋物の観察・同定編』 (2011年3月31日)
- ・ 北大エコキャンパス読本 :
 - 『改定版 北大エコキャンパス読本—考古学編—』 (2011年3月31日)
 - 『北大エコキャンパス読本—建築遺産編—』 (2011年3月31日)
 - 『改定版 北大エコキャンパス読本—植物編—』 (改訂版3刷 2011年3月31日)
- ・ 北海道大学総合博物館ニュース :
 - 21号 (2010年6月)
 - 22号 (2011年3月)
 - 23号 (2011年9月)
 - 24号 (2012年3月)

第2部 博物館教員の活動記録

【研究部資料基礎研究系】

高橋英樹

TAKAHASHI Hideki

資料基礎研究系 教授

○研究内容の概要

1. 樺太・千島地域産維管束植物の分類地理学的研究

種の学名は国際的に通用する名前と思われているが、現実には国の違いにより異なる学名が使われることがある。このような混乱を整理するため北東ユーラシアの植物相、特に樺太・千島地域から収集された植物標本の精査を行い、植物リストの作成や学名の整理を行っている。

2. 北海道産希少植物の分類学・保全生物学的研究

北海道の希少植物や絶滅危惧植物のリストは整理されつつあるが、分類学的な問題が解決されていないものや保全生物学的な情報が不足している種類も多い。北海道において保全上重要な希少植物（レブンアツモリソウ、リシリヒナゲシなど）についての野外調査を行い、分類学的・生態学的検討を行っている（高橋 2010b、Yamagishi et al. 2010）。

3. 北海道における地域フロアの解明

函館市周辺、礼文島、知床半島、厚岸町大黒島など北海道各地の地域植物相調査を行い、証拠となる押し葉標本を作成している。また礼文島の標本データベースを作成中である。

4. 収蔵標本の整理・分類学研究・分類学史への貢献

北大総合博物館陸上植物標本庫（SAPS）の整理を進め、北方地域における植物分類学研究的基礎作りとして、タイプステータスの確定や調査研究史の解明を行うことで、標本の学術価値を高めようとしている（高橋 2010a, c、Takahashi & Grabovskaya-Borodina 2011）。

5. 花粉形態や花の進化の体系学的・進化的意義

ツツジ科における花粉形態を電子顕微鏡レベルで解明し、分類システムとの整合性を検討している。

○2010 年・2011 年の研究・活動業績

<原著論文>

1. Yamagishi, M., Yoshida, E., Aikoh, T., Kondo, T. and H. Takahashi (2010): A cultivated poppy (*Papaver* sp.) invades wild habitats of *Papaver fauriei* in the mountain area of Rishiri Island, Japan. *Landscape Ecol. Eng.* **6**: 155-159.
2. Takahashi, H. and A. Grabovskaya-Borodina. (2011): Typification of *Acer miyabei* Maxim. *Jpn. Bot.* **86**(6): 367-370.

<著書・図録・目録等>

1. 加藤ゆき恵・高橋英樹. (2010): 『パラタクソノミスト養成講座植物（初級）採集・標本作製編』, 16pp. 北海道大学教育 GP・北海道大学総合博物館, 札幌. 2010. 2. 28.
2. 高橋英樹 (編) (2010a): 『マキシモヴィッチ・長之助・宮部』, 61pp. 北海道大学総合博物館, 札幌. 2010. 3.

<総説・解説・報告等>

1. 高橋英樹 (2010b): 北海道の蛇紋岩植物テシオソウの分類と系統. *北方山草* **27**: 13-16. 2010. 3.
2. 高橋英樹 (2010c): 菅原繁蔵 (1876~1967) の植物学的業績. *モーリー* **22**: 52-54. 2010. 7.
3. 高橋英樹 (2010d): 北大で開かれたマキシモヴィッチ展示. *北方博物館交流* **22**: 1, 2010. 11.
4. 高橋英樹 (2011): はるか色丹島から望む、礼文の植物. *モーリー* **24**: 13-15. 2011. 7.

<学会活動>

日本植物分類学会評議員（平成 22 年度）・絶滅危惧植物移入植物専門第一委員会委員（平成 22～23 年度）・学会誌（英文・和文）編集委員（平成 22～23 年度）

日本科学者会議北海道支部常任幹事（平成 22～23 年度）

「すげの会」評議委員

Thaiszia, Journal of Botany (Advisory Editorial Board).

<学会発表等>

高橋英樹（2011）「北方圏の植物分類地理」．日本鱗翅学会・甲虫学会合同シンポジウム「北方圏の成り立ちとその昆虫相」，北海道大学，札幌．2011 年 7 月 30 日．

高橋英樹（2011）「花粉学／花粉形態学分野」．日本花粉学会第 52 回大会シンポジウム「花粉学最前線：IPC/IOPC 2012 Tokyo, Japan」，名城大学，名古屋．2011 年 10 月 8 日．

<一般講演・セミナー発表>

高橋英樹（2011）「クラーク博士と札幌の植物－企画展示予告編」．市民公開セミナー，北海道大学総合博物館，札幌．2011 年 12 月 10 日．

<教育活動>

・農学部 生物資源科学科担当：平成 22 年度（卒論学生 0 名）、平成 23 年度（卒論学生 0 名）．

・農学院 環境資源学専攻 生物生態・体系学講座担当：平成 22 年度（修士 0 名、博士 3 名）、平成 23 年度（修士 0 名、博士 2 名）．

・授業等：

全学教育【一般教育演習「北大エコキャンパスの自然と歴史」（担当）、一般教育演習「北大エコキャンパスの自然－植物学入門」（担当）、総合科目「生物の多様性」（分担）、総合科目「今、大学博物館が面白い－物にこだわる科学」（分担）、総合科目「北大総合博物館で学ぼう－ヒグマ学入門」（分担）、総合科目「大学博物館講座－北大自然史研究の系譜」（担当）】

農学部【「植物分類・生態学」（分担）、「生物資源科学演習」（分担）、「生物資源科学科卒業論文」（分担）】

博物館【学芸員実習（分担）】

農学院【「植物体系学特論」（分担）、「農学院環境資源学演習 I、II」（分担）、「農学院環境資源学研究 I、II」（分担）】

環境科学院・新自然史 COE【「多様性生物学基礎論」（分担）】

大学院共通授業【「博物館学特別講義 I（学術標本・資料学）」（担当）】

北海道教育大学教育学部函館校【集中講義「生命環境多様性論」（22, 23 年度）】

<博物館活動>

総合博物館関連各種委員等

総合博物館運営委員会委員（1999. 10-現在）

展示専門委員会委員（1999. 10-現在）

札幌農学校第二農場の一般公開に関する専門委員会委員（23 年度）

学術標本検討専門委員会委員（1999. 10-現在）

総合博物館点検評価委員会委員

教育 GP 学内運営委員会（22 年度）

教育 GP 事業推進 WG（22 年度）

教育 GP 導入科目・エコキャンパスサブ WG（22 年度）

教育 GP ステップアップ科目・パラタクソノミスト養成講座サブ WG（22 年度）

教育 GP 広報・評価サブ WG（22 年度）

博物館教育

北大キャンパスの遺跡・植物・昆虫観察会（野外観察会）（開催担当・分担：2010、2011 年度各 1 回）

総合博物館植物ボランティア講習会（2010、2011 年度各 1 回）

博物館企画展示

<学内各種委員>

生態環境 TF 委員 (2010 年度-)
歴史的資産活用 TF 委員 (2010 年度-)
埋蔵文化財運営委員会委員 (2009 年度-)
北方生物圏フィールド科学センター運営委員会委員 (2011 年度-)
北大学生サークル YH クラブ顧問教員 (2001 年度-)

<社会貢献>

北海道希少野生動植物指定候補種検討委員会委員 (2002-現在)
北海道都市計画審議会環境影響評価小委員会委員 (2003-現在)
北海道文化財保護審議会委員 (2004-2011)
北海道外来種対策検討委員会委員 (2006-現在)
希少野生動植物種保存推進員 (環境省 (庁)) (2000-現在)
環境省野生生物保護対策検討会検討員 (2005-現在)
環境省「第3次絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会」委員 (2009-)
希少野生動植物種保存推進員 (環境大臣任命)
鉄道・運輸機構「北海道新幹線環境影響事後調査アドバイザー」 (2008. 4-現在)
国際自然保護連合日本植物専門家グループ委員 IUCN Japanese Plants Specialist Group member (2001-現在)

<外部資金>

科学研究費等研究費

基盤研究 (C) : 「分子系統に基づくスゲ属植物の生物地理学的研究 (代表 星野卓二)」 (2009-2010)
基盤研究 (B) : 「南千島における絶滅危惧種・外来生物種の現状調査 (代表 高橋英樹)」 (2009-2012)

教育 GP 関連

質の高い大学教育推進プログラム (文部科学省大学改革推進等補助金) : 「博物館を舞台とした体験型全人教育の推進 (事業推進責任者 高橋英樹)」 (2008-2010)

受託研究費

受託研究 : 「レブンアツモリソウをモデルとした人を含む在来生態系と共生できる絶滅危惧種自生地の復元技術の研究 (代表: 河原孝行)」【環境省地球環境 (公害防止等試験研究 2009-2013)】

<海外調査>

1. ロシア、サンクトペテルブルグ ; 英国、キュー (標本調査)
「ロシアコマロフ植物学研究所標本庫、英国キュー植物園における植物標本調査」(ロシア、英国) 【高橋 : 2010 年 11 月 21 日-12 月 10 日】
2. アメリカ、マサチューセツ (標本調査)
「アメリカマサチューセツ大学におけるクラーク標本調査」(アメリカ) 【高橋 : 2010 年 12 月 16 日-22 日】
3. ロシア、ウラジオストク (標本調査)
「ロシアウラジオストク生物学土壌学研究所標本庫における植物標本調査」(ロシア) 【高橋 : 2011 年 5 月 22 日-26 日】

大原昌宏

ÔHARA Masahiro

資料基礎研究系 准教授 (2011年7月まで)・教授(2011年8月から)

○研究内容の概要

1. アジア熱帯における生物の分断と分散—獣糞にすむ動物群集の生物地理学的研究—

アジア熱帯における過去数千年間に、人が生物分布に与えた影響について、人とともに分布を広げた家畜牛の糞に生息する節足動物(ダニ・昆虫)に着目し、人と牛糞内節足動物群集のかかわりを生物地理学的に解明することを目的とした。

アジア熱帯の家畜牛および野生牛の糞に生息する節足動物を調査し、その群集内における種・個体群の地理的分布がヒト・家畜の分布拡大様式と一致する程度を、形態分類学および分子系統学的手法を用いて解析した。

これらの結果から、島間距離、島サイズなどの関係が「分断・分散・時間スケール(地史から人為攪乱まで)」として相互作用し、島ごとの群集の種構成形成に影響をおよぼしていることが示唆された。

2. 北方圏のエンマムシ、陸生ガムシ(昆虫綱、鞘翅目)の分類学・生物地理学的研究

日本から千島、樺太にかけて、エンマムシ科(Histeridae)と陸生のガムシ科(Hydrophilidae)について分布、種構成など分類学的・生物地理学的基礎情報の収集を目的とした。特に陸生ガムシは日本北部における先行研究がないため、多くの新知見が得られた。

3. タイプ標本データベース作成

昆虫綱鞘翅目のタイプ標本の画像、原記載データ、ラベルデータに関するデータベースの構築を行った。平成20年3月末の時点で、3465件のタイプ標本データが入力されている。

4. 博物館におけるバイオミメティクス研究

動植物の持つ能力や形・機能などの特性を把握し、そこからヒントを得て人工的に設計・合成・製造する「生物規範工学」と協力し、博物館に収蔵される膨大な生物標本の活用を促す先駆的なデータベース開発を行う。

○2010年・2011年の研究・活動業績

<原著論文>

1. Ôhara, M., Yoshida, M. and Tanaka, K. (2010): Records of *Eucurtiopsis ohtanii* (Coleoptera, Histeridae) from Tokushima Prefecture, Shikoku, Japan. *Elytra*, Tokyo, 38 (1): 84-85.
2. Ôhara, M. and Akita, K. (2010): Records of *Platylister (Popinus) unicus* (Coleoptera, Histeridae) from Danjo Islands, off Kyushu, and the Ryukyus, Japan. *Elytra*, Tokyo, 38 (1): 97-98.
3. Ôhara, M. (2010): A new record of *Platylister horni* (Coleoptera, Histeridae) from the Island of Okinawa-jima, the Ryukyus, Japan. *Elytra*, Tokyo, 38(2): 200.
4. 大原昌宏・林成多(2011):島根県のエンマムシ類. さやばねニューシリーズ, 1 (1): 22-25. [Records of the species of the family Histeridae from Shimane prefecture, Honshu, Japan.]
5. Matsumura, Y., Sasaki, S., Imasaka, S., Sano, K. and Ôhara, M. (2011): Revision of *Lema (Lema) concinnipennis* Baly, 1865 species group (Coleoptera: Chrysomelidae: Criocerinae) in Japan. *Journal of Natural History*, London 45: 1533-1561.
6. Ôhara, M., Nunn, J. T. and Lackner, T. (2011): On several species of histerids from North Korea (Coleoptera, Histeridae). *Elytra*, Tokyo, New Series, 1(1): 56.
7. 大原昌宏・上田明良・尾崎研一・佐山勝彦 (2011):トランクウィンドウトラップで採集されたエンマムシ類. さやばねニューシリーズ, (3): 8-12.
8. Ôhara, M., Miki, T. and Fujimoto, H. (2011): On several species of histerids from the Island of Shôdo-shima, in Kagawa Prefecture, off Shikoku, Japan (Coleoptera, Histeridae). *Elytra*, Tokyo, New Series, 1(2): 197-198.

<著書・図録・目録等>

1. 大原昌宏・澤田義弘・古川恒太 (2011): 第5章 5. 博物館標本からのデータベース作製: 微小甲虫の表面構造の例. 339-345 pp. 下村政嗣 (監修) / バイオミメティクス研究会 (編) 『次世代ミメティクス研究の最前線』, シーエムシー出版. 350 pp. (分担執筆).
2. 大原昌宏・佐野正和・神戸崇 (2011): 「チョウとガ」が超わかる本. 北海道大学総合博物館 2011年企画展示. Lepidoptera 空を舞う昆虫たち チョウとガの世界 プチガイド. 19 pp. 北海道大学総合博物館. 【図録】

<総説・解説・報告等>

- 大原昌宏 (2010): 特別展「飯島一雄コレクション展」記念講演会. 道東の昆虫から世界が見える. 釧路市立博物館報, 404: 3-9.
- 大原昌宏 (2010): シリーズ虫と石9「クモガタガガンボ」. リテラポプリ, 40: 16.
- 大原昌宏 (2010): 分類学者の養成 ―パラタクソノミスト養成講座について―. 昆虫 (ニューシリーズ), 13(2): 83-92.
- 大原昌宏 (2010): シリーズ虫と石10「ヨトウガ」. リテラポプリ, 41: 16.
- 大原昌宏 (2010): シリーズ虫と石11「ジュウサンホシテントウ」. リテラポプリ, 42: 20.
- 大原昌宏 (2011): 浜辺の昆虫. 「海の生き物たち」. えりも町ふるさと再発見シリーズ, 4. 39-40 pp.
- 大原昌宏 (2011): シリーズ虫と石12「タカネルリクワガタ」. リテラポプリ, 44: 16.
- 大原昌宏 (2011): 札幌圏における博物館連携事業. 博物館研究, 46: 25-27.
- 大原昌宏 (2011): 大学博物館と一般博物館 ―ミッションの違いと共有、パラタクソノミスト養成講座を例に―. 昆虫担当学芸員協議会ニュース, 20: 9-11.
- 大原昌宏 (2011): シリーズ虫と石13「オオナンベイツバメガ」. リテラポプリ, 45: 16.
- 堀繁久・大原昌宏 (2011): 第2回日本甲虫学会大会・採集会 報告. さやばね, ニューシリーズ, (3): 3-40.
- 大原昌宏・澤田義弘・山本ひとみ・田中眞理 (2011): 「あきつ賞」受賞サイト(7) 北海道大学総合博物館のウェブサイト「昆虫パラタクソノミスト養成講座初級コース」. 昆虫 (ニューシリーズ), 14(4): 297-299.
- 大原昌宏 (2011): シリーズ虫と石14「アブラゼミとコエゾゼミ」. リテラポプリ, 46: 16.
- 大原昌宏 (2011): 「レピドプテラ」展を開催して. 札幌同窓会誌, (20): 102-104.

<編集>

- [編集] 高久元・島野智之・芝実・岡部貴美子・唐澤重考, 2011. パラタクソノミスト養成講座「土壌ダニ (初級・中級) 採集・標本作製編」. パラタクソノミスト養成講座・ガイドブックシリーズ 6. 北海道大学教育GP「博物館を舞台とした体験型全人教育の推進」・北海道大学総合博物館. 20 pp.
- [編集] 天野哲也・大西凜・齊藤遼, 2011. パラタクソノミスト養成講座「鉄器の観察・記録・保存法 (初級) 編」. パラタクソノミスト養成講座・ガイドブックシリーズ 7. 北海道大学教育GP「博物館を舞台とした体験型全人教育の推進」・北海道大学総合博物館. 32 pp.
- [編集] 稲荷尚記・伊藤誠夫, 2011. パラタクソノミスト養成講座「マルハナバチ属昆虫 (中級) 編」. パラタクソノミスト養成講座・ガイドブックシリーズ 8. 北海道大学教育GP「博物館を舞台とした体験型全人教育の推進」・北海道大学総合博物館. 19 pp.
- [編集] 高倉純, 2011. パラタクソノミスト養成講座「石器 (初級) 編」. パラタクソノミスト養成講座・ガイドブックシリーズ 9. 北海道大学教育GP「博物館を舞台とした体験型全人教育の推進」・北海道大学総合博物館. 24 pp.
- [編集] 鳥本淳司・松枝大治, 2011. パラタクソノミスト養成講座「鉱床 (中級) 鉱床鉱物の観察・同定編」. パラタクソノミスト養成講座・ガイドブックシリーズ 9. 北海道大学教育GP「博物館を舞台とした体験型全人教育の推進」・北海道大学総合博物館. 32 pp.

<学会活動>

日本昆虫学会：自然保護委員会委員(平成22～23年度、平成22年度委員長)、日本産昆虫カタログ編纂委員会委員(平成22～23年度)、日本甲虫学会：編集幹事(平成22～23年度、平成23年度委員長)

<学会発表等>

- 大原昌宏・小林憲生 (2010)：「北海道周辺の海浜生ケシガムシ類の分類、分布、系統、食性について」2009年度 日本応用動物昆虫学会・日本昆虫学会共催支部大会[北海道大学総合博物館・知の交流コーナー]、2010年1月20日。
- 大原昌宏・松枝大治・高橋英樹 (2010)：「大学博物館における分類学教育 ―パラタクソノミスト養成講座の現状、問題点、将来構想―」博物館科学会 [東北大学] 2010年6月24 日。
- 小林憲生・稲荷尚記・小俣友輝・大原昌宏 (2010)：「北海道大学総合博物館における昆虫標本管理の現状」博物館科学会 [東北大学] 2010年6月24 日。
- 大原昌宏 (2010)：「大学博物館と一般博物館：ミッションの違いと共有、パラタクソノミスト養成講座を例に」第19回昆虫担当学芸員協議会総会「大学博物館と一般博物館のコラボレーション」日本昆虫学会・昆虫担当学芸員協議会主催 [山形大学] 2010年9月19日。[招待講演]。
- 大原昌宏 (2011)：「北大におけるパラタクソノミスト養成講座の成果と課題」第58回日本生態学会自由集会「山里海のコモンズ再生に向けての生物分類スキルのあり方とは？―在地・在野のパラタクソノミスト大集合―」[札幌コンベンションセンター]、2011年3月8日。[招待講演]。
- 大原昌宏・小林憲生・蓑島悠介・林成多 (2011)：「北海道における海浜生ケシガムシ類の整理と幼虫形態について」第2回日本甲虫学会大会[北海道大学高等教育推進機構S棟]、2011年7月31日。
- 稲荷尚記・小林憲生・大原昌宏 (2011)：「小樽市銭函における海浜生ケシガムシ類の季節消長」第2回日本甲虫学会大会[北海道大学高等教育推進機構S棟]、2011年7月31日。
- 大原昌宏 (2011)：「津波被害を受けた甲虫標本レスキューについて」第71回日本昆虫学会[信州大学]、2011年9月18日。[招待講演]。
- 大原昌宏 (2011)：「北海道大学の昆虫学の系譜」第71回日本昆虫学会[信州大学]、2011年9月19日。[シンポジウムオーガナイザー]。
- 大原昌宏 (2011)：「津波被害標本レスキュー：博物館標本を、維持し、守り、救うという行為 ―それを支えるネットワークと博物館行政の必要性」第82回(社)日本動物学会大会[旭川大雪クリスタルホール]、2011年9月23日。[招待講演]。

<一般講演・セミナー発表>

- 大原昌宏 (2010)：「エンマムシから自然環境を知る」第12回緑の回廊講演会、NPO法人真駒内芸術の森緑の回廊基金主催・[札幌市南区区民センター] 2010年3月6日 [招待講演]。
- 大原昌宏 (2010)：「博物館概論」まちを好きになる市民大学 ―「わがまち博物館員」養成課程―、北広島市教育委員会主催 [北広島市中央公民館] 2010年5月29日 [招待講演]。
- 大原昌宏 (2010)：「昆虫を知ろう」宿泊学習特別授業、帯広市児童会館主催[帯広市児童会館] 2010年6月17日 [招待講演]。
- 大原昌宏 (2010)：「北海道と昆虫 ―ルーツを探る― ほっかいどう学(自然・環境)の会主催・第一回研究発表会基調講演 [北海道大学] 2010年6月20日 [招待講演]。
- 大原昌宏 (2010)：「大山緑地の昆虫」特別授業、帯広市児童会館主催[帯広市児童会館] 2010年8月7日。[招待講演]。
- 大原昌宏・伴戸香月 (2010)：「ニュージーランドにおけるスクールサービス」第1回合同セミナー 北海道の博物館の未来 ―将来構想を考える―、北海道大学総合博物館土曜市民セミナー、北海道開拓記念館・札幌市博物館活動センター・北海道大学総合博物館共催フォーラム [北海道大学総合博物館] 2010年8月14日[オーガナイザー]。
- 大原昌宏 (2010)：「昆虫を知ろう」夏休みポプラ広場講演会、朝日新聞主催[北海道大学総合博物館] 2010年8月21日。[招待講演]。
- 大原昌宏 (2010)：「昆虫分類学から環境をみる方法 ―エンマムシを題材に―」ナカシベ

ツ大学公開講座、北海道新聞社・北海道新聞野生生物基金主催：環境出前講座・講演会[中標津町総合文化会館]。2010年9月2日。[招待講演]。
 大原昌宏(2010)：「さまざまな生き物たち ―今年国際生物多様性年―」UHB大学主催[道新8階ホール]。2009年9月14日。[招待講演]。
 大原昌宏(2011)：「北海道の昆虫と自然保護 マイクロハビタットの重要性」2010年度自然保護大学、(社)北海道自然保護協会主催[北海道大学学術交流会館]。2011年2月5日。[招待講演]。
 大原昌宏(2011)：「パラタクソノミスと養成講座ネットワークの構築」2011年北海道自然史研究会2011年大会・ほっかいどう学(自然環境)をまなぶ会共催大会[北海道庁赤れんが]。2011年3月13日。
 大原昌宏(2011)：「微小昆虫の体表面構造とそのSEM画像のデータベース化」バイオミメティクス研究会[産総研名古屋駅前イノベーションハブ]。2011年5月10日。[招待講演]。
 大原昌宏(2011)：「博物館概論」まちを好きになる市民大学 ―「わがまち博物館員」養成課程一。北広島市教育委員会主催[北広島市中央公民館]2011年5月28日[招待講演]。
 大原昌宏(2011)：「虫のみつけ方、しらべ方、みわけ方、北海道の昆虫を題材に」第9回再エンスーフォーラムin さっぽろ[札幌市ボランティア研修センター]。2011年7月23日。[招待講演]。
 大原昌宏(2011)：「目指せ！昆虫博士」さぼーとさっぽろ親子レクレーション2011、札幌市青少年女性活動協会主催[滝野自然学園]。2011年7月24日。[招待講演]。
 大原昌宏(2011)：「昆虫とクマムシ」JSTサイエンス・パートナーシップ・プロジェクト(SPP)中学生科学教室「クマムシ大研究」、帯広市児童会館主催[帯広市児童会館]2011年8月2日。[招待講演]。
 大原昌宏(2011)：「昆虫を知ろう ―身近な帯広の昆虫、大山緑地の昆虫調査を例に―」特別授業、帯広市児童会館主催[帯広市児童会館]2011年9月28日。[招待講演]。
 大原昌宏(2011)：「北海道にみる昆虫たち」『ほっかいどう学』自然・歴史観察講座、(財)北海道生涯学習協会主催[北海道大学総合博物館]2011年10月2日。[招待講演]。
 大原昌宏(2011)：「昆虫から見た北海道の生物多様性 ―地域調査と博物館の重要性―」生物多様性に関する地域意見交換会、北海道環境局自然環境課主催[北見経済センター]2011年11月17日。[招待講演]。
 大原昌宏(2011)：「博物館の役割とバイオミメティクス：昆虫標本の画像データベースから工学的「気づき」を想起する」第13回 バイオミメティクス研究会 「企業研究開発者のリカレントと博物館の社会的役割」[兵庫県立人と自然の博物館]2011年12月21日。[招待講演]。

＜教育活動＞

学位論文主査・副査：

・農学院 環境資源学専攻 生物生態・体系学講座担当：平成22年度（博士論文指導主査2名）平成23年度（修士論文指導副査3名、博士論文指導副査2名）

指導学生・授業等：

・教育（各学年の学部・研究科指導学生数）

2010年 学部0名、研究科4名（修士0名、博士4名）（農学研究科、兼任）

2011年 学部0名、研究科4名（修士2名、博士2名）（農学研究科、兼任）

・授業等：

全学教育 複合科目「今、大学博物館が面白い」（分担）（2010, 2011）

全学教育 複合科目「生物の多様性」（分担）（2010, 2011）

全学教育 複合科目「ヒグマ学」（分担）（2010, 2011）

全学教育 一般教育演習「エコキャンパス」（分担）（2010, 2011）

全学教育 複合科目「昆虫科学のすすめ」（分担）（2010）

21世紀COE「新自然史科学創成」大学院特別コース「新自然史科学特別講義1」（分担）（2010, 2011）

大学院地球環境科学 「新自然史科学特別講義2」（分担）（2010, 2011）

大学院農学研究科 「生物体系学特論」（分担）（2010, 2011）

大学院共通科目授業 「博物館学特別講義（学術標本・資料学）」（分担）（2010, 2011）

博物館学芸員実習指導（2010，2011）

<博物館活動>

総合博物館関連各種委員等

総合博物館運営委員会委員（1999.10-現在）、総合博物館点検評価委員会委員（1999.10-現在）、学術標本検討専門委員会委員（1999.10-現在）、企画展示専門委員会委員（1999.10-現在）、ミュージアムショップ運営委員（2003.4-2012.3）

博物館教育

- パラタクソノミスト養成講座 昆虫（初級）（2010年1回；2011年3回）
- パラタクソノミスト養成講座 甲虫（中級）（2010年1回；2011年1回）
- パラタクソノミスト養成講座 甲虫（上級）（2010年1回）
- 北大キャンパスの遺跡・植物・昆虫観察会（野外観察会）（2010，2011）

シンポジウム開催（企画、運営）：

2010 年度

- (1) 「北海道の博物館の未来 ―将来構想を考える― 第1回 合同セミナー ～博物館におけるスクールサービスについて～」．[北海道大学総合博物館]．2011年8月14日．[企画，総合司会]

2011 年度

- (1) 「北方圏の成り立ちと、その昆虫相」第2回日本甲虫学会大会[北海道大学高等教育推進機構S棟]．2011年7月30日．[企画，総合司会]
- (2) 「日本の昆虫分類学、創成期の人と標本」第71回日本昆虫学会大会[信州大学]．2011年9月19日．[企画，総合司会，講演（see 109 口頭発表）]
- (3) 「ダニの多様性」北海道大学総合博物館主催、国際シンポジウム[北海道大学総合博物館]．2011年9月26日．[企画，総合司会]
- (4) バイオミメティクス・市民セミナー（全7回）、北海道大学総合博物館、バイオミメティクス研究会 共催[北海道大学総合博物館]．2012年2月4日，2月19日，3月31日，4月7日，5月5日，6月2日，7月7日．[企画、総合司会]
- (5) 北海道大学総合博物館まつりシンポジウム「博物館資料の重要性 ～東日本大震災の津波被害を受けた博物館資料のレスキューから考えること～」、北海道大学総合博物館主催[北海道大学総合博物館] 2012年3月18日．[司会，オーガナイザー]．

博物館企画展示

企画展示名：「Lepidoptera（レピドプテラ） 空を舞う昆虫たち チョウとガの世界」2011年（担当）、会場：北海道大学総合博物館 1階「知の交流」および3階企画展示室、期間：2011年7月2日（土）から10月2日（日）

<学内各種委員>

生態環境ワーキンググループ委員（平成22～23年度）

広報戦略チーム（平成22～23年度）

<社会貢献>

環境省絶滅のおそれのある野生動植物の選定・評価検討会、昆虫分科会 検討員（平成22～23年度）、北海道希少野生動植物指定候補種検討委員会 委員（平成23年度）、北海道新聞野生生物基金 評議員（平成22～23年度）、北海道新聞野生生物基金 「モーリー」編集委員（平成22～23年度）、小樽市総合博物館協議会委員（平成22～23年度）、ほっかいどう学検定編纂委員（平成22～23年度）

<外部資金>

【分担】多田内修（代表：九州大学）：JST受託研究「甲虫と訪花性昆虫類を対象としたデータベースの構築」平成20年度～平成22年度

【分担】伊藤元己（代表：東京大学）：科学研究費「証拠標本データベース（VSPECIMENS）」（2007-）平成19年度～平成23年度

【分担】下村政嗣（代表：東北大学）、野村周平（グループ代表：国立科学博物館）：JST（独立行政法人科学技術振興機構）-CREST（戦略的創造研究推進事業チーム型研究）受託研究「階層的に構造化されたバイオミメティクス・ナノ表面創製技術（表面構

造解析グループ) 」平成23年度-継続

阿部剛史

ABE Tsuyoshi

資料基礎研究系 助教

○研究内容の概要

1. 紅藻ソゾ属および近縁属の系統分類学的研究と化学成分研究

分子系統学的手法を用い、形態並びに化学成分にも着目し、広義ソゾ属 (*Chondrophycus*, *Laurencia*, *Osmundea*) の系統関係の解明のための研究を進めている。

北海道とサハリンの材料をもとに、寄生紅藻モリモトソゾマクラの含ハロゲン化合物に関する研究を進めている。

鉄欠培養条件下におけるウラソゾのシデロフォア活性に関する予備実験を行った。

2. 北方コンブ類の系統分類学的研究

サハリン・カムチャツカおよび日本産の材料を用い、北方コンブ類の系統分類学的研究を進めている。

3. 日本及び東南アジア・極東ロシアの海藻相に関する研究

上記の2群に限らず東南アジアから日本を経て極東ロシアに至る北西太平洋の海藻相についての研究をおこなっている。当該年度においては北海道知床半島の海藻相に関する調査を主に実施した。

○2010・2011年の研究・活動業績

<原著論文>

1. Akira, K., Abe, T., Tani, M. & Sherwood, A.R. 2010. Molecular phylogeny and evolution of red algal parasites: a case study of *Benzaitenia*, *Janczewskia*, and *Ululania* (Ceramiales). *J. Phycol.* **46**(3): 580-590.

2. Takahashi, H., Takahashi, Y., Suzuki, M., Abe, T. and Masuda, M. 2010. Neoirietriol. *Acta Crystallographica Section E: Structure Reports Online*, **E66**: o1795.

3. Terada, R. Abe, T. & Kawaguchi, S. 2010. Reproductive phenology of three species of *Gracilaria*: *G. blodgettii* Harvey, *G. vermiculophylla* (Ohmi) Papenfuss and *G. salicornia* (C. Agardh) Dawson (Gracilariales, Rhodophyta) from Okinawa, Ryukyu Islands, Japan. *Coastal Marine Science* **34**(1): 129-134.

<著書・図録・目録等>

<総説・解説・報告等>

1. 阿部剛史, 小亀一弘, 野別貴博. 2010. 知床半島沿岸域における浅海域の生物相 2) 海藻相. 平成 21 (2009) 年度知床世界自然遺産地域生態系モニタリング調査業務報告書, 477-488.

<学会活動>

国際藻類学会

日本藻類学会 幹事(会計担当) 2009-2012 年度

北海道海洋生物科学研究会 幹事 2006-2012 年度

北海道植物学会 幹事 2003-2012 年度

<学会発表等>

1. Abe, T. 2010. 8. 8-13 JSPS-AORI 「International Workshop on the Biodiversity of Seaweed and Seagrass」 (Resource Person) 鹿児島大学.

2. 阿部剛史. 2011. 「温暖期における海藻の北方進出と種分化」 日本古生物学会 2011 年年会[金沢大学]. 2011 年 7 月 1 日. 招待講演.

<一般講演・セミナー発表>

<教育活動>

・全学教育

全学教育 一般教育演習 北大総合博物館で学ぼう！自然と人間 2010-2011 年度 (分担)

全学教育 環境と人間 今、大学博物館が面白い！－“もの”にこだわる科学－ 2010-2011 年度 (分担)

全学教育 自然科学実験 2010-2011 年度 (分担)

全学教育 英語演習 中級：英語で学ぶ生物学 2010-2011 年度 (分担)

・学部

理学部 平成 22 年度 (卒論学生 2 名) 平成 23 年度 (卒論学生 2 名)

理学部 海洋生態学実習 2010-2011 年度 (分担)

理学部 多様性生物学 2010-2011 年度 (分担)

理学部 臨海実習Ⅱ 2010-2011 年度 (分担)

・大学院

理学院自然史科学専攻多様性生物学講座担当 平成 22 年度 (修士副査 2 名) 平成 23 年度 (修士副査 1 名)

理学院 多様性生物学特論Ⅱ 2010-2011 年度 (分担)

理学院 生物科学方法論 2010-2011 年度 (分担)

大学院共通科目 博物館学特別講義Ⅰ 学術標本・資料学 2010-2011 年度 (分担)

理学院 多様性生物学概論 2010-2011 年度 (分担)

・博物館

博物館実習 2010-2011 年度 (分担)

<博物館活動>

総合博物館関連各種委員等

学術標本検討専門委員会委員

博物館教育

パラタクソノミスト養成講座海藻 (初級) 2010 年度 1 回

シンポジウム開催

2010 年度「環オホーツクの海藻」2011. 8. 1

博物館企画展示

特別企画展示「ノーベル賞メダル公開」(2011. 1. 18-3. 21)

第75回企画展示ノーベル賞化学賞受賞記念「ホウ素化学研究とノーベル化学賞への軌跡」(平成23年4月5日―6月12日)

<社会貢献>

2010. 10. 2 道新ぶんぶんクラブ共催講座講師

<海外調査>

海藻野外調査、標本採集

河合俊郎

KAWAI Toshio

資料基礎研究系 助教

○研究内容の概要

1. ホウボウ科およびキホウボウ科魚類の系統分類学的研究

ホウボウ科およびキホウボウ科の系統関係および分類学的な問題の解決のために形態・分子の両面から研究を行っている。

2. ニューカレドニア海域のカレイ目魚類の分類学的研究

ニューカレドニア周辺に生息するカレイ類の分類学的研究を行っている。

3. 北海道の魚類相に関する研究

北海道周辺に生息する魚類相の解明を目的として魚類の分類学的研究を行っている。

○2010 年・2011 年の研究・活動業績

<原著論文>

1. Kawai, T., K. Amaoka and B. Séret (2010): A new righteye flounder, *Poecilopsetta multiradiata* (Teleostei: Pleuronectiformes: Poecilopsettidae), from New Zealand and New Caledonia (South-West Pacific). Ichthyol. Res., 57 (2): 193-198.
2. 永野優季・多田知世・谷 敬志・河合俊郎. (2010): 北海道 (せたな沖) から得られたツマリテングハギ *Naso brevirostris* そしてホシフグ *Arothron firmamentum* の北限記録. 日本生物地理学会会報 65: 51-56.
3. Kawai, T. (2011) *Peristedium indicum* Brauer, 1906, a junior synonym of *Paraheminodus murrayi* (Günther, 1880) (Teleostei: Peristediidae). Ichthyol. Res., 58 (1): 67-71.
4. 長尾太地・河合俊郎・松原創・鈴木淳志. (2011): 北海道網走市沖のオホーツク海から採集されたホシエイ *Dasyatis matsubarai*. 知床博物館研究報告 32: 31-34.
5. 河合俊郎・松原創. (2011): 北海道南部の北斗市沖から採集された雌雄同体のトラフグ *Takifugu rubripes*. 北海道大学水産科学研究彙報 61(1): 1-4.

<著書・図録・目録等>

1. 河合俊郎 (分担執筆). (2010): 循環器系・内臓. 『新魚類解剖図鑑』, pp. 60-65. 緑書房, 東京.
2. 篠原現人・松浦啓一・河合俊郎 (分担執筆). (2011): 第5章 2 バイオメテック・データベースとしての魚類インベントリー. 『次世代バイオメテックス研究の最前線ー生物多様性に学ぶー』, pp. 323-329. シーエムシー出版, 東京.

<総説・解説・報告等>

1. 河合俊郎. (2011) 標本の世界 天変地異の前兆!? 稀種サケガシラの標本. ミルシル 4 (5): 20-21.

<学会活動>

日本動物分類学会英文誌編集委員 (2010 年 1 月～)

<学会発表等>

1. 河合俊郎. (2010): 「*Peristedium indicum* Brauer, 1906 はハナビロキホウボウ *Paraheminodus murrayi* (Günther, 1880) の新参シノニム」. 第 43 回日本魚類学会年会. 三重大学. 2010 年 9 月.
2. 大野 誠・河合俊郎・矢部 衛. (2010): 「日本産キホウボウ科キホウボウ属魚類の分類学的再検討」. 第 43 回日本魚類学会年会. 三重大学. 2010 年 9 月.
3. 尼岡邦夫・河合俊郎. (2010): 「ニューカレドニア沖から採集された 1 未記載種を含むベロガレイ科ツキノワガレイ属魚類」. 第 43 回日本魚類学会年会. 三重大学. 2010 年 9 月.
4. 大野明宏・河合俊郎・矢部 衛. (2010): 「東シナ海から採集されたホウボウ科カナガシラ属魚類の 1 未記載種」. 第 43 回日本魚類学会年会. 三重大学. 2010 年 9 月.

5. 河合俊郎・高田陽子・佐藤 崇. (2011):「キホウボウ科魚類の系統関係」. 第44回日本魚類学会年会. 弘前大学. 2011年10月.
6. 尼岡邦夫・河合俊郎・三原栄次. (2011):「ニューカレドニア海域のカレイ目魚類相の特徴」. 第44回日本魚類学会年会. 弘前大学. 2011年10月.

<一般講演・セミナー発表>

<教育活動>

- ・水産学部 海洋生物科学科担当：平成22年度（卒論学生2名）、平成23年度（卒論学生2名）.
- ・水産科学院 学位論文副査：平成22年度（修士6名、博士0名）、平成23年度（修士5名、博士3名）.
- ・授業等：

全学教育【一般教育演習「北大総合博物館で学ぼう！自然と人間」（分担）、総合科目「今、大学博物館が面白い一物にこだわる科学」（分担）、一般教育演習「フレッシュマンセミナー 海のフィールドに出よう I&II」（分担）、一般教育演習「フレッシュマンセミナー 海のフィールドで試す I&II」（分担）】

水産学部【「基礎水産学実験」（分担）、「海洋生物科学基礎実験」（分担）、「海洋生物学実験」（分担）、「臨海実習」（分担）、「海洋生物科学科卒業論文」（分担）】

博物館【学芸員実習（分担）】

<博物館活動>

総合博物館関連各種委員等

学術標本検討専門委員会委員

水産科学館運営委員会委員

博物館教育

パラタクソノミスト養成講座 魚類（初級）（開催担当：2010、2011年度各1回）

パラタクソノミスト養成講座 魚類（中級）（開催担当：2010年度1回）

市民セミナー等

水産科学館土曜サロン（開催担当：2010、2011年度各3回）

<学内各種委員>

北海道大学水産学部・水産科学研究院・水産科学院 広報・PR委員会委員（2010.4-現在）

<社会貢献>

「新水産・海洋都市はこだてを支える人材養成」人材養成実行委員（2009-現在）

東南アジアの持続可能性水産科学を担う若手・女性研究者育成の発展型プログラム実行委員（2011年度）

独立行政法人国際協力機構札幌国際センター（JICA 札幌）平成23年度（第1回）集団研修「持続可能な沿岸漁業（B）」コース 魚類学担当（2011年度）

ICUN. Marine Fish Red List Assessments for the SRLI (Sampled Red List Index). Family Triglidae. Assessor. (2010-現在)

SEAFDEC Regional Training/Workshop on Identification of Deep-Sea Fishes, Resource Person, SEAFDEC/Training Department, Thailand(2010年1月18-22日)

On-Site Training on Identification of Deep-Sea Fishes, Resource Person, SEAFDEC/MFRDMD, Malaysia(2011年7月18-21日)

<外部資金>

<海外調査>

海外調査

1. 英国、ロンドン（標本調査）

「ロンドン自然史博物館における魚類標本調査」【河合：2010年5月17日-18日】

2. ドイツ、ベルリン（標本調査）

「フンボルト大学自然史博物館における魚類標本調査」【河合：2010年5月19日－21日】

3. オランダ、ライデン（標本調査）

「ライデン自然史博物館における魚類標本調査」【河合：2010年5月24日－26日】

4. インド、コルカタ（標本調査）

「インド博物館における魚類標本調査」【河合：2011年4月11日－15日】

5. タイ、タイ湾沿岸およびアンダマン海（標本採集）

「タイ王国周辺の魚類標本調査」【河合：2011年4月18日－27日】

6. 米国、ワシントンDC（標本調査）

「米国自然史博物館における魚類標本調査」【河合：2011年11月28日－12月2日】

【研究部資料開発研究系】

松枝大治

MATSUEDA Hiroharu

資料開発研究系 教授・特任教授

○研究内容の概要

1. 島弧―大陸縁辺部における金属鉱化作用とその成因解明

マグマ活動の活発な島弧―大陸縁辺部では、それに伴う活発な熱水活動と金属鉱化作用が著しい。フィールドとして、具体的には極東ロシア、カムチャッカ半島およびインドネシア、ジャワ島を主な対象として、表記研究課題に基づいて現地調査およびサンプリングを行うと共に、各種の室内実験を実施した。その結果、多くの興味深い新知見が得られたので、関係学協会において発表及び印刷公表した。それらの成果は高く評価され、「ロシア鉱床科学貢献記念メダル」受賞等にも至っている。(松枝・高橋, 2010 ; Okrugin, et al., 2010 ; Takahashi et al., 2011 ; Yuingsih et al., 2012 など)

2. 熱水流体の特性・起源と重金属移動過程の解明に関する地球化学的研究

地殻における物質移動と元素濃集作用の重要な担い手である熱水について、火山性湯沼や鉱石、および活地熱地帯などを対象に、化学分析、流体包有物、安定同位対比等の観点から実験・検討を加え、興味深い多数の結果を得た。(Yuningsih & Matsueda, 2010 ; Takahashi et al., 2012 など)

3. 熱水条件下で成長した鉱物の組織とその成長制御要因の解明

地殻における熱水を介した元素移動は、浅所での複雑な地質過程と物理化学的条件の変化により、結晶の成長という表現形で種々の元素固定が行われる。その動的プロセスが結晶成長組織の形で保存されるため、成長組織の解析が熱水の特性や変化を詳細に明らかにする期待が大きく、特に浅熱水性鉱脈型金鉱床を研究対象として選び、詳細に検討して元素固定要因と物理化学的变化過程を明らかにした。(Yuingsih et al., 2012 ; Shimizu & Matsueda, 2012 など)

4. 熱水変質作用の研究

元素移動に深く関与した熱水は、その通路にある母岩において特徴的な変質帯を形成し、特有の変質鉱物群を生じさせる。従って、母岩の熱水変質作用の詳細な野外観察と各種室内実験に基づいて、それぞれの変質帯における活動熱水の物理化学的諸条件(温度、pH条件、酸化度等)や元素移動に関わる各種の重要情報を得た。それらの成果を関係学術雑誌等に印刷公表すると共に、学会主催の地質鉱床見学会の引率案内等で広く公表した。(八幡ほか, 2010 ; Noku et al., 2010 など)

5. 博物館試料を用いた鉱物学的・鉱床学的研究および教育

総合博物館所蔵の多岐にわたる各種鉱石・鉱物標本の整理とデータベース化を進める共に、それらを主要な研究対象として鉱物学的・鉱床学的記載や分類学的研究を継続実施した。(松枝ほか, 2011 ; Ishihara & Matsueda, 2011 ; Noku et al., 2012 など)

○2010年・2011年の研究・活動業績

<原著論文>

1. 八幡正弘・松枝大治・小野修司(2010): 2008年秋季講習会「西南北海道の中新世熱水活動と金属鉱化作用」. 資源地質(資源情報)、60巻、1号.
2. 松枝大治・高橋亮平(2010):環オホーツク島弧のマグマ熱水系と金属鉱化作用、およびレアメタル資源ポテンシャル評価に関する研究。財団法人 日本鉱業振興会 助成 研究成果報告書(中間報告)、25-30.
3. Noku, S. K., Akasaka, M., Ohira, H. and Matsueda, H. (2010): The Crater Mountain gold deposit, Papua New Guinea: A porphyry-related hydrothermal mineralization. Resource Geology, Vol. 61, No. 1: 64-76.
4. Yuningsih, E. T., Matsueda, H., Setyaraharja, E. P. and Rosana, M. F., (2010): Arinem gold-silver-base metal mineralization, West Java, Indonesia. Proceeding of the 39th IAGI (Indonesia Geologist Association), 79.PIT-IAGI-2010-180-Euis-1, 6p.
5. Yuningsih, E. T., Matsueda, H. (2010): Temperature and salinity control on ore mineral deposition: fluid inclusion study. Proceeding of the 8th Hokkaido Indonesian

Student Association Scientific (HISAS), p16-23.

6. Yuingsih, E. T., Matsueda, H. and Rosana, M. F. (2010): The Arinem Te-bearing gold-silver base metal deposit in magmatic arc environment of West Java, Indonesia. Proceeding of the SEG (Society of Economic Geologist), p.5.
7. Okrugin V. M., Andreeva E. D., Kim. A. U., Puzankov I. M., Shishkanova K. O., Bukhanova D. S., Matsueda, H., Ono S., Takahashi R. and Watanabe K. (2010): Volcanic related epithermal deposits in Kamchatka and Japan. The memorial medal given for contribution in ore deposit science. Authors: Symposium: «Fundamental problems of geology of the deposit and metallogeny». Abstract P.47-49. Place: MSU, Moscow.
8. Ishihara, S. and Matsueda, H. (2011): Chemical characteristics of the indium-polymetallic ores from the Toyoha mine, Hokkaido, Japan. 地質調査研究報告、Vol.62, (3/4), 131-142.
9. Takahashi, R., Matsueda, H., Okrugin, V. M., Andreeva, E. D., Ono, S., Shikazono, N., Imai, A., Yonezu, K. and Watanabe, K. (2011): Isotope study of hydrothermal deposits and geothermal activity: implication to resource exploration in Kamchatka. In: Abstracts from the 34th Annual Winter Meeting of the Geological Society's Mineral Deposit Studies Group, Applied Science (Trans. Inst. Min. Metall. B), Vol.119, No.2, P96-97.
10. 松枝大治・高橋亮平(2010) 環オホーツク島弧のマグマ熱水系と金属鉱化作用、およびレアメタル資源ポテンシャル評価に関する研究(最終版)。財団法人 日本鉱業振興会助成 研究成果報告書、33-38.
11. Yuningsih, E. T., Matsueda, H., Setyaraharja, E. P. and Rosana, M. F. (2012): The Arinem Te-bearing gold-silver-base metal deposit, West Java, Indonesia. Resource Geology, Vol. 62, No. 2, 140-158.
12. Noku, S, K., Matsueda, H., Espi, J. O. and Akasaka, M. (2012): Petrology, geochemistry and fluid inclusion microthermometry of sphalerite from the Laloki and Federal Flag strata-bound massive sulfide strata-bound deposits, Papua New Guinea: implications for gold mineralization. Resource Geology, Vol.62, No.2, P187-207.
13. Takahashi, R., Matsueda, H., Okrugin, V. M., Shikazono, N., Ono, S., Imai, A., Andreeva E. D. and Watanabe. K. (2012): Sulfur isotopic characteristics and K-Ar ages of ore deposits in Cenozoic metallogenic belt of Kamchatka, Russia. Resource Geology (in press).

<著書・図録・目録等>

1. 松枝大治 (2010) : 地球惑星科学入門、452P. (分担執筆 : 第 13 章 金属鉱物資源と社会) 北海道大学出版会
2. 八幡正弘・松枝大治 (2010) : 日本地方地質誌 北海道地方、664P. (分担執筆 : 第 11 章 地質資源) 朝倉書店
3. 松枝大治ほか(2010):教育 GP2010 年度パラタクソノミスト養成講座 第 6 回岩石・鉱物野外採集会(道南)ガイドブック、109 P. (10 月 9 日-10 日)
4. 松枝大治編 (2011) : わが街の文化遺産 札幌軟石 一支笏火山の恵み。北大総合博物館企画展示「わが街の文化遺産 札幌軟石 歩いた! 探した! 見つけた!」展示図録、61P.
5. 松枝大治編 (2011) : 豊平川と私たち ーその生いたちと自然ー。北大総合博物館企画展示「豊平川と私たち ーその生いたちと自然ー」展示図録、82P.
6. 松枝大治ほか(2011):2011 年度パラタクソノミスト養成講座 第 7 回岩石・鉱物野外採集会(道央、小樽・余市方面)ガイドブック、87 P. (10 月 8 日)
7. 鳥本准司・松枝大治 (2011) : パラタクソノミスト養成講座 鉱床(中級) 鉱床鉱物の観察・同定編。北海道大学教育 GP「博物館を舞台とした体験型全人教育の推進」、32P.

<総説・解説・報告等>

1. 松枝大治 (2010) : 小樽赤岩の酸性変質帯と金鉱化作用。小樽市総合博物館市民講座、

要旨、6P.

2. 松枝大治(2010): シリーズ 虫と石⑨「緑柱石(ベリル) (その一) アクアマリン(藍玉)」, リテラポプリ, 40 号, P17.
3. 松枝大治(2010): シリーズ 虫と石⑩「緑柱石(ベリル) (その二) エメラルドとその仲間」, リテラポプリ, 41 号, P17.
4. 松枝大治(2010): シリーズ 虫と石⑪「電気石(トルマリン)」, リテラポプリ, 42 号, P17.
5. 松枝大治(2010): 館長就任挨拶「温故知新」と「不易流行」。 博物館ニュース 21 号, P1.
6. 八幡正弘・松枝大治・小野修司(2010): 2008 年秋季講習会「西南北海道の中新世熱水活動と金属鉱化作用」。 資源地質(資源情報), 60 巻, 1 号.
7. 松枝大治(2010): 新館長挨拶 (長年のボランティア活動に感謝しております) 北海道大学総合博物館ボランティア・ニュース, 17 号, P8.
8. 松枝大治(2010): 新館長挨拶 (「温故知新と北大総合博物館」) 北海道大学総合博物館ボランティア・ニュース, 18 号, P1.
9. 松枝大治(2011): シリーズ 虫と石⑫「スピネル(尖晶石)」, リテラポプリ, 44 号, P17.
10. 松枝大治(2011): シリーズ 虫と石⑬「コランダム(鋼玉)」《その一》サファイア, リテラポプリ, 45 号, P17.
11. 松枝大治(2011): シリーズ 虫と石⑭「コランダム(鋼玉)」《その二》ルビーとスター(星彩), リテラポプリ, 46 号, P17.
12. 松枝大治(2012): 退任にあたって「石の上にも 50 余年」、北海道大学総合博物館ボランティア・ニュース, 24 号, P7-8.
13. 松枝大治(2012): シリーズ 虫と石⑮「カンラン石(オリビン)」, リテラポプリ, 47 号, P17.
14. 松枝大治(2012): 退職記念「一期一会」～新鉱物とのめぐり合い～。 博物館ニュース 24 号, P1-2.

<学会活動>

所属学会

資源地質学会、日本鉱物学会、岩石鉱物鉱床学会、日本地質学会、Society of Economic Geology(米国)、日本博物科学会

役職等

資源地質学会 (Resource Geology(洋雑誌)および資源地質(和雑誌)) 編集委員(1997 年～現在)
資源地質学会科研費問題小委員会委員・委員長 (2009～2012 年)
鉱物科学会 Journal of Mineralogical and Petrological Science (JMPS) 編集委員(2002 年～現在)
日本博物科学会監事・副会長(2010 年～2011 年)

<学会発表等>

(国際学会・国際シンポジウム等)

1. Okrugin, V. M., Andreeva, E. D., Kim A. U., Puzankiov I. M. Shishkanova K. O., Matsueda, H., Ono, S., Takahashi, R., Watanabe, K. and Imai, A. (2010): Volcanic Hydrothermal ore deposits of the transition zone ocean-continent (Kamchatka-Japan). XXI Conference dedicated to the memory of academician V.I. Smirnov (Centenary Anniversary). Moscow city, 26th-28th January 2010
2. Andreeva, E. D., Okrugin, V. M., Matsueda, H., Ono, S. and Takahashi, R. (2010): Epithermal Au-Ag mineralization, Aginskoe mine, Central Kamchatka: sequence of hydrothermal stages and geochemical parameters of fluid. XXI Conference dedicated to the memory of academician V.I. Smirnov (Centenary Anniversary). Moscow city, 26th-28th January 2010.
3. Andreeva, E. D., Okrugin, V. M., Matsueda, H., Ono, S. and Takahashi, R. (2010): The mineralization stages of Aginskoe deposit, Central Kamchatka. The poster presentation at the International Symposium devoted to the memory of Russian

- Academic Smirnov V.I. «Fundamental problems of geology of the deposit and metallogeny», MSU, Moscow, January, 28-30, 2010. (Abstract p.15-17).
4. Andreeva E. D., Okrugin V. M., Matsueda, H. and Bukhanova, D. S. (2010): Typomorphism of native gold, Aginskoe deposit, Central Kamchatka. The All-Russian Conference: "Native gold: typomorphism of the mineral associations, the conditions of formation of the deposits, the objectives of applied research". Moscow, IGEM, 2011.
 5. Andreeva, E. D., Matsueda, H., Okrugin, V. M. and Buhanova, D. (2010): Native gold of Aginskoe deposit: morphology, paragenesis, and origin. Symposium on "Native gold: typomorphism, mineral associations, conditions for the formation of deposits, the problem of applied research" at the Institution of Ore Geology, Petrology, Ore Mineralogy and Geochemistry, Russian Academy of Science, Moscow, March 29-31, 2010.
 6. Andreeva E. D., Kim. A. U., Puzankov I. M., Shishkanova K. O., Bukhanova D. S., Matsueda, H., Ono S., Takahashi R. and Watanabe K. (2010): Volcanic related epithermal deposits in Kamchatka and Japan. The poster presentation at the International Symposium devoted to the memory of Russian Academic Smirnov V.I. «Fundamental problems of geology of the deposit and metallogeny», MSU, Moscow, January, 28-30, 2010. (Abstract p.47-49).
 7. Yuningsih, E. T., Matsueda, H., Setyaraharja, E. P. and Rosana, M. F. (2010): The Arinem Te-bearing gold-silver-basemetal deposit, West Java, Indonesia. IMA (International Mineralogical Association) Conference, Budapest, Hungary. August 21-27, 2010.
 8. Andreeva E. D., Matsueda, H. and Okrugin V. M. (2010): Characteristics of Tellurium mineralization at Aginskoe Gold-Silver deposit, Central Kamchatka. SEG-2010 Conference, Colorado, Keystone. October 1-5, 2010.
 9. Yuningsih, E. T., Matsueda, H., Setyaraharja, E. P. and Rosana, M. F. (2010): The Arinem Te-bearing gold-silver-basemetal deposit in magmatic Arc environment of West Java, Indonesia. SEG (Society of Economic Geologist) Conference, Colorado-USA, p.5. October 1-5, 2010.
 10. Matsueda, H. (2010): Genesis of polymetallic mineralization at the Toyoha deposit, Hokkaido, Japan. Intern. Symp., 2010, the Hokkaido University Museum. September, 2010.
 11. Borg, G. and Matsueda, H. (2010): Archaean spherical pyrite shells from the Sukumaland Greenstone Belt, Tanzania - an ancient analogue of globular sulphur from Oyunuma Lake, Hokkaido? Intern. Symp. 2010, the Hokkaido University Museum. September, 2010.
 12. Noku, S. K., Matsueda, H., Espi, J. O. and Akasaka, M. (2010): Redefining the nature of the Laloki Massive sulfide strata-bound deposit, Papua New Guinea. Intern. Symp. 2010, the Hokkaido University Museum. September, 2010.
 13. Yuningsih, E. T. and Matsueda, H. (2010): Mineralogy, Geochemistry and fluid inclusion studies of Te-Bearing Gold-Silver-Basemetal Arinem Deposit, West Java, Indonesia. Intern. Symp. 2010, the Hokkaido University Museum. September, 2010.
 14. Andreeva, E. D., Matsueda, H., Ono, S., Okrugin, V. M. and Takahashi, R. (2010): Au-Ag-Te Mineralization at the Aginskoe ore deposit, Central Kamchatka, Russia. Intern. Symp. 2010, the Hokkaido University Museum. September, 2010.
 15. 松枝大治(北大・総博)・高橋亮平(秋田大・工資)・Victor Okrugin(Inst. Volc. & Seism., Russia)・小野修司(北大・工)・Elena Andreeva(北大・理) (2011): 極東ロシア、カムチャッカ半島におけるInを伴う多金属鉱化作用。2011年資源地質学会シンポジウム
 16. Yuningsih, E. T., Miura, T., and Matsueda, H. (2011): Petrography and mineral chemistry of ore from the Kobetsuzawa epithermal gold-silver deposit, Southwestern Hokkaido, Japan. Proceeding of the 1st Asia-Africa Mineral Resources, Kyushu, Japan. Dec. 8-11, 2011.
 17. Yuningsih, E. T. and Matsueda, H. (2011): Epithermal gold-silver base metal deposit of Arinem, West Java, Indonesia. Proceeding of the 1st Asia-Africa Mineral

- Resources, Kyushu, Japan. Dec. 8-11, 2011.
18. Yuningsih, E. T. and Matsueda, H. (2011): Ore formation and deposition environment of the Bantarhumi vein, Arinem deposit, West Java, Indonesia. Proceeding of the 11th SGA Biennial Meeting, Let's talk ore deposits, Antafagasta, Chile. September 26-29, 2011.
 19. Yuningsih, E. T., Matsueda, H., Rosana, M. F. and Chaeni, S. (2011): Physical condition of the Se- and Te-types epithermal Au-Ag deposits of western Java, Indonesia. Joint annual Meeting GAC-MAC-AGC-AMC-SEG-SGA, Navigating past and future change (abstract vol.), Ottawa, Canada, 24-27, 2011.
 20. Yuningsih, E. T., Matsueda, H., Setyaraharja, E. P., Rosana, M. F. and Chaeni, S. (2010): Arinem gold-silver-base metal mineralization, West Java, Indonesia. Proceeding of the 39th Indonesia Geologist Association (IAGI) annual convention and exhibition, PIT=LAGI-2010-180-Euis-1, 6P, Lombok-Indonesia, November 7-9, 2010.
 21. Yuningsih, E. T., Matsueda, H. (2012): Ore Mineral Assemblage and Geochemical Characteristics of Gold-Telluride-Sulfide Mineralization in the Bantarhumi Vein of Arinem Deposit, West Java, Indonesia. Abstract Issue of International Symposium "Magma-Fluid Activities and Ore Formation in the Island Arc and Continental Margin" at the Hokkaido University Museum, March 24, 2012, P9-10.
 22. Takahashi, R., Matsueda, H., Okrugin, V. M., Ono, S., Andreeva, E. D., Shikaozono, N. and Imai, A. (2012): Precious and Base Metal Deposits in Kamchatka – Genetic Overview and Resource Potential –. Abstract Issue of International Symposium "Magma-Fluid Activities and Ore Formation in the Island Arc and Continental Margin" at the Hokkaido University Museum, March 24, 2012, P11-12.
 23. Andreeva, E. D., Bukhanova, D., Matsueda, H., Okrugin, V. M. and Takahashi, R. (2012): Epithermal Gold Mineralization at the Oganchinskoe Deposit. Abstract Issue of International Symposium "Magma-Fluid Activities and Ore Formation in the Island Arc and Continental Margin" at the Hokkaido University Museum, March 24, 2012, P13-14.
 24. Sreenivas, S., Tsuchiya, T. and Matsueda, H. (2012): Structural, Petrographic and Mineral Chemistry Data of Visakhapatnam, Eastern Ghats Granulite Belt, India. Abstract Issue of International Symposium "Magma-Fluid Activities and Ore Formation in the Island Arc and Continental Margin" at the Hokkaido University Museum, March 24, 2012, P16-17.
 25. Torimoto, J., Matsueda, H. and Taguchi, S. (2012): The Relationship between Fluids and Graphite Mineralization during Metamorphism in Highland Complex, Sri Lanka. Abstract Issue of International Symposium "Magma-Fluid Activities and Ore Formation in the Island Arc and Continental Margin" at the Hokkaido University Museum, March 24, 2012, P18-20.
 26. Shimizu, T. and Matsueda, H. (2012): Morphological Variations of Epithermal Au-Ag Vein Quartz at the Koryu Deposit in Hokkaido: A Review and a Comparison with the Hishikari Deposit. Abstract Issue of International Symposium "Magma-Fluid Activities and Ore Formation in the Island Arc and Continental Margin" at the Hokkaido University Museum, March 24, 2012, P25.
 27. Fukuchi, N., Kimura, T. and Matsueda, H. : Chemical compositions and fluid inclusion studies of tourmaline. Abstract Issue of International Symposium "Magma-Fluid Activities and Ore Formation in the Island Arc and Continental Margin" at the Hokkaido University Museum, March 24, 2012, P33.

(総合博物館国際シンポジウム)

1. 博物館国際シンポジウム(北大総合博物館): International Symposium on "Metallic Mineralization Related to the Hydrothermal Activity in the Island-Arc Environment of West Circum Pacific Region"
口頭(5件)(1件: 客員教授との共同研究、3件: 留学生との共同研究)
2. 博物館国際シンポジウム(北大総合博物館): International Symposium on

“Magma-Fluid Activities and Ore Formation in the Island Arc and Continental Margin” at the Hokkaido University Museum, March 24, 2012.

口頭 5 件（2 件：元客員教授および留学生との共同研究）

(国内学協会等)

1. 2010 年度 資源地質学会年会 ポスター4 件（内 1 件：客員教授との共同研究、タイトル省略）
2. 2010 年度（財）日本鉱業振興会助成金報告会：「環オホーツク島弧のマグマ熱水系と金属鉱化作用、及びレアメタル資源ポテンシャル評価に関する研究（中間報告）」（於：東京ガーデンパレス）2010. 11. 5
3. 2011 年度 資源地質学会年会発表 口頭 1 件（国際シンポジウム、客員教授および留学生との共同研究）、ポスター3 件（内 2 件は留学生との共同研究）（タイトル省略）
4. 2011 年度 日本鉱物科学会（茨城大）ポスター2 件（タイトル省略）
5. 2011 年度（財）日本鉱業振興会助成金報告会：「環オホーツク島弧のマグマ熱水系と金属鉱化作用、及びレアメタル資源ポテンシャル評価に関する研究（最終報告）」（於：東京ガーデンパレス）2011. 11. 11

＜一般講演・セミナー発表＞

1. 特別講演：『Epithermal gold deposits in Japan -Hishikari and Koryu mines-』（パプア・ニューギニア大学）2010. 4. 5
2. 来学米国大学生一行対象講演：『The Hokkaido University Museum』（北海道大学留学生センター）2010. 7. 2
3. 教育 GP パラタクソノミスト講座野外採集会（道南）夜間セミナー：3 件（『上国鉱山 Mn 鉱脈型鉱床』、『「稲倉石鉱山産上国石」、『間欠泉、地熱』）（森少年自然の家）2010. 10. 10
4. 札幌博物館活動センター「サイエンスサロン」：『北海道の金属鉱床ー特に豊羽鉱床の成因と生成環境ー』（リンケージプラザ）2011. 10. 21
5. 無名会：『北海道の地熱発電の可能性を考える』（札幌グランドホテル）2011. 11. 17
6. 遠友学舎セミナー：『黄金の国ジパングーその後』（遠友学舎）2012. 1. 24
7. 土曜市民セミナー定年退職記念講演：『身近な岩石・鉱物と資源ー四方山（よもやま）話ー』（北大総合博物館）2012. 2. 11
8. 上川町総合振興局委員会：『北海道における地熱発電の可能性について』（旭川市、上川町役場）2012. 2. 29
9. 博物館まつり：『島弧のマグマ熱水活動に伴う鉱床形成作用ーカムチャッカ半島南部と豊羽鉱山の例ー』（北大総合博物館）2012. 3. 17

＜教育活動＞

担当科目

学部専門科目

地球惑星科学入門Ⅰ（2010 年度、分担）

地球惑星科学実習（分担）

鉱床学

鉱床学実験（地球惑星科学実験Ⅲ）

資源地質科学演習

地質図学

地球惑星科学研究Ⅰ、Ⅱ

論文購読（2006 年度より「地球惑星科学文献購読」）Ⅰ、Ⅱ

大学院科目

資源地質科学特論

自然史科学特別研究Ⅰ、Ⅱ（修士）、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ（博士）

自然史科学論文購読Ⅰ、Ⅱ（修士）、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ（博士）

大学院共通授業科目

地球惑星システム科学概論（分担）

博物館学特別講義Ⅰ（学術標本・資料学）（分担）

博物館主催科目

全学教育

総合科目「今、大学博物館が面白い！―物にこだわる科学―」（分担）

総合科目「北大自然史研究の系譜」（分担、2011 年度のみ）

一般教育演習「北大総合博物館で学ぼう！―自然と人間―」（分担）

学部・大学院教育

博物館学芸員実習（分担）

非常勤講師等

なし

各年度の学部・研究科指導学生数

2010 年度 卒論 1 名、修士 3 名、博士 4 名、GCOE 研究員 1 名、資料部研究員 1 名、研究生 1 名

2011 年度 卒論 2 名、修士 2 名、博士 3 名、GCOE 研究員 1 名、資料部研究員 1 名、研究生 1 名

学位論文(博士)主査・副査歴

2010 年度 主査 1 名、副査 0 名

2011 年度 主査 1 名、副査 1 名

<博物館活動>

総合博物館関連各種委員等

副館長(2009-2010 年)

館長(2010 年～2011 年)

総合博物館運営委員会委員(1999 年～現在)

展示(旧企画展示)専門委員会委員(1999 年～現在)

札幌農学校第 2 農場(旧モデルバーン等)の一般公開に関する専門委員会委員(2008 年～現在)

学術標本検討専門委員会委員(1999 年～現在)

総合博物館点検評価委員会委員(1999 年～現在)

ミュージアムショップ会議委員(2006 年～現在)

博物館教育

教育 GP パラタクソノミスト養成講座(岩石上級、鉱石初級・中級・上級

合計 6 回) (2010 年～2011 年)

教育 GP パラタクソノミスト養成特別講座(岩石・鉱物)野外採集会(2010 年～

2011 年 合計 2 回)

市民セミナー(企画担当)

土曜市民セミナー、グローバル COE セミナー 等

博物館企画展示・常設展示等(担当)

(企画展示)

1. 地質の日展示「わが街の文化遺産 札幌軟石―歩いた！探した！見つけた！」(2010. 4. 28～2010. 5. 31)

2. 同 上 サテライト展示(支笏湖ビジターセンター、2010. 6. 1～27)

3. 北海道サステナビリティ・ウィーク 2010『インフルエンザなどの人獣共通感染症を克服する～統合科学実験展示～』(2010. 10. 26～11. 3)

4. 地質の日展示『豊平川と私たちの暮らし』(2011. 3. 8～5. 29)

5. 同 上 サテライト展示(滝野公園、2011. 5. 31～6. 26)

6. ノーベル化学賞受賞記念展示：『ノーベル賞メダル公開』（特別企画展示）(2011. 1. 18～3. 21)

7. ノーベル化学賞受賞記念展示：『ホウ素化学研究とノーベル化学賞への軌跡』(2011. 4. 5～6. 12)

(常設展示関連)

1. ノーベル賞・ストックホルム水賞等常設展示コーナー改修開設(2011. 9. 6～)

2. 「アイランド・アーク」展示部分改修(2011. 12)

グローバル COE 展示：

1. 第 2 期『知られざる北の国境―北緯 50 度の記憶―』展(2009. 12. 18～2010. 5. 10)

2. 第3期『海疆ユーラシア：日本の南西境界』展(2010. 5. 14～11. 14)
3. 第4期『先住民と国境』展(2010. 11. 19～2011. 5. 8)
4. 第5期『言葉は境界を越えてーロシア・東欧作家の作品と世界』展(2011. 5. 13～11. 20)
5. 第6期『越境するイメージメディアにうつる中国』(2011. 11. 1～2012. 5. 13)

<学内各種委員>

埋蔵文化財検討委員会委員(2010年～2011年)
スラブ研究センター共同研究員(2011年～2013年)

<社会貢献>

日本学術振興会特別研究員審査委員(2011年～)ほか
小樽市総合博物館運営協議会委員・委員長(2007年～)
北海道博物館協会理事(2010～11年)
標津町エネルギー利用検討委員会委員長(2006年～2010年)
通商産業省産業技術総合研究所客員研究員(2007年～)
九州大学研究総合博物館外部点検評価委員会委員(2011年)
秋田大学大学院工学資源学研究科テニユアートラック人事審査小委員会委員(2011年)
上川総合振興局における地熱発電・熱水利用に関する特定プロジェクトWG 委員(2012年～)

<外部資金>

科学研究費等研究費

基盤研究(A)海外：重希土類元素及びインジウムの濃集機構と資源ポテンシャルの評価
(代表 渡辺 寧、分担者)(2007～2010年度)
特別研究員奨励費：インドネシアと日本の浅熱水性金銀鉱床におけるSe型及びTe型鉱
化作用の成因(代表者)(2011-2013年度)
グローバル COE：「境界研究の拠点形成：スラブ・ユーラシアと世界」(代表 岩下昭裕、
分担者：研究推進員[コア・メンバー])(2009～2012年度)

奨学寄附金

日本鉱業振興協会研究助成金(資源地質学会)：「環オホーツク島弧のマグマ熱水系と
金属鉱化作用、及びレアメタル資源ポテンシャル評価に関する研究」(代表 松
枝大治)(2008～2010年度)、(2010年：2件、資源地質学会経由)、2011年：2件、資
源地質学会経由)

<海外調査>

1. アメリカ、ワシントン DC「博物館施設における岩石鉱物関連展示手法調査と収蔵資料
調査」(アメリカ) 【松枝：2010年3月5日～3月13日】
2. パプア・ニューギニア、ポートモレスビー(地質鉱床調査・試料採集)
「パプア・ニューギニア Laloki 塊状硫化物鉱床調査及び試料採集」(パプア・ニューギ
ニア) 【松枝：2010年4月1日～4月6日】
3. ロシア、カムチャッカ半島(地質鉱床調査)(ロシア) 【松枝：2010年8月21日～9
月1日】
4. ロシア、モスクワ(学会発表及び鉱物博物館における標本調査)(ロシア) 【松枝：2010
年11月7日～11月15日】
5. インドネシア、ジャワ島(地質鉱床調査・試料採集)「インドネシア、西ジャワ島にお
ける地下資源開発状況及び国境問題に関する現地視察と情報収集」(インドネシア) 【松
枝：2011年2月23日～3月6日】
6. ラオス、ムン地区「ラオス、ムン地区における銅鉱床の地質鉱床調査と試料採集」(ラ
オス) 【松枝：2011年10月31日～11月6日】
7. スリランカ、中南部地区「スリランカにおける資源開発状況調査と国境問題に関する
現地情報収集」(スリランカ) 【松枝：2012年1月6日～16日】
8. チリ、コピアポ・イキケほか「チリにおける資源開発と国境問題状況調査及び鉱床調
査・試料採集」(チリ) 【松枝：2012年2月16日～2月28日】

天野哲也

AMANO Tetsuya

資料基礎研究系 教授

○研究内容の概要

列島北部－サハリン－アムール下流域における中世社会・民族形成の過程を、東アジアの枠組みの中で明らかにすること、とくに古代[擦文文化]と中世[アイヌ文化]をつなぐ試み（そのプロセスの把握と動因の解明）を中心的な課題とした。

一般に資源・技術・資本・市場は偏在するために交易が行われる。アイヌ文化・社会は交易を基盤に、物質的には内地化し、精神的には独自化をつよめたものと定義出来る。

ではなにをアイヌ文化の認定の中心的な指標にするか。「内地化した物質」の把握は当然の事ながら重要な課題であり、共同研究で鉄鍋や鉄鋼製品、木製品、ガラス玉ほかの生産と流通問題に取り組んできた。うち鉄鍋については14世紀半ば以降、能登半島の産地（中居など）からもたらされた可能性が大きいことを推定できた。これに加えて、「物質の内地化」を可能にした生産体制（集落・領域の構造と形態）と集団（交流・交雑）も指標として欠かせない。文化の担い手・集団の解明もすすみ、オホーツク人の道北・道東2グループの分類が固まってきた。また輸出品を含む生産のための労働に起因すると思われる身体の変形・障害も骨格から推定出来るようになってきた。これらの成果を論文や研究発表ほか総合博物館展示で公開した。

○2010, 2011 年度の研究・活動業績

<原著論文>

1. Sato, T., Kazuta H., Amano, T., Ono, H., Ishida, H., Koder, H., Matsumua, H., Yoneda, M., Dodo, Y. and Masuda, R. (2010): Polymorphisms and alle frequencies of the ABO blood group gene among the Jomon, Epi-Jomon and Okhotsk people in Hokkaido, northern Japan, revealed by ancient DNA analysis. *Journal of Human Genetics* 55, 691-696
2. Amano, T., Kikuti, T., Masuda, R., Ono, H., Sato, T., Ishida, H., E. Kojima, E., Lebedintsev, A. I., Miyake, T., Nakamura, K., Sasaki, S. and Sekiguchi, A. (2010): Razvitie v istoricheskom proshlom trgovli i ee vliyanie na etnichskoe razvitie i formirovanie narodov v tsrkumokhotskom regione VI Dikovskie chteniya materialy nauchno-prakticheskoi konferentsii Mgadan pp.125-128
3. Sato, T., Razhev, D., Amano, T. and Masuda, R. (2011): Genetic features of ancient West Siberian people of the Middle Ages, revealed by mitochondrial DNA haplogroup analysis. *Journal of Human Genetics* 56, pp.602-608
4. Shimoda, Y., Nagaoka, T., Moromizato, K., Sunagawa, M., Hanihara, T., Yoneda, M., Hirata, K., Ono, H., Amano, T., Fukumine, T. and Ishida, H. (2011): Degenerative changes of the spine in people from prehistoric Okhotsk culture and two ancient human groups from Kanto and Okinawa, Japan *ANTHROPOLOGICAL SCIENCE Advance Publication* PP.1-21
5. 天野哲也 (2010): 「オホーツク文化前期・中期の開発と挫折」 菊池俊彦編『北東アジアの歴史と文化』北海道大学出版会 pp. 287-295
6. 天野哲也・小野裕子 (2011): 「オホーツク集団と続縄文集団の交流」小口雅史編『海峡と考古学』高志書院 pp. 27-34

<総説・講演>

1. 天野哲也 2011 「オホーツク文化とヒグマ」北海道大学の全学教育科目「科学技術の世界」2011 年度前期学部授業「北海道大学の今を知る」制作映像(取材：清水未央、撮影：水野聡允、編集：安藤友里) <http://www.youtube.com/watch?v=tqckauq-CIM>
2. T.Amano・B.Fitzhugh・V.Shubin, 2011 Common Law of Territoriality and the Right to Travel Freely Offshore Natural and Cultural History of the Kuril Archipelago Kuril Biocomplexity Project Synthesis Workshop (Oct 31-Nov.2 University of Washington, Seattle) p.12
3. 天野哲也・大西 凜・斎藤 遼 2011 パラタクソノミスト養成講座 鉄器の観察・

記録・保存法（初級）編 北海道大学総合博物館

<教育活動>

博物館学芸員実習（分担）

全学教育〔複合科目（代表・分担）「ヒグマ学入門」

一般教育演習（分担）

<学会活動・社会貢献>

たたら研究会（事務局広島大学）地方委員

Comite pour la siderurgie ancienne 日本委員

小林快次

KOBAYASHI Yoshitsugu
資料開発研究系 准教授

○研究内容の概要

主に恐竜とワニを中心に、絶滅動物の進化や生態復元の研究を行っている。フィールドは世界に渡り、日本だけではなく、モンゴル、中国、アメリカ（特にアラスカ）、カナダといった環太平洋域で、発掘や研究を活発に行っている。研究成果のほとんどは、分野別世界ランキングに挙げられている国際誌に印刷されている（原著論文の表を参照）。国際誌を通して世界に情報発信され、学界にインパクトを与えているのがわかる。

さらに、その成果を国内外の一般科学雑誌（ニュートンなど）や一般書（NHK 出版や学研など）で紹介され、行っている研究の注目度の高さが伺える。番組の監修（主に NHK）、関東近辺のイベント会場での大規模な恐竜展（幕張）や北大総合博物館での企画展を通して一般普及活動も行っている。

研究の内容は、主に以下の5点ある。

1. 生態復元からみた、恐竜類から鳥類への進化

鳥類が中生代の恐竜類からどのようにして“鳥類化”したかが、現在の議論的になっている。内温性は、どこまでさかのぼれるのか？脳の作りはいつから“鳥類タイプ”になっていたのか？食性がどのように変化し、原始的な鳥類は生態系においてどの位置に立たされていたのか？など、化石から復元できる生態から、恐竜の“鳥類化”のプロセスを探っている。

2. アジア（モンゴルと中国）と北米（カナダ）における恐竜類の多様性

世界に恐竜王国は6カ国に渡る（中国、モンゴル、アメリカ、カナダ、アルゼンチン、イギリス）。中国とモンゴルは、これまでも多くの化石を産出しているが、現在も未開拓の地が多く、恐竜時代において恐竜の多様性がどの程度だったのかは不明な部分が多い。比較的研究が進んでいて、同時代で同じ古緯度のカナダ・アルバータ州の恐竜と比較することで、大陸間で恐竜の多様性の相違を追求している。

3. 北極圏での恐竜の多様性と適応能力

恐竜は、全大陸を支配した大型陸棲動物である。その分布域は、極圏にまで及ぶ。アラスカ州の恐竜研究を行い、当時の環境や生態系の復元、アジア-北米間における恐竜の移動の時期と種類を解明、恐竜やその他の動物の内温性の有無といったことを追求している。

4. 爬虫類における子育ての進化

爬虫類は一般的に卵生であるが、何度も胎生を収斂進化させている。進化型の主竜類（ワニ類、鳥類を含む恐竜類）は比較的複雑な卵の構造を持っており、胎生を行った形跡はないが、原始的なものには胎生のものもいた。また、鳥類に近い恐竜類は、雄が子育てをすることが知られているが、その特徴が爬虫類の進化の中でどこまでさかのぼれるのかは、未だ議論がある。原始的な主竜類を研究対象とすることで、卵生・胎生や雌・雄の子育ての進化が、いつどのように起こったのかを追求している。

5. マレーガビアルとマチカネワニの関係から見られる、ワニの進化

1964年、大阪大学豊中キャンパス内から、全長6メートルを超す巨大ワニの化石が発見された。このワニは、現在のマレーガビアルの近縁種であることが、私の研究でわかっている。マレーガビアルは、ワニの現生種の系統関係を解く鍵であり、未だに議論が続いている。化石種を含むワニで最も近縁なものがマチカネワニであり、マチカネワニとマレーガビアルの研究によって、ワニ類の系統解析の研究が進むと考えられている。

○2010年・2011年の研究・活動業績

<原著論文> 括弧内はインパクトファクター（IF）。

1. Fiorillo A. R., Hasiotis S. T., Kobayashi Y., Breithaupt, B. H., Paul J. McCarthy P. J. 2010. Bird tracks from the Upper Cretaceous Cantwell Formation of Denali National Park, Alaska, USA: a new perspective on ancient northern polar vertebrate biodiversity. *Journal of Systematic Palaeontology* 9: 33-49. (3.613)
2. Lü, J., Kobayashi, Y., Li, T., Zhong, S. 2010. A new basal sauropod dinosaur from

- the Lufeng Basin, Yunnan Province, southwestern China. *Acta Geologica Sinica* 84: 1336-1342. (1.172)
3. Lee, Y., Ryan, M., Kobayashi, Y. 2010 The first ceratopsian dinosaur from South Korea. *Naturwissenschaften* 98: 39-49. (2.316) ニュートンのトピックスに取り上げられる。
 4. Hirayama, R., Kobayashi, Y., Sonoda, T., and Sasaki, K. 2010. Preliminary report of terrestrial vertebrates from the Late Cretaceous Tamagawa Formation of the Kuji Group of Kuji City, Iwate Prefecture, northeastern Japan. *Journal of Fossil Research* 42: 74-82.
 5. Xu, L., Kobayashi, Y.*, Lü, J., Lee, Y.-N., Liu, Y., Tanaka, K., Zhang, X., Jia, S., Zhang, J. 2011. A new ornithomimid dinosaur with North American affinities from the Late Cretaceous Qiupa Formation in Henan Province of China. *Cretaceous Research*, 32: 213-222. (1.221) (*corresponding author)
 6. Tanaka, K., Lü, J., Kobayashi, Y., Zelenitsky, D. K., Xu, L., Jia, S., Qin, S., and Tang, M. 2011. Description and phylogenetic position of dinosaur eggshells from the Luanchuan area of Western Henan Province, China. *Acta Geologica Sinica*, 85: 66-74. (1.172)
 7. Winkler, D. A., Jacobs, L. L., Kobayashi, Y. and Polcyn, M. 2011. CT reconstruction and relationships of the Early Cretaceous tribosphenidan mammal, *Slaughteria eruptens* (Trinity Groups, Texas, USA). *Palaeontologia Electronica*, 14: 1-13. (1.294)
 8. Carpenter, K., Hayashi, S., Kobayashi, Y., Maryanska, T., Barsbold, R., Sato, K. and Obata, I. 2011. Redescription of *Saichania chulsanensis* (Ornithischia, Ankylosauridae) from the Upper Cretaceous of Mongolia. *Palaeontographica Abteilung A-Palaeozoologie-Stratigraphie*. (1.370)

<著書・図録・目録等>

1. 小林快次 (2010) 「頭蓋骨分析から見えてきた肉食恐竜の生態」、ニュートン ムック『ビジュアルブック 骨』, pp88-89.
2. 小林快次 (2010) 「覇を競う 恐竜 vs ワニ」、ニュートン, v. 30, n. 10, pp90-99.
3. 小林快次 翻訳執筆 (2011) 「ダチョウ恐竜集団死の謎」、日経サイエンス、6月号
4. 小林快次 (2011) 「ワニ類が、中生代最初の覇者となった」、ニュートン別冊『生命史35億年の大事件ファイル』, pp92-95.
5. 小林快次 (2011) 「三つ巴時代に決着をつけた絶滅があった」、ニュートン別冊『生命史35億年の大事件ファイル』, pp112-113.
6. 小林快次 (2011) 「恐竜が地上を支配した」、ニュートン別冊『生命史35億年の大事件ファイル』, pp114-119.
7. 小林快次 (2011) 「恐竜が空へ羽ばたいた」、ニュートン別冊『生命史35億年の大事件ファイル』, pp120-121.
8. 小林快次 「パレオントグラフィ」、ニュートン
 - (1) 小林快次・斎木健一(2010) 「古生代ペルム紀」、ニュートン, v. 30, n. 1, pp118-119
 - (2) 小林快次・斎木健一(2010) 「中生代三畳紀」、ニュートン, v. 30, n. 2, pp118-119
 - (3) 小林快次・斎木健一(2010) 「中生代ジュラ紀」、ニュートン, v. 30, n. 3, pp116-117
 - (4) 小林快次・斎木健一(2010) 「中生代白亜紀」、ニュートン, v. 30, n. 4, pp116-117
 - (5) 小林快次 (2010) 「ワニ類」、ニュートン, v. 30, n. 10, pp116-117
 - (6) 小林快次 (2010) 「ティラノサウルス類」、ニュートン, v. 30, n. 11, pp118-119
 - (7) 小林快次 (2011) 「角竜類」、ニュートン, v. 31, n. 3, pp120-121

監修・協力

1. 小林快次・江口太郎執筆「巨大絶滅動物マチカネワニ化石 恐竜時代を生き延びた日本のワニたち」、大阪大学出版、96pp.
2. 小林快次監修 (2010) 「恐竜絶滅 哺乳類の戦い」、ダイヤモンド社、259pp.
3. 小林快次監修 (2010) 「恐竜絶滅 哺乳類の戦い 新たな強敵」、NHKエンタープライズ

4. 小林快次監修 (2010) 「恐竜絶滅 哺乳類の戦い 運命の逆転劇」、NHKエンタープライズ
5. 小林快次監修 (2010) 「恐竜第研究」、NHKエンタープライズ
6. 小林快次監修 (2011) 「講談社のうごく図鑑、恐竜」、講談社
7. 小林快次監修 (2011) 「NHK子ども科学電話相談 解決! 地球のナゾ ベストQ&A」、NHK出版協会

<学会活動>

Society of Vertebrate Paleontology
日本古生物学会

<学会発表等>

1. Chiba, K., Jacobs, L., **Kobayashi, Y.**, Ando, T., Sawamura, H. 2010. 演題「The North Pacific and Panthalassic distribution of ichthyosaurs」日本古生物学会第159回例会 (滋賀県) .
2. Jacobs, L., Nishida, Y., Polycyn, M., Fiorillo, A., **Kobayashi, Y.**, Ando, T., Sawamura, H., Adams, T., Kimura, Y. 2010. 演題「Desmostylian and other marine mammal fossils from Alaska」日本古生物学会第159回例会 (滋賀県) .
3. Lü, J., **Kobayashi, Y.**, Xu, L., Wu, Y. 2010. 演題「A new basal therizinosauroid from the Lower Cretaceous Yixian Formation of Liaoning, China」70th Annual Meeting of Society of Vertebrate Paleontology (Pennsylvania, USA).
4. Lee, Y., Ryan, M., **Kobayashi, Y.** 2010. 演題「The first ceratopsian from Korea」70th Annual Meeting of Society of Vertebrate Paleontology (Pennsylvania, USA).
5. **Kobayashi, Y.**, Lee, Y., Lü, J., Ryan, M., Currie, P. 2010. 演題「A nearly complete skeleton of a new ornithomimid from the Nemegt Formation of Mongolia」70th Annual Meeting of Society of Vertebrate Paleontology (Pennsylvania, USA).
6. Fiorillo, A., Adams, T., **Kobayashi, Y.** 2010. 演題「A new dinosaur ichnofauna from The Late Cretaceous of Wrangell-St. Elias National Park and Preserve, Alaska」70th Annual Meeting of Society of Vertebrate Paleontology (Pennsylvania, USA).
7. Cullen, T., Ryan, M., Schroder-Adams, C., Currie, P., **Kobayashi, Y.** 2010. 演題「Description of the first ornithomimid (Dinosauria) bonebed from North America with implications for the discrimination, ontogeny and behavior of ornithomimids」70th Annual Meeting of Society of Vertebrate Paleontology (Pennsylvania, USA).
8. **Kobayashi, Y.**, Lü, J., Wei, X., Liu, Y. 2011. 演題「Parental care in a Cretaceous choristodera diapsid」71st Annual Meeting of Society of Vertebrate Paleontology (Las Vegas, USA).
9. Chiba, K., **Kobayashi, Y.**, Ryan, M., Evans, M. 2011. 演題「Taphonomy of a new *Centrosaurus* bonebed from the Oldman Formation (Campanian) of Southern Alberta, a comparison across formations and time.」71st Annual Meeting of Society of Vertebrate Paleontology (Las Vegas, USA).
10. Lee, H-J, Lee, Y-N., Adams, T., **Kobayashi, Y.**, Jacobs, L. L. 2011. 演題「Theropod trackways associated with ornithomimid skeletons from the Nemegt Formation (Maastrichtian) at Bugin Tsav, Mongolia」71st Annual Meeting of Society of Vertebrate Paleontology (Las Vegas, USA).

<招待・一般普及講演>

1. 小林快次 2010. 演題「小型獣脚類恐竜の生態復元」、2009年度日本古生物学会シンポジウム「古脊椎動物の復元方法」 (滋賀県立琵琶湖博物館)
2. 小林快次 2011. 演題「生物としての『境界』=進化」第9会地球システム・地球進化ニューイヤースクール (東京都新宿区)

小林快次 2011. 演題「ティラノサウルスの餌食になった恐竜」群馬県神流町恐竜センター（群馬県神流町）

<教育活動>

学位論文主査・副査歴

平成23年3月：北海道大学理学院・修士号・主査（1名）

平成23年5月：Institute of Postgraduate Studies and Research, Universiti Tunku Abdul Rahman（マレーシア）・修士号・副査（1名）

学部・研究科指導学生数：

平成22年度：5名（学部3名、修士課程2名）

平成23年度：5名（学部3名、修士課程2名、博士課程1名）

授業等：

1. 全学教育 一般教育演習「北大博物館で学ぼう！」（分担）
2. 全学教育 複合科目「今、博物館が面白い」（分担）
3. 全学教育 複合科目「生物の多様性」（分担）
4. 全学教育 基礎科目「自然科学実験」（分担）
5. 理学部地球科学科選択必修科目「古生物学」（分担）
6. 理学部地球科学科選択必修科目「地質学実習」（分担）
7. 理学部地球科学科選択必修科目「地球惑星科学実習」（分担）
8. 理学部地球科学科選択必修科目「地質図学」（分担）
9. 理学院共通科目「地球惑星システム科学概論」（分担）
10. 大学院共通科目「新自然史科学特別講義～地球と生命の自然史」（分担）
11. 大学院共通科目「博物館学特別講義Ⅰ」（分担）
12. 大学院共通科目「博物館学特別講義Ⅱ」（分担）
13. 「博物館実習」（分担）

北海道大学理学部地球惑星科学科の委員：

A0入試委員：平成23年度

<展示>

企画展示担当（北大）

1. 北海道大学総合博物館企画展示「アンモナイトの版画」主担当（2010年春）
2. 北海道大学総合博物館企画展示「アラスカの恐竜」主担当（2010年夏）（入館者数における様々な記録を塗り替える。総合入館者数5万人超え、一日入場者数最高の2,745人、1日の入場者数が1,000人を超える日が5日間、月別最高入場者数（8月に23,312人）、8月～10月の月別最高記録など、これらすべて当館の最高記録。リピート率が高く、特に小学生や中学生に人気。）

展示監修（北大外）

1. 六本木森アーツセンター（東京）「地球最古の恐竜展」監修、NHK・NHKプロモーション（2010年夏）
2. ATCミュージアム（大阪）「地球最古の恐竜展」監修、NHK・NHKプロモーション（2010年秋）
3. アイテムえひめ（愛媛）「地球最古の恐竜展」監修、NHK・NHKプロモーション（2011年春）
4. 北翔クロテック月寒ドーム「地球最古の恐竜展」監修、NHK・NHKプロモーション（2011年夏開催予定）

図録出版

1. NHKプロモーション主催「地球最古の恐竜図録（初版）」（2010）（執筆監修）
2. 北海道大学総合博物館企画展図録「アラスカの恐竜」（2010）（執筆）
3. NHKプロモーション主催「地球最古の恐竜図録（第2版）」（2011）（執筆監修）

北大イベント・セミナー

1. パラタスソノミスト養成講座 化石（初級）毎年
2. 小林快次（2010）「環太平洋域に棲んでいた新生代の絶滅動物：デスモスチルスの謎にせまる」国際シンポジウム（北大総合博物館）
3. 小林快次（2010）演題「アラスカの恐竜」アラスカ恐竜展示関連セミナー、朝日新聞ポプラ広場（北大総合博物館）
4. 小林快次（2010）演題「ベーリング海峡を渡った恐竜」アラスカ恐竜展示関連セミナー、道新ぶんぶんクラブ（北大総合博物館）

北大以外の主な一般普及講演

1. 小林快次（2010）演題「恐竜時代の陸と海」平成遠友夜学校（札幌市）
2. 小林快次（2010）演題「地球最古の恐竜」NHK文化センター（東京都千代田区）
3. 小林快次（2010）演題「地球最古の恐竜キッズセミナー」森ビル（東京都千代田区）
4. 小林快次（2010）演題「恐竜新時代 わかってきた起源・生活・絶滅」信州岩波講座（長野県須坂市）
5. 小林快次（2010）演題「アラスカの恐竜 アジアを目指した生命」札幌市青少年科学館（札幌市）
6. 小林快次（2010）演題「化石に秘められたミステリー 恐竜からのタイムカプセル」第53回サイエンスカフェ（札幌市）
7. 小林快次（2010）演題「獣脚類恐竜の生理学：脳と食性の進化」サイエンスサロン（札幌市）
8. 小林快次（2010）演題「地球最古の恐竜」高槻市民センター（大阪府高槻市）
9. 小林快次（2010）演題「地球最古の恐竜」芦屋市民センター（兵庫県芦屋市）
10. 小林快次（2010）演題「地球最古の恐竜キッズセミナー」ATCミュージアム（大阪府）
11. 小林快次（2011）演題「生物としての『境界』＝進化」第9会地球システム・地球進化ニューイヤースクール（東京都新宿区）
12. 小林快次（2011）演題「ティラノサウルスの餌食になった恐竜」群馬県神流町恐竜センター（群馬県神流町）

主なテレビ制作監修・監訳・出演

1. 小林快次監修（2010）NHKスペシャル「恐竜絶滅 哺乳類の戦い：新たな強敵」、NHK放送
2. 小林快次監修（2010）NHKスペシャル「恐竜絶滅 哺乳類の戦い：運命の逆転劇」、NHK放送
3. 小林快次監演出演（2010）NHK特別番組「ファーストダイナソー 恐竜誕生の謎に迫る」、NHK放送

主なラジオ出演

1. 2010年2011年夏 夏休み子供科学電話相談室「恐竜担当」NHK ラジオ第一放送
2. 2010年夏 ラジオ深夜便 ないとエッセー「恐竜の魅力」NHK ラジオ第一放送
3. 2010年夏 ラジオ深夜便 ないとエッセー「恐竜の起源」NHK ラジオ第一放送
4. 2010年夏 ラジオ深夜便 ないとエッセー「恐竜の繁栄」NHK ラジオ第一放送
5. 2010年夏 ラジオ深夜便 ないとエッセー「恐竜の絶滅」NHK ラジオ第一放送

主な新聞連載や雑誌協力

1. 北海道新聞夕刊「骨は語る」2010年5月より毎月連載し、北大総合博物館の所蔵物を紹介。
2. 松山新聞朝刊「恐竜」2011年3月と4月に10回連載し、恐竜の起源・繁栄・絶滅を紹介。
3. Z会小学生コース保護者向け情報誌『zigzag time』2010年6月号「Zoom up!」で研究活動が紹介される
4. JR 東日本が発行する新幹線車内誌『トランヴェール』2010年8月号「旅する恐竜学」として研究活動が紹介される
5. 雑誌『PEN』の2010年12月1日号の「大学特集」で「オトナの大学、人気教授10人注目の研究を誌上講義」として研究活動を紹介される。

<博物館活動>

総合博物館関連各種委員等

1. 総合博物館運営委員会委員
2. 総合博物館点検評価委員会委員
3. 学術標本検討専門委員会委員
4. 企画展示専門委員会委員
5. ミュージアムショップ運営委員

博物館教育

パラタクソノミスト養成講座 化石（初級）

<社会貢献>

古環境古生物学雑誌のPalaiosの編集委員（Associate Editor）

大阪大学総合学術博物館外部評価委員

大学博物館等協議会、巡回展ワーキンググループ

<外部資金>

1. 韓国地質資源研究所の研究費、「韓国国際恐竜調査：モンゴルゴビ砂漠の恐竜調査」（2010）
2. アメリカ合衆国国立公園局の研究費、「アラスカ州デナリ国立公園恐竜調査」（2010）
3. 韓国地質資源研究所の研究費、「韓国国際恐竜調査：モンゴルゴビ砂漠の恐竜調査」（2011）
4. アメリカ合衆国国立公園局の研究費、「アラスカ州デナリ国立公園恐竜調査」（2011）

【研究部博物館教育・メディア研究系】

湯浅万紀子

YUASA Makiko

博物館教育・メディア研究系 准教授

○研究内容の概要

1. 博物館体験の長期的インパクトを検証する調査研究

日本ではまだ体系的に実施されていない博物館体験の長期的インパクトの検証に取り組み、人々の記憶に残る博物館体験を調査し、その記憶を続く世代へとつなぐための博物館活動の展開方法を研究している。認知面での学習効果にとどまらない博物館体験の多様な意味を明らかにすると同時に、博物館活動の意義を検証し、博物館資源を生かした活動への提案を導くための調査研究でもある。（学術振興会科学研究費 基盤（C）「博物館体験に関する長期記憶研究に基づく新たな博物館評価の構築」（2009-2011）（研究代表：湯浅万紀子）、湯浅万紀子（2010, 2011））

2. 大学博物館における複合教育プログラムの評価に関する調査研究

大学博物館は社会において今後どのような役割を果たしていくべきかを探るために、大学博物館独自のリソースを生かした活動として「複合教育プログラム」に注目した研究を行っている。複合教育プログラムとは、博物館の活動の様々な局面に学生を関与させて教育し、その学生が博物館活動の担い手として来館者とコミュニケーションすることにより更に学習を深化させ、学生と来館者双方に教育的な意味を持つ実践的な教育プログラムである。大学博物館ならではの学生教育とは何かを探り、更にその学生教育の意義をいかに評価すればよいかを研究している。（湯浅万紀子（2010, 2011）他）

3. 展示評価に関する調査研究

展示の総括的評価として、主として展示がいかに来館者に受け止められたかについて質的な調査を実施して評価するための研究を行っている。調査手法の検討、質問紙調査の自由記述回答や面接調査のデータの分析方法について研究し、メディア報道との関わり、展示解説を受けた人、展示解説を担った人へのインパクトなどを調査し、展示を多角的に検証する研究を行っている。更に、異なる展示にフィードバックできる指摘を求めて、評価方法を検討している。同時に、来館者プロフィールを継続的に分析することで、博物館の広報活動への示唆を導く。（北海道立近代美術館評価システム導入プロジェクト（2010, 2011）、東京大学総合研究博物館（2011, 2012））

4. 博物館評価に関する調査研究

前項の展示評価を含めた包括的な博物館評価として、各館独自の使命と設立経緯、社会状況を踏まえた上で、博物館の組織体制、運営形態などを含めた活動のあらゆる局面を評価する手法、特に活動の質を評価するための手法を研究している。（学術振興会科学研究費 基盤（C）「博物館体験に関する長期記憶研究に基づく新たな博物館評価の構築」（2009-2011）（研究代表：湯浅万紀子）、北海道立近代美術館評価システム導入プロジェクト（2010, 2011）、東京大学総合研究博物館（2011, 2012））

5. 新しいミュージアム像に関する調査研究

博物館の新しい姿、活動を導くために、運営体制の見直し、コレクションや人的資源の流動化、来館者・非来館者との関わり、異分野との協働など、博物館と博物館を取り囲む社会の文化資源を新しい視点で再組織化する研究を行っている。（学術振興会科学研究費 基盤（C）「博物館体験に関する長期記憶研究に基づく新たな博物館評価の構築」（2009-2011）（研究代表：湯浅万紀子）、東京大学総合研究博物館（2011, 2012））

6. 日本におけるチルドレンズ・ミュージアムの調査研究

欧米のチルドレンズ・ミュージアムの歴史と活動状況、課題について研究した上で、日本の子どもや家族が抱える課題やニーズに応えるチルドレンズ・ミュージアム像を、組織、

活動、運営の面から描く研究を行っている。

○2010年・2011年の研究・活動業績

<原著論文>

1. 湯浅万紀子 (2010) : 学位論文『科学館における教育プログラムの評価に関する研究』(東京大学)。
2. 湯浅万紀子 (2010) : 北海道大学教育GP「博物館を舞台とした体験型全人教育の推進」ープログラム2年目の報告、『博物館研究』、45巻5号, 26-28頁。
3. YUASA, M. (2010) : 【招待論文】Challenges of University Museums as One of Free-choice Science Learning Settings, The 13th Hokkaido University-Seoul National University Joint Symposium Joint Seminar: Comparative Study of Science Teacher Education at Formal and Informal Education Settings in Korea and Japan, pp.299-324.
4. YUASA, M. (2010) : 【招待論文】Challenges of University Museums as One of Free-choice Science Learning Settings, Supplement, The 13th Hokkaido University-Seoul National University Joint Symposium Joint Seminar: Comparative Study of Science Teacher Education at Formal and Informal Education Settings in Korea and Japan, pp.87-94.

<著書・図録・目録等>

1. 湯浅万紀子 (2010) : 『科学館における教育プログラムの評価に関する研究』, コンテンツワークス、BookParkサービス。
2. 湯浅万紀子・清水寛之 (2010) : 科学館体験の長期記憶に関する調査研究の報告, 日本科学教育学会年会論文集34, 275-276頁。
3. 北海道大学教育GP「博物館と舞台とした体験型全人教育の推進」事務局 (2011) : 平成22年度北海道大学教育GP事業成果報告書 (分担執筆)。
4. 東京大学総合研究博物館 (2011) : 東京大学総合研究博物館受託研究「札幌市におけるモバイルミュージアムの展開可能性に関する基礎的調査研究報告書」(調査研究協力)。
5. 北海道立近代美術館評価システム導入プロジェクト (2011) : 「北海道立近代美術館評価システム導入プロジェクト2010 活動報告書」(分担執筆)。
6. 北海道大学教育GP「博物館と舞台とした体験型全人教育の推進」事務局 (2011) : 平成22年度北海道大学教育GP事業成果報告書 (分担執筆)。
7. 湯浅万紀子 (2012) : 平成21~23年度日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(C) 博物館体験に関する長期記憶研究に基づく新たな博物館評価の構築 研究成果報告書。
8. 東京大学総合研究博物館 (2012) : 東京大学総合研究博物館受託研究「札幌市におけるモバイルミュージアムの実践可能性に関する基礎的調査研究報告書」(調査研究協力)。
9. 北海道立近代美術館評価システム導入プロジェクト (2012) : 「北海道立近代美術館評価システム導入プロジェクト2011 活動報告書」(協力)。

<総説・解説・報告等>

1. 北海道大学教育GP「博物館と舞台とした体験型全人教育の推進」事務局 (2010) : 平成21年度北海道大学教育GP事業成果報告書 (分担執筆)。
2. 湯浅万紀子 (2010) : 北大教育GP「博物館と舞台とした体験型全人教育の推進」における社会体験型科目の成果と課題, ニュースレター北海道大学高等教育推進機構広報誌, 84, 6-7頁。
3. 湯浅万紀子 (2010) : 2009年度第2回ボランティア講座&交流会, 北海道大学総合博物館ニュース, 21, 9頁。
4. 湯浅万紀子 (2011) : 学生がミュージアムショップのグッズを企画・開発, 北海道大学総合博物館ニュース, 22, 4頁。
5. 湯浅万紀子 (2011) : 「レンズを通して見る博物館——ケータイカメラの撮り方講座」を開催, 同上, 5頁。
6. 湯浅万紀子 (2011) : カルチャーナイト2010に参加「チェンバロと星空の夕べ」を

- 開催，同上，6頁．
7. 湯浅万紀子 (2011) : 「エルムの杜の宝もの」——道新ぶんぶんクラブとの共催講座を開催，同上．
 8. 湯浅万紀子 (2011) : 2010年度第1回ボランティア講座&交流会，同上．
 9. 湯浅万紀子 (2011) : 第3回「卒論ポスター発表会」を開催，北海道大学総合博物館ニュース，23，11頁．
 10. 湯浅万紀子 (2011) : 平成22年度第2回ボランティア講座&交流会，同上，14頁．
 11. 湯浅万紀子 (2011) : 大学院生企画によるクイズラリー「博物館からの挑戦状」，北海道大学総合博物館ニュース，24，7頁．
 12. 湯浅万紀子 (2011) : 2011年度第1回ボランティア講座&交流会、三岸好太郎美術館見学会，同上，10頁．
 13. 湯浅万紀子 (2011) : カルチャーナイト2011「チェンバロと星空の夕べ」，同上，12頁．

<学会活動>

科学研究費委員会専門委員 (2010年度：博物館学専門分野)

北海道大学高等教育推進機構高等教育研究部科学技術コミュニケーション教育研究部門 (CoSTEP) 『科学技術コミュニケーション』編集委員 (2011年度)

所属学会：博物科学会、日本科学教育学会、文化資源学会、日本ミュージアム・マネジメント学会

<学会発表等>

湯浅万紀子・清水寛之 (2010) : 博物館体験に関する長期記憶研究——研究の背景と調査の枠組み，第13回大学博物館等協議会2010年大会 (第5回博物科学会)，東北大学，2010年6月25日．

湯浅万紀子・清水寛之 (2010) : 科学館体験の長期記憶に関する調査研究の報告，日本科学教育学会年会，広島大学，2010年9月12日．

YUASA, Makiko (2010) : 【招待講演】Challenges of University Museums as One of Free-choice Science Learning Settings, The 13th Hokkaido University-Seoul National University Joint Symposium Joint Seminar: Comparative Study of Science Teacher Education at Formal and Informal Education Settings in Korea and Japan, 北海道大学，2010年11月5日．

湯浅万紀子・高橋英樹、天野哲也、河原法子 (2011) : 北海道大学教育GP「博物館を舞台とした体験型全人教育の推進」3年間の取り組みの成果と課題，第14回大学博物館等協議会2011年大会 (第6回博物科学会)，名古屋大学，2011年6月24日．

湯浅万紀子・清水寛之 (2011) : 博物館体験に関する長期記憶研究(2)——3年間の調査研究の概要と科学館職員への調査の中間報告，同上．

湯浅万紀子 (2011) : 学校の博物館利用の現状と課題，ナイトツアー「生物教育における博物館の新たな可能性」，平成23年度サイエンス・リーダーズ・キャンプ北海道大学，北海道大学，2011年8月13日

清水寛之・湯浅万紀子 (2011) : 科学館体験の長期記憶研究に関する調査研究の報告(2)，日本科学教育学会年会，東京工業大学，2011年8月23日．

<一般講演・セミナー発表>

湯浅万紀子 (2010) : 【招待講演】学生教育・ボランティア活動の推進を通じた博物館資料の活用——北大総合博物館の事例紹介，平成22年度アイヌ文化財専門職員等研修会，北海道庁，2010年12月17日．

<教育活動>

2010年度 修士3名 (内、2名：副査)

2011年度 修士3名 (内、2名：副査)

講義など

総合科目「今、大学博物館が面白い―“物”にこだわる科学」(分担、2010, 2011)
一般教育演習「北大総合博物館で学ぼう!―自然と人間」(担当、2010, 2011)
博物館学II(担当、2011)
博物館実習(担当、2010, 2011)
理学院自然史科学専攻「博物館コミュニケーション特論」(分担、2010, 2011)
大学院共通授業「博物館学特別講義II 展示・教育・活動評価」(担当、2010, 2011)
文学研究科 展示制作プロセス演習(佐々木亨教授担当)(協力、2010, 2011)
教育GP・マイスターコース社会体験型科目「卒論ポスター発表会」(2010, 2011)
教育GP社会体験型科目「オリジナルTシャツの製作」(2010)
教育GP社会体験型科目「展示解説入門」(2010)
教育GP社会体験型科目「展示解説」(2010, 2011)
教育GP社会体験型科目「『アラスカの恐竜』展の展示制作」(2010)
教育GP社会体験型科目「『アラスカの恐竜』展の展示解説」(2010)
教育GP社会体験型科目「北大総合博物館ガイドブックの制作」(2010)
マイスターコース社会体験型科目「道立近代美術館評価システム導入プロジェクト」
(2011)
マイスターコース社会体験型科目「『Lepidoptera』展の展示解説」(2011)
マイスターコース社会体験型科目「卒論ポスター発表会の運営」(2011)
北海学園大学ボランティア実習(担当、2010, 2011)

<博物館活動>

総合博物館関連各種委員等

総合博物館運営委員会委員(2010, 2011)
学術標本検討専門委員会委員(2010, 2011)
企画展示専門委員会委員(2010, 2011)
ミュージアムショップ運営委員(2010, 2011)

博物館教育

教育GP「博物館を舞台とした体験型全人教育の推進」学内運営委員(2010)
教育GP「博物館を舞台とした体験型全人教育の推進」事業推進WG(2010)
教育GP「博物館を舞台とした体験型全人教育の推進」社会体験型科目WG(2010)
教育GP「博物館を舞台とした体験型全人教育の推進」広報・評価WG(2010)
ミュージアムマイスターコース担当(2011)
大学院生によるワークショップ「レンズを通して見る博物館―ケータイカメラの撮り方講座」指導(2009)
大学院生によるワークショップ「クイズラリー 博物館からの挑戦状」指導(2010)
博物館オリジナルTシャツの製作指導(2010)
卒論ポスター発表会の発表指導(2010, 2011)
卒論ポスター発表会の運営指導(2011)
ボランティア・マネジメント担当(2010, 2011)
ボランティア展示解説グループ担当(2010, 2011)
ボランティア講座&交流会 企画運営(2010, 2011)
カルチャーナイト企画・運営(2010, 2011)
総合博物館・北海道新聞ぶんぶんクラブ共催講座「エルムの杜の宝もの」企画・運営
(2010, 2011)

博物館企画展示

「アラスカの恐竜」展(展示解説・フロア対応担当、2010)
「Lepidoptera」展(展示解説・フロア対応担当、2011)

博物館常設展示

科学技術展示室リニューアル担当(2010)
博物館見学・展示解説担当(2010, 2011)
来館者調査担当(2010, 2011)

<学内各種委員>

高等教育機能開発総合センター研究員(2010, 2011)

<社会貢献>

科学研究費委員会専門委員（2010年度：博物館学専門分野）

北海道立近代美術館評価システム導入プロジェクトWGメンバー（2010,2011）

<外部資金>

科学研究費等研究費

学術振興会科学研究費 基盤（C）「博物館体験に関する長期記憶研究に基づく新たな博物館評価の構築」（2009-2011）（研究代表）

教育 GP 関連

質の高い大学教育推進プログラム（文部科学省大学改革推進等補助金）：「博物館を舞台とした体験型全人教育の推進（事業推進責任者 高橋英樹）」（2008-2010）（分担）

藤田良治

FUJITA Yoshiharu

博物館教育・メディア研究系 助教

○研究内容の概要

現在、博物館の展示は、より分かりやすく、より関心を高められる工夫として、映像やCGなどのメディアコンテンツを活用することが期待されている。博物館映像学では「博物館における情報の活用とその制作手法」を研究テーマに掲げている。

さまざまな種類のメディアコンテンツの中でも、現代社会で幅広く活用されている映像メディアに焦点を当て、来館者に向けたメッセージを的確に伝えるためのコンテンツ制作の開発、および映像制作教育における方法論の研究を行なっている。

1. 博物館映像学

博物館と映像の関係を密にするべく、博物館における「展示」としての映像、「コレクション」としての映像、「教育」としての映像を体系化する事を目指す。

2. 映像資源活用論

情報発信や映像教育に活用することを目的としたデジタルアーカイブズのあり方を追求し、メタデータとのひも付けや、コンテンツや素材の保存方法について研究する。研究成果は、次世代に向けた知の記録となることを目指す。

○2010年・2011年の研究・活動業績

<原著論文>

1. 藤田良治、藤田貢崇 (2011) 高等教育・社会人における映像教育カリキュラムの実例と検証—学芸員養成科目改正を前に、サイエンス映像学会誌, pp.1-11

<著書・図録・目録等>

1. 東京大学総合研究博物館 (2011) : 東京大学総合研究博物館受託研究「札幌市におけるモバイルミュージアムの展開可能性に関する基礎的調査研究報告書」(調査研究協力)
2. ウェルカムモニター制作 (2011)
3. 博物館ニュース改訂 (2011)
4. 総合博物館Webサイト新規構築 (2011)

<映像作品>

1. インフルエンザなどの人獣共通感染症を克服する～統合科学実験展示～ サステナビリティウィーク 2010 企画展示記録映像 (2010)
2. 鈴木 章 名誉教授 ノーベル化学賞受賞祝賀会 映像記録 (2011)
3. 鈴木章名誉教授ノーベル化学賞受賞記念展示展示関連映像 来館者の皆様へ 鈴木章 (2011)
4. 鈴木章名誉教授ノーベル化学賞受賞記念展示展示関連映像 ノーベル賞展示について 鈴木 章 (2011)
5. 鈴木章名誉教授ノーベル化学賞受賞記念展示展示関連映像 大学からの情報発信 鈴木 章 (2011)
6. 鈴木章名誉教授ノーベル化学賞受賞記念展示展示関連映像 大学と社会のコミュニケーション 鈴木 章 (2011)
7. 鈴木章名誉教授ノーベル化学賞受賞記念展示展示関連映像 色紙へサイン 鈴木 章 (2011)
8. 鈴木章名誉教授ノーベル化学賞受賞記念展示展示関連映像 北海道大学 総長メッセージ (2011)
9. 鈴木章名誉教授ノーベル化学賞受賞記念展示展示関連映像 スtockホルム随記 宮浦 憲夫 (2011)
10. 鈴木章名誉教授ノーベル化学賞受賞記念展示展示関連映像 ノーベル賞研究はどんな環境で生まれたのか 白濱 晴久 (2011)
11. 「カラスアゲハの羽化」LEPIDOPTERA (レピドプテラ) 空を舞う昆虫たちチョウとガの世界、(2011)

12. 「モンキチョウ」LEPIDOPTERA (レピドプテラ) 空を舞う昆虫たちチョウとガの世界 (2011)
13. 「幼虫の採集」LEPIDOPTERA (レピドプテラ) 空を舞う昆虫たちチョウとガの世界 (2011)
14. 「クジャクチョウの蛹化」LEPIDOPTERA (レピドプテラ) 空を舞う昆虫たちチョウとガの世界 (2011)
15. 「クジャクチョウ 羽化」LEPIDOPTERA (レピドプテラ) 空を舞う昆虫たちチョウとガの世界 (2011)
16. 「サカハチチョウの羽化」LEPIDOPTERA (レピドプテラ) 空を舞う昆虫たちチョウとガの世界 (2011)
17. “超面積”を活かした地球環境の研究と教育 -北海道大学の研究林- (2011)
18. 工学部綱引き大会記録映像 (2011)
19. サイエンスパークin北海道大学総合博物館 中継および記録映像 (2011)
20. ウェルカムモニター デモ用展示映像 (2011)

<総説・解説・報告等>

1. 平成23年 特別展示 「ノーベル賞メダル公開」平成23年1月18日～3月21日開催「ホウ素化学研究とノーベル化学賞への軌跡」平成23年4月5日～6月12日開催 (平成23年6月6日～6月12日) 博物館ニュース23号 p3
2. 総合博物館Webサイトの全面リニューアル 博物館ニュース23号 p8
3. 鈴木章名誉教授ノーベル科学賞受賞 記念展示の常設化 博物館ニュース24号 p4

<学会活動>

1. サイエンス映像学会 理事・正会員 (2010、2011)
2. 日本科学ジャーナリスト会議 正会員 (2010、2011)
3. 博物科学会 正会員 (2011)

<学会発表等>

1. 藤田良治 (2011) 大学博物館におけるメディアコンテンツの開発 ノーベル賞記念特別展示を事例として 於:名古屋大学野依記念学術交流館 (東山キャンパス) 学術交流館2Fカンファレンスホール、2011年6月23日
2. 藤田良治 (2011) 北海道大学総合博物館の活動報告 於:名古屋大学野依記念学術交流館 (東山キャンパス) 学術交流館1F 回廊、2011年6月23日
3. 藤田良治、小出五郎 映像再蘇—歴史に残る科学技術の伝え方 於:青山学院大学 青山キャンパス 総研ビル11階・12階、2012年3月28日

<一般講演・セミナー発表>

1. 藤田良治 (2010) : 総合博物館 土曜市民セミナー 博物館における映像情報デザイン、北海道大学総合博物館、2010年12月11日

<教育活動>

2010年度 修士3名 (副査)

2011年度 修士3名 (副査)

講義など

1. 全学教育科目 科学・技術の世界 北海道大学の「今」を知る (分担、2010、2011)
2. 総合科目「今、大学博物館が面白い—“物”にこだわる科学」 (分担、2010、2011)
3. 一般教育演習「北大総合博物館で学ぼう！—自然と人間」 (分担、2010、2011)
4. 理学院自然史科学専攻「博物館コミュニケーション特論」 (分担、2010、2011)
5. 文学研究科 展示制作プロセス演習 (佐々木亨教授担当) (協力、2010、2011)
6. 教育GP・マイスターコース社会体験型科目「卒論ポスター発表会」 (2010、2011)
7. 教育GP社会体験型科目「展示解説」 (2010、2011)
8. 教育GP社会体験型科目「北大総合博物館ガイドブックの制作」 (2010)
9. マイスターコース社会体験型科目「卒論ポスター発表会の運営」 (2011)

<博物館活動>

総合博物館関連各種委員等

1. 学術標本検討専門委員会委員 (2010, 2011)
2. ミュージアムショップ運営委員 (2010, 2011)

博物館教育

1. 教育GP「博物館を舞台とした体験型全人教育の推進」社会体験型科目WG (2010)
2. 卒論ポスター発表会の発表指導 (2010, 2011)
3. 卒論ポスター発表会の運営指導 (2011)

博物館企画展示

1. 特別展示「ノーベル賞メダル公開」企画、映像、制作 (担当、2011)
2. 北海道大学 鈴木章 名誉教授 ノーベル化学賞受賞記念 特別展示「ホウ素化学研究とノーベル化学賞への軌跡」展 企画、映像、制作 (担当、2011)
3. 「ノーベル常設画展示」展 企画、映像、制作 (担当、2011)
4. 「LEPIDOPTERA (レピドプテラ) 空を舞う昆虫たち、チョウとガの世界」展 企画、映像、制作 (副担当、2011)

博物館常設展示

1. 科学技術展示室リニューアル協力 (2010)
2. 展示解説協力 (2010, 2011)

<学内各種委員等>

1. ノーベル化学賞受賞祝賀会映像記録 (2010)
2. 写真・映像アーカイブスに関する意見交換会 (2011)
3. サステナビリティウィーク映像制作 (2011)
4. 工学部綱引き映像記録 (2011)

<社会貢献>

1. サイエンス映像学会 理事 (2010, 2011)

<外部資金>

1. 科学研究費等研究費

学術振興会科学研究費 若手研究 (B) 「映像コンテンツの制作・アーカイブ化に関する新たな学芸員養成教育プログラムの開発」(2011-2012) (研究代表)

2. 放送文化基金

足尾銅山の教訓を世界が学べるためのデータベースの作成と発信、人文社会・文化 (2011年度) (共同研究)

【資料部研究員】（あいうえお順）

資料部研究員業績（2010-2011）

以下、博物館活動への協力内容と論文等の業績。業績は2010-2011年の2年間を対象とし、1人当たり主な論文6本までとする。

A. 学内現役教職員

1. 東隆行（北方生物圏フィールド科学センター）

一般教育演習「北大エコキャンパスの自然—植物学入門」分担、ヤナギ属植物標本の整理。

東隆行. 福島県白河市南湖の水生植物相の変遷. 福島大学地域創造 22. (2011)

2. 池上重康（工学研究院）

第二農場施設群の展示整備、「北大の蔵書」展示コーナーのリニューアル、博物館実習の分担指導。

池上重康. 九州大学記録資料館『エネルギー史研究—石炭を中心として—』. 【資料紹介】早稲田大学創造理工学部環境資源工学科所蔵鉱山調査報告書目録. (2011)

3. 今村央（水産科学研究院）

パラタクソノミスト養成講座講師、総合科目「北大自然史研究の系譜」分担、魚類標本収集・査定作業。

今村央. 日本での分布が再確認されたホラアナゴ科魚類ユキホラアナゴ. 日本魚類学雑誌. (2011)

Imamura, H. *Onigocia sibogae*, a replacement name for a distinct species of flathead fish, *Patycephalus grandisquama* Weber, 1913. Zootaxa. (2011)

4. 大原雅（地球環境科学研究院）

単子葉植物標本の研究利用・整理、教育活動の支援。

Nishizawa, M., Kubota, S. and Ohara, M. Development of 13 microsatellite markers in *Cardiocrinum cordatum* var. *glehnii*. Molecular Ecology Resources 10: 232-236. (2010)

Ishizaki, S., Narumi, T., Mizushima, M. and Ohara, M. Effects of specialist herbivore *Luehdorfia puziloi* on fitness of woodland plant, *Asiasarum heterotropoides*. Plant Species Biology 25: 61-67. (2010)

Ishizaki, S., Kubota, S., Shiojiri, K., Harban, R. and Ohara, M. Development of eight microsatellite markers in big sagebrush (*Artemisia tridentata* Nutt.). Molecular Ecology Resources 10: 232-236. (2010)

Tomimatsu, H. and Ohara, M. Differential demographic response of plant populations to spatial and temporal environmental variability in a fragmented landscape. Oecologia 162: 903-911. (2010)

Djetror, J.C., Ohara, M. and Appiah, C. Predicting the establishment and spread of Siam weed in Australia: A test of abiotic cues on seed dormancy and germination. Research Journal of Forestry 5(3): 115-127. (2011)

Djetror, J.C., Ohara, M., Tsuyuzaki, S. and Appiah, C. On the path of invasion: Disturbance promotes the growth vigor among Siam weeds in a mine land ecosystem. Research Journal of Forestry 5(4): 144-153. (2011)

5. 小野修司（工学研究院）

工学部からの移管鉱石標本の整理・DB化。

6. 柁原宏 (理学研究院)

ミュージアムマイスターコース認定授業の開講、無脊椎動物標本の整理・受け入れ。

Kaziwara, H. Rhynchocoel vessel in Cephalotrichidae (Nemertea: Palaeonemertea). *Journal of Natural History*. (2010)

Kaziwara, H. *Dinonemertes shinkaii* sp. nov. (Nemertea: Hoplonemertea: Polystilifera: Pelagica), a new species of bathypelagic nemertean. *Zootaxa*.

Kaziwara, H. Statistical parsimony networks and species assemblages in cephalotrichid nemerteans (Nemertea). *PLoS ONE*.

Kaziwara, H. Molecular systematics of Tanaidacea (Crustacea: Peracarida) based on 18S sequence data, with an amendment of suborder/superfamily-level classification. *Zoological Science*

Kaziwara, H. *Carinoma hamanako* sp. nov. (Nemertea: Palaeonemertea), the first representative of the genus from the Northwest Pacific. *Species Diversity*.

Kaziwara, H. First record of *Phoronis psammophila* Cor, 1889 (Phoronida) from Japan. *Biogeography*.

7. 加藤博文 (アイヌ・先住民研究センター)

博物館考古学教員との共同研究。

Kato, H. Living Archaeology for the Ainu in Hokkaido. Being and Becoming Indigenous Archaeologists (ed. G. Nicholas). 246-251. Left Coast Press, CA. (2010)

Kato, H. Whose archaeology?: Decolonizing Archaeological Perspective in Hokkaido Island. *Render on Indigenous Archaeologies* (eds. M. Wobst, S. Hart and M. Bruchac). 314-321. Left Coast Press, CA. (2010)

加藤博文. シベリアにおける細石刃石器群：北方狩猟採集民の適応戦略として（下）. *旧石器考古学* (72): 1-15. (2010)

加藤博文. 出シベリアの人類史. 北アジアの歴史と民族（菊池俊彦編）. 北海道大学出版会, 札幌. (2011)

加藤博文. 旧石器考古学からみたベーリング海峡. *旧石器考古学* (75): 93-100. (2011)

加藤博文. シベリアにおける新人・旧人遺跡. 科研費補助金新学術領域研究ネアンデルタールとサピエンス交替劇の真相: 学習能力の進化に基づく実証的研究 2010 年報 A01 班: 51-54. (2011)

8. 川村信人 (理学研究院)

9. 小亀一弘 (理学研究院)

海藻標本の整理・利用・貸出、新規標本の収蔵。

Kogame, K. Disappearance of male mitochondria DNA after four-cell stage in sporophytes of the isogamous brown alga *Scytosiphon lomentaria* (Scytosiphonaceae, Phaeophyceae). *Journal of Phycology*. (2010)

Kogame, K. *Petalonia tatewakii* sp. nov. (Scytosiphonaceae, Phaeophyceae) from the Hawaiian Islands. *Phycologia*. (2011)

10. 近藤誠司 (北方生物圏フィールド科学センター)

博物館「札幌農学校第2農場等の一般公開に関する専門委員会」の委員長として第2農場の管理運営に携わる。

Kondo, S. Differences in grazing behavior of horses and cattle at the feeding station scale on woodland pasture. *Animal Science Journal* 81: 384-392 (2010)

Kondo, S. Recent progress in the study of behavior and management in grazing cattle. *Animal Science Journal* 82: 26-35. (2010)

Kondo, S. Effects of quality and physical form of hay on mean retention time of

deigesta and total tract digestibility in horses. *Animal Feed Science and Technology* 1956: 61-67. (2011)

近藤誠司. 舎飼い飼養から放牧飼養への移行時期における牛乳成分の変動. 北海道畜産学会報 53: 29-34. (2011)

近藤誠司. 平坦地での昼夜定置放牧における泌乳牛の移動距離の変化. 北海道畜産学会報 53: 43-50. (2011)

佐藤衆介・近藤誠司・田中智夫・楠瀬 良・森 裕司・伊谷原一（編著）. 動物行動図説, 家畜 伴侶動物 展示動物. 朝倉書店, 東京. (2011)

11. 佐々木亨（文学研究科）

常設展示のリニューアル、大学院共通授業「博物館学Ⅰ」「博物館学ⅡⅠ」分担。

佐々木亨. 自治体博物館の運営. 都市問題 102(11). (2011)

12. 沢田健（理学院）

フィールド採集の植物化石の博物館登録と収蔵作業、学部授業での博物館収蔵化石の利用。

Lyle, M., Palike, H., Nishi, H., Raffi, I., Gamage, K., Klaus, A. and the IODP Expeditions 320/321 Scientific Party. The pacific equatorial age transect, IODP expeditions 320 and 321 building a 50-million-year-long environmental record of the Equatorial Pacific. *Scientific Drilling* (9): 10.2204/iodp.sd.9.01. 2010. (2010)

Nakamura, H., Sawada, K. and Takahashi, M. Aliphatic and aromatic terpenoid biomarkers in Cretaceous and Paleogene angiosperm fossils from Japan. *Organic Geochemistry* 41: 975-980. (2010)

中村英人・沢田健. 古代の堆積物中の陸上高等植物テルペノイドを用いた古植生解析. 地球化学 44: 205-219. (2010)

新村龍也・沢田健. 骨化石中のコレステロールの炭素同位体組成を用いた海生哺乳類の古食性解析の研究. *Researches in Organic Geochemistry* 27: 23-32. (2011)

13. 高倉純（文学研究科）

パラタクソノミスト養成講座講師、白滝遺跡出土旧石器資料の分析。

高倉純. 北海道の縄文時代晩期から続縄文時代前半期にかけての石器群の変遷. 北海道考古学 46: 43-58. (2010)

高倉純. 海況変遷と遺跡群 ①北海道東部. 「縄文時代の考古学4 人と動物の関わりあい」. 38-47. 同成社. (2010)

Takakura, J. Refitted materials and consideration of lithic reduction sequence among the microblade assemblages. *Asian Perspectives* 49: 332-347. (2010)

高倉純. 石器からみた縄文から続縄文時代への変容. 北海道考古学 47: 17-32. (2011)

14. 田中直伸（薬学院）

博物館常設展示「重要生薬標本」の展示標本管理。

Tanaka, N., Abe, S., Hasegawa, K., Shiro, M., Kobayashi, J. Biyoulactones A-C, new pentacyclic meroterpenoids from *Hypericum chinense*. *Org. Lett.* 13: 5488-5491. (2011)

Tanaka, N., Mamemura, T., Shibazaki, A., Gonoi, T. and Kobayashi, J. Yojironins E-I, prenylated acylphloroglucinols from *Hypericum yojiroanum*. *Bioorg. Med. Chem. Lett.* 21: 5393-5397. (2011)

Tanaka, N., Momose, R., Shibazaki, A., Gonoi, T., Fromont, J. and Kobayashi, J. Stelliferins J-N, isomalabaricane-type triterpenoids from Okinawan marine sponge *Rhabdastrella* cf. *globostellata*. *Tetrahedron* 67: 6689-6696. (2011)

Tanaka, N., Suto, S., Kobayashi, J. Veramadines A and B, new steroidal alkaloids from *Veratrum maakii* var. *japonicum*. *Chem. Pharm. Bull.* 59: 909-912. (2011)

Mamemura, T., Tanaka, N., Shibazaki, A., Gonoi, T. and Kobayashi, J. Yojironins A-D,

meroterpenoids and prenylated acylphloroglucinols from *Hypericum yojiroanum*. Tetrahedron Lett. 52: 3575-3578.

Suto, S., Tanaka, N., Fromont, J. and Kobayashi, J. Halichonadins G-J, new sesquiterpenoids from a sponge *Halichondria* sp. Tetrahedron Lett. 52: 3470-3473. (2011)

15. 戸田正憲 (低温科学研究所)

低温科学研究所保管ショウジョウバエ類標本の整理、博物館への収蔵、博物館資料部長。

Yassin, A., Da Lage, J.-L., David, J.R., Kondo, M., Madi-Ravazzi, L., Prigent, S.R. and Toda, M.J. Polyphyly of the *Zaprionus* genus group (Diptera: Drosophilidae). Molecular Phylogenetics and Evolution 55(1): 335-339. (2010)

Toda, M.J., Tanabe, S. and Akutsu, K. Structure and diversity of drosophilid communities in special relation to the three-dimensional structure of forest. Low Temperature Science 69: 262-270. (2011)

胡耀光・戸田正憲. 昆虫群集組成解析への変性剤濃度勾配ゲル電気泳動 (DGGE) 法適用の試み. 低温科学 69: 135-143. (2011)

Toda, M.J. and Lakim, M.B. Genus *Colocasiomyia* (Drosophilidae: Diptera) in Sabah, Bornean Malaysia: High species diversity and use of host aroid inflorescences. Entomological Science 14: 262-270. (2011)

Wen, S.-y., Yamada, H., Li, Y.-f., Kimura, M.T., Oguma, Y., Sawamura, K. and Toda, M.J. Copulatory courtship behavior and sine song as a mate recognition cue in *Drosophila lini* and its sibling species. Zoological Science 28: 469-475. (2011)

Gao, J.-j., Hu, Y.-g., Toda, M.J., Katoh, T. and Tamura, K. Phylogenetic relationships between *Sophophora* and *Lordiphosa*, with proposition of a hypothesis on the vicariant divergences of tropical lineages between the Old and New Worlds in the family Drosophilidae. Molecular Phylogenetics and Evolution 60: 98-107. (2011)

16. 中川光弘 (理学研究院)

博物館収蔵火山学関係試料を使った研究、博物館資料部長。

Matsumoto, A. and Nakagawa, M. Formation and evolution of silicic magma system: Petrology of the volcanic rocks of Usu volcano, Hokkaido, Japan. Jour. Volcanol. Geotherm. Res. 196: 185-207. (2010)

長谷川健・中川光弘・伊藤順一・山元孝広 (2011) 北海道東部、釧路地域に分布する第四系の年代：高分解能テフラ層序に基づく対比と編年. 地質学雑誌 117: 686-699. (2011)

Nakagawa, M., Hiraga, N. and Furukawa, R. Formation of a zoned magma chamber and its temporal evolution during the historic eruptive activity of Tarumai Volcano, Japan: Petrological implications for along-term forecast of eruptive activity of an active volcano. Jour. Volcanol. Geotherm. Res. 205: 1-16. (2011)

Hasegawa, T., Nakagawa, M., Yoshimoto, M., Ishizuka, Y., Hirose, W., Seki, S., Ponomareva, V. and Alexander, R. Tephrostratigraphy and petrological study of Chikurachki and Fuss volcanoes, western Paramushir Island, northern Kurile Islands: Evaluation of Holocene eruptive activity and temporal change of magma system. Quaternary International 246: 278-297. (2011)

上澤真平・中川光弘・江草匡倫. 南西北海道、羊蹄火山の完新世噴火史の再検討. 火山 56: 51-63. (2011)

長谷川健・中川光弘・岸本博志. 北海道東部カルデラ火山群の大規模火砕噴火史. 月刊地球 33(22): 726-734. (2011)

17. 新井田清信 (理学研究院)

岩石標本の整理・照合・データベース作成、常設展示「アイランド・アーク」の岩石標本管理。

新井田清信. 北海道概説. 日本地方地質誌 I 「北海道地方」 (日本地質学会編). 1-15. 朝倉書店. (2010)

- 新井田清信. 札文ー樺戸帯の白亜系. 日本地方地質誌 I「北海道地方」(日本地質学会編). 92-94. 朝倉書店. (2010)
- 新井田清信. 新地球化学標準試料作製のための北海道におけるかんらん岩採取概要報告. 地質調査総合センター研究資料集 (530): 1-9. (2010)
- Niida, K. Seafloor geology of the serpentinite body in the ohmachi seamount (Izu-Bonin arc) as exhumed parts of a subduction zone within the Phillipine Sea. In: Accretionary Prisms and Convergent Margin Tectonics in the Northwest Pacific Basin (Ogawa, Y., Anma, R., and Dilek, Y. eds.), Modern Approaches in Solid Earth Sciences 8. Springer, 97-128. (2011)
- 新井田清信. 幌満かんらん岩. 宮坂省吾ほか(編)札幌の自然を歩く (第3版: 道央地域の地質あんない). 北海道大学出版会. 250-257. (2011)
- 新井田清信. 様似町役場前のかんらん岩広場. 宮坂省吾ほか(編)札幌の自然を歩く (第3版: 道央地域の地質あんない). 北海道大学出版会. 258-259. (2011)

18. 古川義純 (低温科学研究所)

- 展示資料の整備、パネル作成、ぶんぶんクラブ講師。
- Nada, H., Zepeda, S., Miura, H. and Furukawa, Y. Significant alteration in anisotropic ice growth rate induced by the ice nucleation-active bacteria *Xanthomonas campestris*. Chemical Physics Letters 498: 101-106. (2010)
- Sazaki, G., Zepeda, S., Nakatsubo, S., Yokoyama, E. and Furukawa, Y. Elementary steps at the surface of ice crystals visualized by advanced optical microscopy. Proc. Nat. Acad. Sci. USA. 107: 19702-19703. (2010)
- Yokoyama, E., Yoshizaki, I., Shimaoka, T., Sone, T., Kiyota, T. and Furukawa, Y. Measurements of growth rates of an ice crystal from supercooled heavy water under microgravity conditions- Basal face growth rate and tip velocity of a dendrite. Journal of Physical Chemistry B115: 8739-8745. (2011)

19. 堀口健雄 (理学院)

- ミュージアムマイスターコース認定授業の開講、単細胞生物の標本作製に関する研究。
- Amo, M., Suzuki, N., Kawamura, H., Yamaguchi, A., Takano, Y. and Horiguchi, T. Sterol composition of dinoflagellates: different abundance and composition in heterotrophic species and resting cysts. Geochemical Journal 44: 225-231. (2010)
- Shah, M.D.M.R., Reimer, J.D., Horiguchi, T. and Suda, S. Diversity of dinoflagellate blooms in reef flat tide pools at Okinawa, Japan. Galazia 12: 49. (2010)
- Yamaguchi, A., Hoppenrath, M., Pospelova, V., Horiguchi, T., and B. S. Leander. Molecular phylogeny of the marine sand-dwelling dinoflagellate *Herdmania litoralis* and an emended description of the closely related planktonic genus *Archaeperidinium* Jorgensen. Eur. J. Phycol. 46: 98-112. (2011)
- Hagino, K., Bendif, E. M., Young, J. R., Kogame, K., Takano, Y., Probert, K., Horiguchi, T., de Vargas, C., and Okada, H. New evidence for morphological and genetic variation in the cosmopolitan coccolithophore *Emiliania huxleyi* (Prymnesiophyceae) from the eoxlb-atp4 genes. J. Phycol. 47: 1174-1176. (2011)
- 堀口健雄. アルベオラータ生物群: 多様性と系統. 日本プランクトン学会報 58: 11-18. (2011)

20. 増田隆一 (理学院)

- 全学教育「ヒグマ学入門」の分担、大学院共通授業「学術標本・資料学」の分担、理学部実習での所蔵標本の利用。
- Sato, T., Razhev, D., Amano, T., and Masuda, R. Genetic features of ancient West Siberian people of the Middle Ages, revealed by mitochondrial DNA haplogroup analysis. Journal of Human Genetics 56: 602-608. (2011)
- Oishi, T., Uruguchi, K., Takahashi, K., and Masuda, R. Population structures of the red fox (*Vulpes vulpes*) on the Hokkaido Island, Japan, revealed by microstellite

analysis. *Journal of Heredity* 102: 38-46. (2011)
増田隆一・井上友・江村正一・高田靖司・金子弥生. ハクビシンの多様性科学. *哺乳類科学* 51: 188-191. (2011)

21. 宮本敏澄 (農学研究院)

農学部所蔵菌類標本の検討と移管必要性の判断、菌類標本庫管理対応、博物館広報への協力。

22. 守屋豊人 (埋蔵文化財調査室)

パラタクソノミスト養成講座講師、博物館広報への協力。

23. 矢部衛 (水産科学研究院)

魚類標本の保存・管理、新規標本の作製。

Miya, M., T. W. Pietsch, J. W. Orr, R. J. Arnold, T. Satoh, A. M. Shedlock, H.-C. Ho, M. Shimazaki, M. Yabe and M. Nishida. Evolutionary history of anglerfishes (Teleostei: Lophiiformes) : a mitogenomic perspective. *BMC Evolutionary Biology* 10(58) : 678(1471-2148). (2010)

田城文人・今村 央・矢部 衛 : 日本での分布が再確認されたホラアナゴ科魚類ユキホラアナゴ(新称) *Ilyophis nigeli*. *魚類学雑誌* 57(2) : 167-172. (2010)

田城文人・尼岡邦夫・三上敦史・矢部 衛 : 北海道南部で初めて定着が確認された国内外来種アブラハヤ. *魚類学雑誌* 57(1) : 57-61. (2010)

鶴岡 理・今村 央・矢部 衛 : キチジ科アラスカキチジの本州北部沖太平洋からの記録. *北海道大学水産科学研究彙報* 60(1): 19-21. (2010)

Shinohara, G, S.M. Shirai, M. V. Nazarkin and M. Yabe : Preliminary list of the deep-sea fishes of the Sea of Japan. *Bull. Natl. Mus. Nat. Sci, Ser. A.* 37(1) : 28(35-62). (2011)

山本みつ美・大橋慎平・小谷健二・矢部 衛 : 東北太平洋沿岸から記録された 5 種の魚類. *日本生物地理学会会報* 66(11): 221-231. (2011)

24. 吉澤和徳 (農学研究院)

農学部昆虫標本の管理、博物館昆虫標本を利用した研究。

Yoshizawa, K. Systematic revision of the Japanese species of the subfamily Amphigerontinae (Psocodea: 'Psocoptera': Psocidae). *Insecta matrumurana*, new series 66: 11-36. (2010)

Yoshizawa, K. and Lienhard, C. In search of the sister group of the true lice: A systematic review of booklice and their relatives, with an updated checklist of Liposcelididae (Insecta: Psocodea). *Arthropod Systematics and Phylogeny* 68: 181-195. (2010)

吉澤和徳. 直接最適化法 direct optimization の問題点. *タクサ* 30: 17-29. (2011)

Yoshizawa, K., Bess, E., and Johnson, K.P. Kalindipsocinae are a sister taxon of the rest of Psocidae (Insecta: Psocodea: 'Psocoptera'). *Invertebrate Systematics* 25: 81-90. (2011)

Yoshizawa, K. Monophyletic Polyneoptera recovered by wing base structure. *Systematic Entomology* 36: 377-394. (2011)

Cameron, S.L., Yoshizawa, K., Misukoshi, A., Whitning, M.F., and Johnson, K.P. Mitochondrial genome deletions and minicircles are common in lice (Insecta: Phthiraptera). *BMC Genomics* 12: 394. (2011)

25. 四ツ倉典滋 (北方生物圏フィールド科学センター)

外国人特任教授との共同研究、パラタクソノミスト養成講座の講師。

Yotsukura, N. Mitochondrial DNA sequence variation of four *Sacchrina* species (Laminariales, Phaeophyceae) growing in Japan. *Journal of Applied Phycology*.

(2010)

Yotsukura, N. Seasonal changes in proteomic profiles of Japanese kelp: *Saccharina japonica* (Laminariales, Phaeophyceae). *Journal Applied Phycology*. (2010)

四ツ倉典滋. 日本産コンブ目植物の分類体系. *Algal Resources*. (2011)

Galani, D.・四ツ倉典滋・川井雅史. 2011. ロシア、サハリン州と日本におけるガゴメコンブの分布に関する情報. *Algal Resources* 4: 1-8. (2011)

Boo, G.H., Lindstrom, S.C., Klochkova, N.G., Yotsukura, N., Yang, E.C., Kim, H.G., Waaland, J.R., Cho, G.Y., Miller, K.A., abnd Boo, S.M. 2011. Taxonomy and biogeography of *Agarum* and *Thalassiophyllum* (Laminariales, Phaeophyceae) based on nuclear, mitochondrial, and plastid gene sequences. *Taxon* 60: 831-840. (2011)

Yotsukura, N., Nagai, K., Tanaka, T., Kimura, H. and Morimoto, K. 2011. Temperature stress-induced changes in the proteomic profiles of *Ecklonia cava* (Laminariales, Phaeophyceae). *Journal of Applied Phycology* (online first). (2011)

26. 綿貫豊 (水産科学研究院)

海鳥標本の作製、パラタクソミスト養成講座の講師。

27. Gautam Pitambar (創成研究機構)

博物館関係の英文パネル・ボード類の英文原稿校閲・英訳、企画展示・国際セミナー運営協力、ヒマラヤ産岩石サンプルの測定・研究。

Gautam, P., Ulak, P.D., Gyawali, B. and Bhandari, S. Magnetic susceptibility of some Lesser Himalayan rocks in central Nepal. *Journal of Nepal Geological Society* 43: 31-40. (2011)

28. Matthew Hill Dick (理学研究院)

標本収集・研究。

Dick, M.H. Cribrimorph and other *Cauloramphus* species (Bryozoa: Cheilostomata) from the northwestern Pacific. *Zoological Science*. (2011)

Dick, M.H. Division of labor and recurrent evolution of polymorphism in a group of colonial animals. *Evolutionary Ecology*. (2011)

Dick, M.H. Are plumatellid statoblasts in freshwater bryozoans phylogenetically informative? *Zoological Science* 28: 318-326. (2011)

Dick, M.H. Cribrimorph and other *Cauloramphus* species (Bryozoa: Cheilostomata) from the northwestern Pacific. *Zoological Science* 28: 134-147. (2011)

B. 学内現任教職員以外

29. 在田一則

ネパール調査資料・岩石試料の整理、博物館実習の分担、パラタクソミスト養成講座講師、企画展示などの協力、ボランティアの会会長。

Imayama, T., Takeshita, T. and Arita, K. Metamorphic P-T profile and P-T path discontinuity across the far-eastern Nepal Himalaya: investigation of channel flow models. *Journal of Metamorphic Geology* 28: 527-549. (2010)

在田一則・竹下徹・見延庄士郎・渡部重十 (編著) 地球惑星科学入門. 427pp. 北海道大学出版会, 札幌. (2010)

在田一則. 概説. 日本地方地質誌 I 「北海道地方」 (日本地質学会編). 114-118. 朝倉書店. (2010)

在田一則. ネパールへの道-初めてのヒマラヤ地質調査の旅 (1967 年予察隊). テーチス紀行集編集委員会 (編) テーチス海に漂う青い雲. 265-285. 東京、いりす. (2011)

在田一則ほか (編著) わが街の文化遺産 札幌軟石—支笏火山の恵み. 83pp. 北海道大学総合博物館. (2011)

在田一則ほか (編著) 豊平川と私たち—その生いたちと自然—. 61pp. 北海道大学総合博

物館。(2011)

30. 伊藤誠夫

マルハナバチ類の研究、標本の整理。

Williams, P.H., Ito, M., Matsumura, T. and Kudo, I. The bumblebees of the Nepal Himalaya (Hymenoptera: Apidae). *Insecta matsumurana*. (2010)

31. 稲荷尚記

甲虫目標本の整理、マルハナバチ類等の研究、市民セミナー・パラタクノソミスト養成講座講師。

32. 越前谷宏紀

化石データベース管理、鉱物標本データベース管理、化石標本整理、博物館実習担当、は虫類化石の研究。

33. 大泰司紀之

哺乳類標本の整理・データベース化、ハンズオン標本の作製、チベット高原調査の整理・展示準備。

大泰司紀之・太子(石船) 夕佳. 自然生態系は「中間ライン」・国境を超える. *インターカルチュラル* (9): 7-16. (2010)

Sato, Y., Nakamura, H., Ishifune, Y. and Ohtaishi, N. The white-colored brown bears of the southern Kurils. *Ursus* 22(1): 84-90. (2011)

大泰司紀之・平田剛士. エゾシカは森の幸. 北海道新聞出版局, 札幌. (2011)

Hoshino B, Z. Jiang, C. Liu, T. Yoshida, H. Mahamut, M. Kaneko, M. Asakawa, M. Motokawa, K. Kaji, X. Wuc, N. Ohtaishi, Sumiya Ganzorig, and R. Masuda Preliminary study on migration pattern of the Tibetan antelope (*Pantholops hodgsonii*) based on satellite tracking. *Advances in Space Research* 48: 43-48. (2011)

34. 小笠原正明 (2011 年度より)

遺跡出土アスファルト・琥珀の試料整理とデータベース化、統合科学教育における博物館の役割。

小笠原正明. 特色G P のすべて 大学教育改革の起動. JUAA 選書 (大学基準協会監修) 編著. (2011)

小笠原正明. 特色G P は大学の何を変えたのか. *Between* (237): 36-38. (2011)

小笠原正明. 新渡戸稲造と趙爾巽. *新渡戸稲造の世界* (20): 101-105. (2011)

35. 岡田大岬

博物館所蔵会津墨岱旧蔵作品の分類・整理、報告。博物館の書関係資料の発表。博物館所蔵岡田作の書の公開。

岡田大岬. 北海道の書人—その群像—その(5) 大塚鶴洞. 美術ペン. (連載) (2011)

岡田大岬. 漢字のはなし. 書現. (連載) (2012)

36. 加藤誠

古生代サンゴ化石標本の整理、総合科目「北大自然史研究の系譜」分担、サンゴの分類学的研究。

Kato, M. Masao Minato (1915-1984). *Kolner forum*. (2011)

Kato, M. Extreme constructional forms of Carboniferous Rugosa from the Akiyoshi terrane. *Geologie u. Palaontologie*. (2011)

37. 小泉格 (2010 年度)

Koizumi, I. Revised diatom biostratigraphy of DEDP Leg 19 drill cores and dredged samples from the subarctic Pacific and Bering Sea. JAMSTEC Rep. Res. Dev. 10: 1-21. (2010)

小泉格・坂本竜彦. 日本近海の海水温変動と北半球気候変動との共時性. 地学雑誌 119(3): 489-509. (2010)

Koizumi, I. and Yamamoto, H. Paleooceanographic evolution of North Pacific surface water off Japan during the past 150,000 years. Marine Micropaleontology 74: 108-118. (2010)

38. 小林孝人

菌類標本庫 SAPA の管理・運営、博物館実習分担、パラタクソノミスト養成講座講師、アセタケ属菌のモノグラフ研究。

小林孝人. 日本新産種 *Cortinarius rigidus* について. 日本菌学会会報. 51: 68-70. (2010)

Kasuya, T. and Kobayashi, T. Revision of some Japanese *Crepidotus*: a new species, a new record and type studies of two species described by Sanshi Imai. Sydowia. 63(2):183-201. (2011)

39. 小林憲生 (2010 年度)

昆虫標本の整理、パラタクソノミスト養成講座講師。

Kobayashi, N. Food plant of a supralittoral flightless weevil, *Isonycholips gotoi* (Coleoptera, Curculionidae). Elytra 38(2): 167-168. (2010)

Kobayashi, N., Kumagai, M., Minegishi, D., Tamura, K., Aotsuka, T. and Katakura, H. Molecular population genetics of a host-associated sibling species complex of phytophagous ladybird beetles (Coleoptera: Coccinellidae: Epilachninae). Journal of Zoological Systematics and Evolutionary Research. 49(1): 16-24. (2011)

40. 小俣友輝 (2010 年度)

博物館「宇宙の 4D シアター」運営の補助。

41. 末永義圓

獣医学骨格標本コーナーへの標本展示、「ブタ頭蓋の副鼻腔の形態学的観察」の研究。

42. 諏訪正明

双翅目ハナバエ科昆虫類の標本同定、論文作成。

Suwa, M. A new species closely related to *Botanophila fugax* (Meigen) from Japan (Diptera, Anthomyiidae). Japanese Journal of Systematic Entomology 17: 77-81. (2011)

Suwa, M. Supplementary notes on the family Anthomyiidae of Japan (Diptera), VII. Insecta matsumurana new series 67: 75-98. (2011)

43. 高井宗宏

第二農場の展示整備・展示解説、施設管理への協力。

44. 高久元

博物館特任教授との共同研究、国際シンポジウムの運営。

Hartini, S. and Takaku, G. Mites of the genus *Holostaspella* (Acari: Gamasida: Macrochelidae) in Indonesia. Entomological Science. (2010)

斉藤美樹・高久元. 北海道のハウレンソウ圃場における土着ヤドリダニ類の種構成. 日本応用動物昆虫学会誌 55: 171-173. (2011)

Saito, M. and Takaku, G. First record of *Hypoaspis* (*Gaeolaelaps*) *praesternalis* Willmann (Acari: Mesostigmata: Laelapidae) from Japan. Journal of the Acarological

Society of Japan 20: 87-93. (2011)

45. 高橋亮平

カムチャツカ及び千島産岩石鉱石試料を用いた地球科学研究。

Tohma, Y., Imai, A., Sanematsu, K., Yonezu, K., Takahashi, R., Koyama, M. Sekine, R. and Watanabe, K. Characteristics and mineralization age of the Fukusen No. 1 vein, Hishikari epithermal gold deposition, southern Kyushu, Japan. Resource Geology 60: 348-358. (2010)

46. 仲谷一宏

魚類標本の整理、学生の指導。

Kaga, T., Imamura, H. and Nakaya, K. A new sand whiting, *Sillago (S.) caudicula*, from Oman, the Indian Ocean. Ichthyological Res. 57:367-372. (2010)

Nakaya, K. Biology of the megamouth shark, *Megachasma pelagios*. Proc. Intl. Symp., Into the Unknown, Researching Mysterious Deep-sea Animals. pp.69-83. (2010)

仲谷一宏. 世界サメ図鑑. ネコパブリッシング, 東京. (2010)

Iwatsuki, Y., Miyamoto, K., Nakaya, K. and Zhang, J. A review of the genus *Platyrhina* (Chondrichthyes: *Platyrhinidae*) from the northwestern Pacific, with descriptions of two new species. Zootaxa 2738: 26-40. (2011)

Tomita, T., Sato, K., Suda, K., Kawauchi, J. and Nakaya, K. Feeding of the megamouth shark (Pisces: Chondrichthyes: Megachasmidae) predicted by its hyoid arch. A biomechanical approach. Journal of Morphology 272(5): 513-524. (2011)

仲谷一宏. サメー海の王者たちー. ブックマン社, 東京. (2011)

47. 藤田正一

平成遠友夜学校の運営、歴史展示パネルの改善、展示解説。

Sakamoto, Q.K., Sato, K., Kato, A., Fukui, D., Bando, G., Naito, Y., Habara, Y., Ishizuka, M. and Fujita, S. Metabolic alkalosis due to feeding chicks in breeding Adelie penguins *Pygoscelis adeliae* under natural conditions. Physiol. Biochem. Zool., 83: 232-238. (2010)

Kim, H.S., Sakai, N., Saito, K., Fujita, S. and Ishizuka, M. Diazepam metabolism in kidney of male and female rats of varying strain. J. Vet. Med. Sci., 72: 7-11. (2010)

Darwish, W.S., Morshdy, A.E., Ikenaka, Y., Ibrahim, Z.S., Fujita, S. and Ishizuka, M. Expression and Sequence of CYP1A in Camel. J. Vet. Med. Sci., 72: 221-224. (2010)

Sasaki, N., Matsumoto, T., Ikenaka, Y., Kazusaka, A., Ishizuka, M. and Fujita, S. Furazolidone induces the activity of microsomal enzymes that metabolize furazolidone in chickens. Pestic. Biochem. Physiol., 100: 135-139. (2011)

Ohno, M., Darwish, W.S., Ikenaka, Y., Miki, W., Fujita, S. and Ishizuka, M. Astaxanthin rich crude extract of *Haematococcus pluvialis* induces cytochrome P450 1A1 mRNA by activating aryl hydrocarbon receptor in rat hepatoma H4IIE cells. Food Chem. 130: 356-361 (2011)

48. 前川光司

魚類液浸標本の整理。

前川光司. 溪流改変と溪流魚. 北海道の森林. 197-202. 北海道新聞社. (2011)

前川光司 (編集). 野生動物保護の事典. 朝倉書店. (2011)

49. 増田道夫

海藻標本の同定・貼付・登録・データベース入力、ダジア属の分類学的研究、全学教育「北大自然史研究の系譜」分担。

50. 馬渡駿介

苔虫標本の調査・分類学的研究。

Kakui K., Kajihara H., Mawatari S. F. A new species of *Nesotanaïs* Shiino, 1968 (Crustacea, Tanaidacea) from Japan, with a key to species and a note on male chelipeds. *ZooKeys* 33: 1-17. (2010)

Hirose, M. and Mawatari, S.F. Freshwater Bryozoa of Lake Biwa, Japan. *Species Diversity* 16(1-2): 1-37. (2011)

Dick, M. H. Mawatari, S. F., Sanner, J. and Grischenko, A. V. *Cribrimorph and Other Cauloramphus Species* (Bryozoa: Cheilostomata) from the Northwestern Pacific. *Zoological Science* Vol. 28(2):134-147. (2011)

Hirose, M., Dick, M. and Mawatari, S. F. Are Plumatellid Statoblasts in Freshwater Bryozoans Phylogenetically Informative? *Zoological Science* Vol. 28(5):318-326. (2011)

馬渡駿介. 自然史標本が被災した一公的に保全されるべき科学の文化財. 現代化学 2011 年 12 月号: 30-31. (2011)

馬渡駿介. 日本動物分類学会連合に求められる外部とのコミュニケーション. 日本分類学会連合ニュースレター20 号 1-2 頁. (2011)

51. 持田誠

植物標本を利用した研究調査、図書室利用調査、人体模型調査、パラタクソノミスト養成講座講師。

持田誠. 小樽市銭函海岸林の植生 (第 1 報). 小樽市総合博物館紀要 23: 1-6. (2010)

持田誠. 大学博物館の蔵書登録とその活用: 北海道大学総合博物館の事例. 図書館界 61(6):634-638. (2010)

持田誠. サージェイントのクロビイタヤ. 高橋英樹 (編). マキシモヴィッチ・長之助・宮部, pp.29-30. 北海道大学総合博物館, 札幌. (2010)

岸田和明・古賀崇・高山正也・田窪直規・持田誠. 第 58 回日本図書館情報学会研究大会シンポジウム記録「図書館・博物館・文書館の連携をめぐる現状と課題」. 日本図書館情報学会誌 56(4): 220-224.

持田誠. Poter 4514 の車両番号に関する考察. 小樽市総合博物館紀要. (2011)

52. 山本玉樹

札幌農学校研究思想の研究・普及活動、新渡戸稲造研究。

山本玉樹. 白夜を超えて届けられた自由な学問精神と平和の絆. 白夜 (31): 2-4. (2010)

山本玉樹. 韓国併合 100 年. 朝鮮新報.

53. 吉田忠生

藻類標本のラベル貼付、配架、整理。

吉田忠生. 日本産海藻類目録 2010 年改訂版. 藻類 58: 69-122. (2010)

＜平成22・23年度の新聞報道記録＞

＜平成22（2010）年度の新聞報道記録＞（セミナー開催告知は除く。）

1	北海道新聞	4月15日	花が結んだ日露交流
2	北海道新聞	4月26日	採掘から建築まで 札幌軟石を学ぼう
3	北海道新聞	4月28日	見て触れて 札幌軟石
4	北海道新聞	5月6日	札幌軟石 加工楽しむ
5	建設新聞	5月7日	札幌軟石は文化遺産
6	北海道新聞	5月10日	札幌軟石 独特の風格
7	北海道新聞	5月10日	骨格標本は語る①
7	北海道新聞	5月11日	北大に明治期の石標本
8	読売新聞	5月11日	120年前の道内鉱物標本
9	毎日新聞	5月11日	北大に岩石鉱物標本
10	北海道新聞	5月14日	大地の歴史 地域のお宝
11	北海道新聞	5月25日	明治時代の標本石を発見
12	北海道新聞	6月7日	骨を極める 緻密な自然の美に感動
13	北海道新聞	6月11日	恐竜研究の最前線解説
14	北海道新聞	6月14日	骨格標本は語る②
15	北海道新聞	7月12日	骨格標本は語る③
16	読売新聞	7月20日	アラスカ恐竜ど迫力
17	北海道新聞	7月25日	アラスカ恐竜の「渡り」探る
18	読売新聞	8月7日	恐竜の模型ビルと競演
19	北海道新聞	8月8日	北大構内の遺跡群巡る
20	北海道新聞	8月9日	骨格標本は語る④
21	読売新聞	8月11日	紙細工研究者お墨付き
22	北海道新聞	8月29日	「北の国境」見つめ直す
23	北海道新聞	9月3日	分類学から環境考える
24	北海道新聞	9月3日	恐竜の姿、迫力満点！
25	北海道新聞	9月3日	復元図、模型 リアルに
26	北海道新聞	9月7日	歩いて学んだ北大の遺跡群
27	北海道新聞	9月13日	骨格標本は語る⑤
28	北海道新聞	11月8日	骨格標本は語る⑥
29	読売新聞	12月7日	韓国で新種恐竜化石
30	北海道新聞	12月7日	新種の角竜と確認
31	毎日新聞	12月8日	韓国に「コリアケラトプス」
32	北海道新聞	12月13日	骨格標本は語る⑦
33	読売新聞	1月19日	メダル公開 ノーベル賞公式レプリカ
34	朝日新聞	1月19日	レプリカですが・・・偉業を展示
35	北海道新聞	2月14日	骨格標本は語る⑧
36	北海道新聞	2月17日	「絵の中の北大」あすから作品展
37	北海道新聞	2月19日	市民らが描いた北大
38	北海道新聞	3月14日	骨格標本は語る⑨
39	北海道新聞	3月27日	親子キャンパスツアーも

＜平成23（2011）年度の新聞報道記録＞（セミナー開催告知は除く。）

1	毎日新聞	4月6日	鈴木章名誉教授—ノーベル賞への軌跡
2	北海道新聞	4月6日	鈴木さんの業績紹介
3	朝日新聞	4月7日	母なる豊平川 その成り立ち
4	北海道新聞	4月11日	骨格標本は語る⑩
5	北海道新聞	4月18日	豊平川 もっと身近に
6	北海道新聞	5月3日	言語保存こそ使命
7	北海道新聞	5月9日	骨格標本は語る⑪

8	北海道新聞	5月14日	昆虫の世界にふれてみよう
9	北海道新聞	5月18日	泥まみれの標本救え
10	北海道新聞	5月29日	鈴木名誉教授たたえるセミナー「継続すること大切」
11	北海道新聞	6月6日	北大構内の林で昆虫の世界学ぶ
12	北海道新聞	6月13日	骨格標本は語る⑫
13	北海道新聞	6月21日	昆虫標本修復が完了
14	北海道新聞	7月11日	骨格標本は語る⑬
15	北海道新聞	7月14日	世界のチョウ 進化に触れる
16	北海道新聞	8月8日	骨格標本は語る⑭
17	北海道新聞	8月18日	恐竜わたしの愛し方③
18	北海道新聞	8月22日	起源と進化謎解きの鍵は
19	北海道新聞	9月7日	北大に鈴木さん常設展
20	朝日新聞	9月8日	偉業を見る
21	北海道新聞	9月12日	骨格標本は語る⑮
22	北海道新聞	10月8日	北大総合博物館入館70万人突破
23	北海道新聞	10月9日	北大構内の遺跡探訪
24	朝日新聞	10月22日	北大の倒木ポプラ 響く音色
25	北海道新聞	11月14日	骨格標本は語る⑯
26	北海道新聞	11月15日	中国の歩み ポスターで
27	北海道新聞	12月12日	骨格標本は語る⑰
28	北海道新聞	12月20日	雷鋒さんと写真を撮ろう！
29	北海道新聞	1月10日	恐竜が鳥類へどう進化？
30	北海道新聞	1月16日	骨格標本は語る⑱
31	北海道新聞	2月4日	“雪博士”の回顧展続々
32	北海道新聞	2月15日	紀伊国屋書店でサイエンス・カフェ
33	北海道新聞	2月21日	鈴木名誉教授の研究実験など通じ学ぼう
34	北海道新聞	3月7日	学生ポスター発表会(卓上四季)
35	北海道新聞	3月17日	130年前の植物50標本
36	北海道新聞	3月21日	ノーベル賞の研究学ぶ

＜平成２２・２３年度の予算状況＞

単位：千円

事 項	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度
(教員研究費)				
教員研究費	7,727	8,989	5,774	5,543
外国人等経費	339	336	333	330
外国人招へい及び帰国旅費	0	0	0	0
図 書 費	173	381	230	228
予 備 費	0	0	0	515
小 計	8,239	9,706	6,337	6,616
(事務運営費)				
事務管理費	0	0	0	0
小 計	0	0	0	0
(運営費)				
外国人赴任旅費	383	393	260	0
運営旅費	879	1,028	490	462
消耗品費	1,206	1,034	507	450
備 品 費	0	0	0	0
印 刷 費	1,543	1,489	662	59
郵 便 料	726	796	766	448
電 話 料	188	189	192	220
役 務 費	10,694	9,595	9,278	9,237
賃 金	2,061	2,119	2,706	3,412
光熱水料	1,777	1,777	1,777	1,777
営 繕 費	429	275	606	200
予 備 費	0	1,000	2,081	0
小 計	19,886	19,695	19,325	16,265
重点配分経費	24,900	24,900	24,900	24,900
合 計	53,025	54,301	50,562	47,781

単位：千円

区 分	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
運営費交付金	51,279	49,681	45,721	46,057

外部資金受入状況等

【科学研究費採択状況】 単位：千円

【科学研究費分担金一覧（他機関から受領する分）】 単位：千円

年 度	件数	金 額
2010年度	3 件	10,660
2011年度	6 件	11,900

年 度	件数	金 額
2010年度	4 件	1,183
2011年度	2 件	570

【受託研究受入状況】

単位：千円

年度	件 名	相手方	金 額
2010 年度	レブンアツモリソウの自生地復元に必要な植物 共生生態系の解明	独立行政法人 森林総合研究所	1,345
2011 年度	レブンアツモリソウの自生地復元に必要な植物 共生生態系の解明	独立行政法人 森林総合研究所	1,745

【奨学寄付金委任経理金の受入状況】

【総合博物館支援基金】

単位：千円

単位：円

年 度	件数	金 額
2010年度	3 件	1,165
2011年度	0 件	0

受入年度	受入金額
2010年度	856,328
2011年度	729,500